

●国際連合大学 2013-2014 年国際教育交流事業●

韓国教職員招へいプログラム

実施報告書

東京都・奈良県奈良市・東京都稲城市・和歌山県橋本市・石川県小松市・大阪府

2014 年 1 月 19 日(日) — 1 月 27 日(月)

国 際 連 合 大 学 (UNU)
公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター (ACCU)

はじめに

国際連合大学(United Nations University)は、持続可能な人類の安全保障、気候変動、開発、平和構築など、国連とその加盟国が直面している、喫緊の地球規模の諸問題の解決への取り組みに、研究、教育、能力開発、知識の普及を通じて寄与することを目的とする国連機関です。

国際連合大学は、2002年に主にアジア太平洋地域の教職員や教育分野の専門家等の資質の向上と相互理解の促進を目的とし、日本政府からの拠出金をもとに「日本国際教育交流プロジェクト」を開始しました。2000年に設立された「ユネスコ青年交流信託基金」で実施されていた「韓国教職員招へいプログラム」は、同年より本事業のもとで開催されることとなり、同大学からの委託を受けてユネスコ・アジア文化センター(ACCU)が実施を担当し、昨年まで13回にわたり、約1,550名の韓国の教職員を日本に招へいしてきました。

今回の国際連合大学国際教育交流事業・韓国教職員招へいプログラムは、2014年1月19日(日)から1月27日(月)までの9日間にわたり、韓国の小・中・高等学校の教職員等118名を我が国に招へいしました。このプログラムは学校およびその他の教育・文化施設を訪問・見学することにより、日本の教育制度およびその現状についての理解を深め、ひいては、両国の相互理解と友好を促進することを目的としています。

実施にあたりましては、文部科学省、韓国ユネスコ国内委員会、韓国教育部、および奈良県奈良市・東京都稲城市・和歌山県橋本市・石川県小松市の各教育委員会、訪問先の学校、その他の教育・文化施設等、多数の方々の多大なるご支援とご協力をいただきました。ここにあらためて関係の皆様方に厚く御礼申し上げます。

2014年3月
国際連合大学
公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター

目次

第Ⅰ章 実施内容

1. 全体プログラム(東京)…………… 5
2. グループ・プログラム(各市)…………… 12
3. 全体プログラム(大阪)…………… 28

第Ⅱ章 コメントと提案

1. 韓国教職員…………… 35
2. 受入れ教育委員会…………… 51
3. 主な受入れ学校および機関…………… 53

付録

1. 実施要項…………… 66
2. プログラム日程…………… 68
3. 参加者リスト…………… 74
4. 関係機関リスト…………… 82
5. 文部科学省講義資料…………… 86
6. 過去のプログラム実績…………… 99

第1章 実施内容

1. 全体プログラム(東京)
2. グループ・プログラム(各市)
3. 全体プログラム(大阪)

1.全体プログラム（東京）

1.来日、オリエンテーション（第1日）

「韓国教職員招へいプログラム」の参加者118名は、2014年1月19日（日）に来日した。同日、滞在先の飯田橋レインボーホール 7 階会議室にて、オリエンテーションが行われた。

はじめに、公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）人物交流部部長の佐々木万里子氏から参加者に歓迎のあいさつが述べられた後、各グループに随行する ACCU 担当スタッフが紹介され、最後に、ACCU 職員よりプログラム日程の説明や滞在ガイダンス等が行われた。

2.開会式（第2日）



開会式

プログラム第2日の1月20日（月）、開会式が行われた。はじめに訪問団を歓迎して、本事業主催者である、国際連合大学事務局長の秋葉正嗣氏よりあいさつがあり、今年で14回目となる本プログラムによって、昨年までに1,550名以上の教職員の交流が実現したことに言及しつつ、「持続可能な取組み」と「相互理解の推進」というプログラムの理念について話した。また、自身も昨年の日本教職員の韓国派遣プログラムで韓国を訪問し、この場で韓国参加者を歓迎できることを大変嬉しく思っていると述べた。そして今回のプログラムを通して教職員が学びを深めること、それを活かしてESDの発展に貢献することを期待する、とあいさつを締めくくった。



国際連合大学事務局長秋葉正嗣氏

続いて文部科学省の国際統括官、加藤重治氏よりあいさつがあった。このプログラムは2000年3月に当時の文部大臣であった中曽根弘文氏が韓国を訪問し、両国の交流を増進する目的で始まったことに触れながら、2014年は「国連持続可能な開発のための教育の10年」の最終年となり、11月には、日本政府とユネスコの共催で「ESDに関するユネスコ世界会議」が日本で開催されることを紹介した。更に今回のプログラムにより、国際間・学校間での交流活動が深まることを期待する、と述べた。



文部科学省 加藤重治国際統括官

韓国教職員訪日団の団長である安洋玉（アン・ヨンオク）氏よりあいさつがあった。昨年までに1,550名以上の韓国教職員を招いていたことに感謝するとともに、本プログラムが更なる日韓教育交流のスタートとなることを期待し、参加者は帰国後にこの体験を教育に活かしていただきたいと述べた。また、昨今の日韓

情勢を踏まえて、より積極的な交流が必要であると述べた。



安洋玉団長

最後に、駐日本国大韓民国大使館の金甫燁(キム・ボヨップ)参事官からあいさつがあり、日韓両国は、共に五輪の開催が予定されており、アジアを牽引するリーダー的ポジションであることについて述べた。そして現在の日韓関係は決して良いとは言えないと指摘した上で、本プログラムのような草の根活動・教育現場での実践の意義について言及し、参加者を激励した。



駐日本国大韓民国大使館 金甫燁参事官

3.(1) 講義 I (第 2 日)

「日本の中等教育の現状について」

文部科学省 初等中等教育局 初等中等教育企画課 企画係長 栗山 和大

開会式に続いて、同会場にて日本の初等中等教育について、文部科学省の講義が行われた。講師は 2013 年夏の韓国政府日本教職員招へいプログラムに参加した栗山和大企

画係長であった。講義内容は、以下の通りであった。

- 1) 日本の中等教育の基礎知識について
 - ①学校数、在籍者数、教員数
 - ②在籍者数・進学率の経年変化
 - ③少子化について
 - ④義務教育の仕組みについて
 - ⑤教育行政制度について
 - ⑥教育委員会について
 - ⑦教育基本法について
 - ⑧学習指導要領について
 - ⑨改定事項について
 - ⑩教員養成・免許制度について
- 2) 日本の現状認識
 - ①少子化・高齢化の進展
 - ②子どもの貧困層の上昇
 - ③日本の国際的な存在感の低下
- 3) 今後の課題や必要とされる指針
 - ①グローバル人材育成
 - ・英語教育を強化するための動き
 - ・スーパーグローバルハイスクールの指定(国際的なリーダーを育てるための学校。平成 26 年度に 50 校の指定)
 - ・留学への支援
 - ・「聞く」「読む」力を中心とした英語教育
 - ・小学校 3 年から週 3 コマ程度の英語の時間を設置
 - ②教育基盤の充実
 - ・教職員の質と数・・・最重要
 - ・教職員の指導体制
 - ・メリハリのある給与体制
 - ・教員の研修の仕組み作り(質の向上)
 - ③高等教育改革
 - ・中間層の勉強時間が大きく減少
 - ・大学に行く子どもが増えているのに、勉強時間が減少
 - ・「大学入試のために」高校生が勉強する＝一定の学力が維持されるというモデルの崩壊
 - ・大学入試によらない、高等学校教育の量・質の確保
 - ・学習の達成度の把握のための仕組み(学力テスト)作り
 - ・高校の無償化制度の見直し。授業料だけではなく、教科書代なども給付金

制度へ

- ・私立学校に通う低所得者への支援

④いじめ・体罰の根絶

- ・「いじめ防止対策推進法」
- ・許される「懲戒」と許されざる「体罰」の
区別
- ・運動部活動での指導ガイドライン
- ・道徳という教科への注力

その後の質疑応答では、韓国教職員から「日本の学生が海外旅行しているのをよく見かけるが、なぜ内向きといえるのか」という質問が挙がり、それに対し栗山企画係長は、日本は国内市場の規模の大きさ、過去の経済発展、島国という特性によって、あえて海外に出て行く必要性の少ない状況が長く続いていたことを説明した。



文部科学省 栗山和企画係長

(2) 講義Ⅱ(第2日)

「日本におけるESDの推進について」

文部科学省 国際統括官付

ユネスコ第二係長 加茂下 祐子

開会式に続き同会場にて、日本におけるESDの推進について、文部科学省の講義が行われた。講師は2013年夏の韓国政府日本教職員招へいプログラムに参加した加茂下祐子ユネスコ第二係長であった。講義内容は、以下の通りであった。

1) 持続可能な開発のための教育

- ①万人のための教育 EFA という取組
- ②ミレニアム開発目標の2番目と3番目に
教育の重要性が明記されている

③21世紀教育国際委員会において、「学習：秘められた宝」を発表し、その中で4つの柱を示している

④2004年～2014年は、「ESDの10年」ユネスコが主導機関となり、ESDを推進している

⑤最終年の本年、「ユネスコ世界会議」が日本で予定されている

⑥文科省の「教育振興基本計画」の中でESDの推進が明記されている

⑦2012年にユネスコスクールガイドライン作成

⑧ESD オフィシャルサポーターに日本国内で有名な人物を起用

2) 我が国のユネスコスクール

- ・加盟校数の推移 15校→647校
- ・半数以上が小学校
- ・大学間ネットワーク(ASPUnivNet)
- ・ユネスコスクールの激増により、質の確保が必要になり、ガイドラインが設けられる
- ・ユネスコスクールの状況

3) ESDへの取組

- ①日本/ユネスコパートナーシップ事業
- ②日韓教職員交流
- ③日米教員交流
- ④Japan ESD Award: ESDに係る
グッドプラクティス校を表彰

4) ESDに関するユネスコ世界会議

- ①名古屋市で閣僚級会合
- ②岡山市で各種ステークホルダーの会合
- ③高校生フォーラム(世界33ヵ国)
- ④教員フォーラム
- ⑤全国大会



文部科学省 加茂下祐子ユネスコ第二係長

4. 歓迎交流会(第2日)

同日18時より、同ホテル2階の「万里」において国際連合大学主催・文部科学省協力・ACCU運営による歓迎交流会が開催された。

式では、文部科学大臣政務官の上野通子氏をはじめ、本プログラム設立のきっかけをつくった元文部大臣の参議院議員中曽根弘文氏、国際連合大学サステナビリティ高等研究所より所長の竹本和彦氏、韓国教職員訪日団の団長である安洋玉氏、ACCU理事の高坂節三氏があいさつした。



文部科学省 上野通子文部科学大臣政務官

上野通子文部科学大臣政務官は、日韓はお互いに重要な隣国同士であるということを踏まえ、日韓両国の教職員同士が活発に交流を行い、教育をはじめ幅広い分野で緊密な協力関係を構築し信頼関係を強化することがアジアの、そして世界の繁栄につながるとし、参加者には各々の勤める学校の児童・生徒、同僚たちに本プログラムの経験を伝えてほしいと述べた。

また、中曽根議員からは、このプログラムは、2000年3月に文部大臣として初めて韓国を訪問し、当時の教育部長官、文龍鱗(ムン・ヨンリン)氏との合意に基づき開始したのもであると紹介した。そのうえで、当プログラムには強い思い入れがあり、かけがえのない日韓両国の絆が更に深まっていくことを心から祈念する、と参加者を激励した。



中曽根弘文参議院議員

来賓からは、訪問団を歓迎し、本プログラムにおいて日本の教職員や児童生徒と交流し大いに学び、帰国後に活かしてほしい、とのあいさつがあった。その後、来賓より訪問団の安団長に記念品の贈呈が行われ、訪問団からも記念品が贈られた。

韓国教職員は終始、他グループの参加者や日本側出席者と、和やかに懇談を楽しんでいた。



交流風景(歓迎交流会)

5. 学校、教育文化施設訪問（第3日）

(1)A グループ

慶應義塾高等学校

プログラム第3日の1月21日(火)、李明鎬(イ・ミョンホ)氏をグループ長とするAグループの韓国教職員29人は、慶應義塾高等学校を訪問した。

同校は1948年に設立された生徒数約2,200名、各学年18学級からなる男子校で、人材の豊富さと個性の多様性が特徴的である。また、創設者の福澤諭吉の精神に則り、独立自尊の気風に富み、自主性と気品を重んじ、将来「全社会的先導者」となる人材の育成を教育の目的としている。

一行が到着すると、羽田功校長から歓迎のあいさつの後、古川晴彦教諭より学校概要の説明があった。それに対して訪問団代表からお礼の言葉が述べられ、学校側に記念品が贈呈された。その後は学校施設見学に移り、一行は通常の授業を行っている教室や、特別教室棟、プラネタリウムのほか、広大で自然豊かなキャンパス内を散策した。

続いて、3年生の英語のクラスで韓国教職員が韓国の焚き火(オンドル)について、クイズ形式の授業を行った。生徒達は授業を通して韓国文化への興味を深め、時折質問をする生徒も見られた。交流授業の後、韓国教職員からは生徒達に対して、大学受験がない代わりにどのようなことに取り組んでいるのか、韓国では親の意思で進路を決めることが多いが同校の生徒はどうなのか、などの質問が挙がった。

これらの交流を通じ、韓国の教職員からは、同校の生徒は活発で明るく、身なりもきちんとしていて、学習環境の良さが伺えるとの感想が述べられた。

昼食を挟み、午後は同校教職員との意見交換の場が設けられた。訪問団からは主に、「教員の任期について」、「校長の任命について」、「教員の研修制度について」、「大学受験に代わる生徒への課題について」などの質問が挙がった。最後に全員で記念撮影を行った後、一行は同校を出発した。



交流授業でオンドルの話をする韓国教職員(慶應義塾高等学校)

(2)B グループ

桜美林中学校・桜美林高等学校

プログラム第3日の1月21日(火)、金斗煥(キム・ドゥファン)氏をグループ長とするBグループの韓国教職員30人は、桜美林中学校・桜美林高等学校を訪問した。

同校は、1921年に中国・北京で創設された朝鮮・中国・日本の子どもたちが共に学ぶ崇貞学園に起源を持つ、プロテスタントの学校である。この流れは1946年に桜美林学園が東京に設立されてから現在まで続いており、同校では韓国・中国との交流が今でも頻繁に行われている。

訪問団員が到着すると、大越孝校長から歓迎のあいさつがあった。続いて藤崎堅信副校長が学校説明を行い、生徒たちの学生生活や作品等を、映像を交えて紹介した。

次に、伊藤隆久事務長が訪問団員らに同伴して各教室を回り、クラスや授業内容、施設等について説明した。一行はこの時に中学校舎、高校校舎、特別校舎などを見学した。その後の昼食の時間は学食体験とし、高校食堂で生徒たちがいつも食べている定食を食べた。

昼食後、中学校舎のエントランスで生徒たちによる歓迎演奏があった。生徒が韓国語であいさつ、司会を行い、吹奏楽や打楽器の演奏をそれぞれ披露した。各コンクールや交流活動ですばらしい成績を収めている生徒たちの演奏に訪問団員らも聞き入り、喝采を送った。演奏が終わると、訪問団員らは生徒たちにお礼とエールを送った。

午後、訪問団一行は校長、教頭、教育委員

会らの管理者グループと、教職員のグループの2手に分かれ、それぞれ懇談会を行った。

管理者側のグループでは、「教師の役割とは何か」、「日本のクラブや心理カウンセラーの状況」、「入試について」等のテーマについて話し合っていた。教職員側のグループでは、「生活指導」、「入学条件」、「生徒の罰則や処分対象について」等のテーマについて話し合われ、互いに活発な意見を交わし合っていた。

最後に、桜美林学園全体の施設紹介が行われ、訪問団員らは学校のグラウンド施設やチャペル等を見学してから学校を後にし、バスで東京都の稲城市近郊の宿泊ホテルへ向かった。



記念品贈呈。大越孝校長(右)と金団長(左)(桜美林中学校・桜美林高等学校)

(3)C グループ 青山学院高等部

プログラム第3日の1月21日(火)、金貞淑(キム・ジョンスク)氏をグループ長とするCグループの韓国教職員30人は、青山学院高等部を訪問した。

同校は創立から137年を迎え、キリスト教信仰に基づき幼稚園から大学院までを擁する一貫教育を実施している。

訪問団員が到着後、西川良三高等部部長が歓迎のあいさつをし、続いて学校説明を行った。その後に設けられた質疑応答の時間には、卒業生の進路、入試制度について訪問団員側から質問があった。次に一行は校舎を視察し、図書館、PC室、防災備蓄倉庫、職員室等を見学して回った。PS講堂では、毎日全校生

徒が出席する高等部の礼拝に参加した。

その後、一行は2グループに分かれて学校見学を行った。小学校・中学校の教員を中心としたグループは、初等部・中等部の校舎へ行き、初等部および中等部の授業を見学した。授業見学が終わると、初等部・中等部の教職員との意見交換の場が設けられた。

一方、高校の教員を中心としたグループは、高等部にて高等部の教員との意見交換を行った。質疑応答では、学校間交流の進め方について、今の待遇に満足しているか等、日韓双方からさまざまな質問が挙がった。その後、一行は特色ある授業として環境科学、現代社会特講の授業を見学した。

2グループは高等部校舎で再度集合し、6グループに分かれ、高等部の生徒と共に昼食をとった。互いに日本語、英語、韓国語を駆使し、スマートフォンで写真を見せたりしながら和やかな雰囲気でのコミュニケーションを図っていた。昼食後、一行はPS講堂にて、同校の英語スピーチコンテストで最優秀賞を受賞した生徒の英語スピーチを聞いた。その後、高等部の幹部教員が講堂に集まり、訪問団員らと最後の意見交換を行った。

最後に訪問団代表が歓迎に対するお礼を述べ、同校へ記念品を贈呈した後、一行はバスで羽田空港へと出発した。



PS講堂にて教員との意見交換(青山学院高等部)

(4)D グループ 横浜市立永田台小学校

プログラム第3日の1月21日(火)、趙顯鍾(チョ・ヒョンジョン)氏をグループ長とするDグループの韓国教職員28人は、永田台小学校を訪問した。

同校は1974年に創立され、教職員33名、児童数は487名である。横浜市中心地から近いベッドタウンに位置し、周囲は全て住宅街であるため、緑豊かで静かな環境の小学校である。2010年に横浜で初めてユネスコスクールに加盟し、以降熱心にESDを取り上げ、「命の授業」を全学年で実施している。

訪問団一行が到着後、全員が職員室に入り、住田昌治校長が歓迎のあいさつ、そして簡単な学校紹介と教職員紹介を行った。それに対し、趙団長が返礼のあいさつを行った。その後一行はランチルームに移動し、永田台小学校の学校概要の紹介を受けた。続いて設けられた質疑応答の場では、訪問団員から児童たちが通っている塾についての質問が挙がった。

その後、体育館にて全校児童が集まって歓迎会が行われた。韓国語での歓迎の言葉に始まり、児童による学校の紹介、校歌の合唱が行われると、それに対して訪問団員からも歌や演奏が贈られた。歓迎会の最後に記念品の交換があった。

歓迎会后、再びランチルームに戻り、一行は住田校長より永田台小学校のESDの取組みと、「命の授業」の具体例について説明を受けた。ゴミの削減を地域コミュニティと取り組んでいる点や、絶滅危惧種のメダカ育成について、農作業への取り組みなどに関する説明があった。これに対し訪問団員からは、ESDについての保護者の反応や、授業数が減るのではないかと、というような質問が投げかけられていた。その後一行は、2グループに分かれ授業参観を行った。

そして、4時間目は訪問団員らが8クラスに分かれて授業を行った。授業では、韓国の子どもの様子やパワーポイントで見せたり、韓国の遊びを紹介したり、韓国語を教えたりした。児童たちはとても熱心に授業に参加し、各教室から聞こえる歓声が学校中に響き渡っていた。日本の児童たちとの交流を体験した訪問団員は、明るく無邪気に遊ぶ児童を見て羨ましいと話していた。

昼食時は、訪問団員が各クラス2人ずつに分かれて給食を一緒にとり、一行は児童たちと日本語・英語・韓国語を交えてコミュニケーションを取っていた。その後、最後に訪問団代表が歓迎に対するお礼を述べ、一行はバスで羽田空港へと出発した。



児童に韓国語を教える訪問団員(横浜市立永田台小学校)

2. グループ・プログラム (各県・市・町)

1. Aグループ: 奈良県奈良市

方背(バンベ)中学校の校長李明鎬(イ・ミンホ)氏をグループ長とする A グループは、1月22日(水)から25日(土)までの4日間、奈良県奈良市を訪問した。同市教育委員会の協力により、小学校2校、中学校1校、大学1校と、奈良国立博物館を訪問した。

❖教育長表敬訪問・オリエンテーション

プログラム第4日の1月22日(水)午前、訪問団一行は奈良市教育センターに赴き、奈良市教育委員会の中室雄俊教育長の表敬訪問を行った。中室教育長は、同市は韓国の慶州市と姉妹都市であり、韓国は1,300年以上にわたる交流がある大切な隣国であると述べた。更に今回の学校訪問やホームビジットを通じてお互いの違いや共通点を見出し、実りある滞在ができることを祈るとあいさつした。それに対して李グループ長から返礼のあいさつがあり、ESDに力を注いでいる奈良市を訪問させていただき光栄であるという感謝の意が述べられた。更に同席していた教育委員会の職員のあいさつがあった後、李グループ長と中室教育長が記念品交換を行った。

休憩を挟み、同教育委員会学校教育課教育推進係の西口美佐子指導主事より、奈良市の教育概要についての説明があった。奈良市では、「世界遺産学習」、「小学校ハローイングリッシュ」、「30人学級」、「幼小連携、小中一貫教育」を推進している。中でも「世界遺産学習」については、奈良らしい教育の中核としてESDの視点を取り入れ、世界遺産に登録されている「古都奈良の文化財」を未来に受け継いでいこうとする子どもを育てる教育を目指している。また、世界遺産学習を切り口に、国際理解教育、環境教育、人権教育、平和教育、地域遺産教育等へも取り組んでいる。そして更に世界遺産学習を広めるために、同市で世界遺産学習全国サミットを開催していることも紹介された。西口指導主事の説明を受け、韓国教職員からは、世界遺産学習への学校での具体的な取り組みについて、ユネスコスクール加盟校数について、高校進学率についてなど

多数の質問が寄せられた。



歓迎の挨拶をする中室教育長(奈良市教育センター)

❖奈良国立博物館

午後は、奈良国立博物館を訪問した。奈良市では小学校5年生が世界遺産学習の一環として同館を訪れ、仏像をはじめとする展示物について、それらがどういう形で日本に伝わったのか、未来に残すにはどうしたら良いのか、などについて学習している。

一行が到着すると、まずはボランティアガイドから実際に小学校5年生に実施するものと同様の説明を受けた。続いて3グループに分かれ、ボランティアガイドからより詳しくわかりやすい案内を聞きながら、仏像館を1時間程度かけて見学した。

その後「奈良外国語観光ガイドの会」協力のもと、韓国語ガイドの案内により、奈良公園と東大寺の視察を行った。



ボランティアガイドによる案内(東大寺)

❖ 歓迎夕食会

同日午後 6 時より、訪問団の宿泊先であるホテルフジタ奈良にて夕食会が開かれた。奈良市側からは、奈良市教育委員会学校教育部長の北保志氏、学校教育課長の梅田真寿美氏ほか、各訪問校の校長や教員などが出席した。

はじめに北教育部長から歓迎のあいさつがあり、続いて李グループ長のあいさつ、そして梅田学校教育課長の乾杯の音頭で歓談が始まった。夕食会の途中には、各訪問校の出席者による学校の紹介が行われたほか、昨年夏、韓国政府による日本教職員韓国訪問プログラムに参加した教員が韓国での経験を語る場が設けられるなど、終始和やかな雰囲気で行われた。最後には、韓国側より歌が披露され、会を締めくくった。



歌を披露する韓国教職員(歓迎夕食会)

❖ 奈良市立並松小学校

プログラム第 5 日の 1 月 23 日(木)午前、一行は奈良市立並松小学校を訪問した。同校は全校児童 59 名の小規模校で、自然豊かな奈良市東部の山間に位置する、創立 140 周年を迎える小学校である。ふるさと学習や伝統継承、福祉学習を進めており、現在ユネスコスクールへの申請を検討中であるという。

一行が到着すると、日本と韓国の国旗を手にした児童達に温かく迎えられた。まずは、井本章子校長より歓迎のあいさつと学校概要の説明があった。続いて堀井崇晴教諭より、同校特別支援学級の「太陽学級 2 組」についての説明がなされた。同校には化学物質過敏症の児童が在籍しているため、そういった子どもに対する学校独自の対応策や、日々の活動についても詳しい説明があった。その後、質疑応答

の時間が設けられ、訪問団からは児童の登校圏内について、校長の在職年数について、給食費について、地域との連携について、学習意欲のない児童に対するサポート体制についてなど幅広い質問が挙げられた。

その後、2 グループに分かれて授業・校内見学が行われた。給食はランチルームにて全校児童と共にし、訪問団員らも子どもたちもお互い楽しんでいる様子であった。

午後は全校児童による歓迎交流会が催され、低学年は地域に伝わる「いっばいだましのお話」の発表、中学年はふるさと学習で学んだ「ゼニヤクボ遺跡と米作り」の発表、高学年は「わたしたちのまち奈良と並松」の発表を行った。当日は授業参観を兼ねており、韓国教職員のほか、保護者や地域の方達が子どもたちの発表を楽しみに見に来ていた。

発表後、保護者や訪問団員からは、地域のことについて子どもたちから教わり、感心したという声が上がった。更に、「これからも自分達の住んでいる地域のことをたくさん知って好きになってもらいたい」、「みんなに発信してもらいたい」などの感想が述べられた。また、お礼として訪問団員からは韓国宮廷舞踊がもとになっている「花冠舞」が披露され、児童たちは興味深く見入っている様子であった。最後に学校への記念品贈呈、全員での写真撮影が行われ、一行は児童たちに見送られながら同校を後にした。



児童たちと記念撮影(奈良市立並松小学校)

❖ 奈良教育大学

同日夕方、一行は奈良教育大学を訪問した。同学は日本で最初にユネスコスクールへの加盟が認められた大学として、ESD の理論研究を行うほか、ESD が指導できる教員の養成、

現職教員の ESD 研究支援、生涯教育における ESD の推進などに取り組んでいる。

はじめに、長友恒人学長の訪問団歓迎のあいさつがあり、訪問団代表からは今回の訪問に対するお礼の言葉が述べられ、同学へ記念品が贈られた。続いて中澤静男専任講師が文化遺産を通した ESD についての理論と、その理論に基づいた取り組みについて紹介を行った。質疑応答の後、ユネスコクラブに所属する学生達 10 名程の協力のもと、訪問団員らは 3 グループに分かれて、インドネシアの楽器アングルの演奏練習を行った。30 分程度の練習時間であったが、各グループとも「アリラン」や「エーデルワイス」の演奏を披露できるまでに上達し、短い時間でお互いの距離を縮め、交流を深めていた様子であった。その後、奈良市内のユネスコスクールの教員 10 名程度が加わり、学力、ESD、教員評価、保護者への対応などについて意見交換が行われた。



学生と共にアングルを演奏し、交流を深めた（奈良教育大学）

❖奈良市立伏見小学校

プログラム第 6 日の 1 月 24 日（金）午前、一行は奈良市立伏見小学校を訪問した。同校は全校児童 650 名で、創立 135 年を迎えている。今年度の学校教育目標のサブテーマを「地域遺産・世界遺産学習に取り組み、地域を誇りに思う子どもを育てる～6 年間を通した世界遺産・地域遺産学習～」とし、研究テーマ「子どもが活きる授業づくり」を活性化・深化させる指導を目指している。

一行が到着すると、川邊けい子校長より歓迎のあいさつがあり、訪問団代表からも訪問に対するお礼の言葉が述べられ、同校へ記念品が贈られた。続いて、川邊校長より学校概要およ

び ESD の取り組みの紹介があった。また、ESD の具体的な実践報告として、吉岡啓美教諭が伏見遺産学習について、山中淳代栄養教諭が食育と関連付けた世界遺産学習についてそれぞれ発表を行った。

質疑応答の後休憩を挟み、訪問団員が 2 名ずつ 6 年生の 4 クラスに入り、それぞれ「シルム（相撲）について」、「韓服について」、「ハンゲルと歌について」、「タックヂチギ（面子）について」という内容の授業を行った。授業はボランティア通訳の協力のもと、映像やスライド、模造紙などを活用して行われた。児童たちも紙やハサミを使って制作をしたり、韓国の伝統的な衣装を着せてもらったりしており、授業が終わる頃にはお互いすっかり打ち解けている様子であった。

交流授業の後は、通常の授業見学や、体育館にて行われていた作品展見学を行った。給食は 6 年生 4 クラスの児童たちとそれぞれの教室に分かれて共にし、その後更に清掃の様子を見学した後、一行は次の訪問先へ向け出発した。



交流授業にて、韓服を紹介する韓国教職員（奈良市立伏見小学校）

❖奈良市立飛鳥中学校

同日午後、一行は奈良市立飛鳥中学校を訪問した。同校は 1984 年に開校した中学校であり、校区には世界遺産の春日大社や元興寺など多くの文化財が点在している。また奈良市小中一貫教育パイロット校として飛鳥小学校と小中協働の組織運営を行っており、学習部会で決定した取り組みや方向性を実践・報告・検証すると共に、授業や年間行事においても盛んに教職員・児童生徒の交流を行っている。また、地域力を生かした学校運営（地域

と共にある学校)を目指し、コミュニティ・スクール準備委員会の設置や、地域住民と生徒との協働作業、地域住民による生徒への放課後の指導「ささえ隊」の立ち上げ等に取り組んでいる他、進路指導の一環として外部人材による模擬面接指導を行っている。更に、学校施設の防災力強化プロジェクトとして、生徒による学校施設の点検・補修や、地域防災訓練への積極的な参画を促している。

一行が到着すると、竹原康彦校長と梅元雅人教頭が出迎え、図書室へ案内された。はじめに竹原校長より歓迎のあいさつと学校概要についての説明がなされ、その後部活動見学へと移った。同校の部活動は運動部と文化部併せて 14 部あり、卓球、バスケットボール、吹奏楽の部活見学では、訪問団員が生徒に混ざって交流を深める姿も見られた。また、訪問当日は飛鳥小学校 6 年生が部活動見学に訪れており、どの部に興味があるのか児童たちに質問する団員もいた。

再び図書室に戻ると、次に同校生徒会による防災の取り組みについての発表があった。この発表では、生徒による校内安全点検、点検結果を受けての図書室改革、緊急時の備えとして救急バッグの作成、地域自主防災訓練への参加等について紹介された。訪問団一行は、生徒が自主的に防災意識を持って活動していることに対して感心した様子であり、発表後は温かい拍手を送っていた。

質疑応答後、学校と生徒達へ記念品が贈られ、訪問団代表からお礼の言葉が述べられた。また、学校からは訪問団員一人ひとりに対し、同校創立 30 周年記念のゆるキャラ「アスッペン」をモチーフにしたパンが贈られた。最後に中庭にて全員で記念撮影を行い、一行は学校を後にした。



生徒会による防災の取組の発表(奈良市立飛鳥中学校)

❖情報共有会、ホームビジット

プログラム第 7 日の 1 月 25 日(土)、一行は宿泊先であるホテルフジタ奈良にて情報共有会を行い、翌日の報告のための発表資料の準備をした。

情報共有会が終了する頃には、ホームビジット受入れ家庭がロビーに迎えに来ており、訪問団員らはそれぞれの受入れ家庭へと出発した。約半日という短い時間であったが、各家庭で食事をご馳走になったり、家族と一緒に買い物に出かけたり、奈良の町並みを散策したりと温かいもてなしを受け、訪問団員らは日本の文化に触れることができた様子であった。受入家庭の多くが訪問校の教職員や教育委員会の職員、韓国政府による日本教職員韓国訪問プログラムに参加した教職員で、教員同士の会話は共通点も多く、非常に盛り上がった様子であった。

ホームビジット終了後は、それぞれのホストファミリーに宿泊先ホテルまで送り届けられ、別れを惜しみながら、一行は報告会の会場である大阪へと向かった。

2. B グループ: 東京都稲城市

ハクサン女子中学校の金斗煥(キム・ドゥファン)校長をグループ長とした B グループは、1 月 22 日(水)から 25 日(土)までの 4 日間、東京都稲城市を訪問した。同市教育委員会の協力により、小学校 2 校、中学校 1 校のほか、郷土資料室(古民家)、クリーンセンター(ごみ処理施設)を訪問した。同市教育委員会の竹之内勝指導主事は 2013 年夏に、韓国政府による日本教職員韓国訪問プログラムに参加しており、本プログラム担当の細谷俊太郎指導主事とともに韓国側のニーズによく対応したスケジュールを組んでいた。

プログラム第 3 日の 1 月 21 日(火)、一行はバスで東京都多摩市にある宿泊先のホテルへ向かった。

❖稲城市立稲城第四中学校

プログラム第 4 日の 1 月 22 日(水)、B グループ一行は、朝、宿泊ホテルを出発し、東京都の西部に位置する稲城市の、1 つ目の訪問

校である稲城市立稲城第四中学校を訪問した。稲城市立稲城第四中学校は、1985年に設立し、今年で29年目を迎える。稲城市の名産である梨畑が点在する、自然豊かな地域の中にある中学校である。また、学校訪問中は稲城市教育委員会から、細谷俊太郎指導主事が同席した。

訪問団一行が到着すると、杉本真紀子校長と松田秋久副校長に迎えられ、学校説明会場となった図書室では、生徒の手書きの歓迎の看板に出迎えられた。また、机の上には桜や富士山などのカードが飾られており、あたたかな雰囲気の中、杉本校長が韓国語で歓迎のあいさつを行い、続いて学校紹介が行われた。その後設けられた質疑応答の時間には、「学校と地域活動の結びつき」、「授業やシステムなどの日韓の違い」、「給食と地産地消の関係」、「教師としての喜び」等の質問が挙がり、それぞれのテーマについて話し合われた。意見交換が終わると、一行は通常行われている授業の2校時と3校時の英語、数学、技術、音楽等の各授業を見学し、合わせて学校の施設や設備を見て回った。訪問団員らは生徒の展示物、時間割なども興味深く視察している様子であった。

2校時、3校時の初めには、訪問団の代表教員が教壇に立って、ハングルの紹介を行ったり、韓服を着た団員らがブランコをイメージした創作舞踊を踊ったりして、韓国の文化を生徒らに披露した。また音楽の授業では、一行は生徒たちと日本語で「ふるさと」を合唱した。

一通り授業見学を終えると、グループ長の金斗煥(キム・ドゥファン)氏から稲城第四中学校の歓迎に対する感想とお礼が述べられ、記念品が贈呈された。訪問団員らは杉本校長と松田副校長に見送られて学校を後にし、バスで稲城市役所に向かった。



手製のハングルで挨拶をする杉本校長(稲城市立稲城第四中学校)

❖稲城市教育長表敬訪問・オリエンテーション

同日、訪問団員一行は稲城市教育委員会のある稲城市役所へ向かった。

稲城市は、東京都心部から約25km、車や電車で約30分のところに位置するベッドタウンであり、人口約8万6千人を擁する。特産品の梨をモチーフにしたキャラクターの稲城なしのすけが有名である。また近年では、電車路線や道路の拡充等により人口が急増し、古くからの里山と新興住宅地が共存している。

教育委員会への表敬訪問では、教育長の小島文弘氏のあいさつの後、記念品交換が行われた。続いて細谷俊太郎指導主事が、稲城市の概要と教育概要について説明を行った。稲城市では市内全ての小・中学校がユネスコスクールに申請しており、地域の人々と連携し、市民総がかりで2050年の大人(未来の担い手)づくりをモットーに、子どもたちを育てている。また稲城市では、東日本大震災以降、防災にも力を入れており、子どもたちが自ら防災の準備を行い、自ら適切な判断ができるよう教育を行っている。

その後、稲城なしのすけが訪問団員のために来場し、一行と握手をしたり、記念撮影をしたりして会場を和やかにした。



教育概要の説明（稲城市役所）

❖稲城市立稲城第六中学校

訪問団員一行は稲城市役所を後にして、バスで稲城市立稲城第六中学校に向かった。同校は、平成 11 年に設立した比較的新しい学校である。その外壁はレンガ造りで、内装には都内では類を見ないほど木材を多く使っており、温かく機能的な造りの校舎となっている。そのため勉学はもとより、クラブ活動も優れた環境のもとで実施することができるようになっている。同校ではクラブ活動が活発で、市民大会や地区大会で優勝するなどの活躍をしている。

訪問団一行は、学校の放課後の時間にあたる 16 時頃、稲城第六中学校を訪問した。図書館を会場にして、校長の北川英一氏があいさつし、続いて学校の概要を説明した。そして、日本の学校におけるクラブ活動の意義と役割について語った。北川氏は訪問団員に対して、「クラブ活動は、技術だけでなく精神面の育成にも大きく寄与している。また、お金のない子も気軽にチャレンジできるため、生徒の多様性と可能性を広い視野のなかで育成できる」と述べた。

その後実際に、一行は文科系クラブ、運動系クラブの両方を見学した。各教室で吹奏楽部、美術部(作品)を見学した他、体育館と校庭ではバレー部、剣道部、陸上部、野球部等の活動を見て回った。韓国の学校には、クラブに該当する活動がないため、訪問団員らは興味深そうにクラブ活動の様子を見学し、引率の先生や活動中の生徒に何度か質問したりしていた。

一通りのクラブ活動を見学した後、図書室に戻って質疑応答の場が設けられた。そして訪問団員からは、北川校長に記念品が贈呈され

た。最後に、階段脇にある大きな生徒の作品の前で、全員で記念撮影を行った。そして一行は稲城第六中学校を後にした。



生徒の作品を見学する団員ら(稲城市立稲城第六中学校)

❖歓迎夕食会

同日の終わりに、訪問団員一行は多摩永山情報共有センターに設けられた歓迎夕食会会場に向かった。

出席者は、教育委員会から加藤明教育部長、千葉正法指導室長、細谷俊太郎指導主事、竹之内勝指導主事、訪問学校から稲城第四中学校の杉本真紀子校長と羽田和生教諭、稲城第六小学校の石川清一郎校長と戎勝一副校長、稲城第二小学校の石川育代副校長と高垣大介主幹教諭である。

訪問団の女性教職員は、韓国の伝統服の韓服で歓迎会に参加した。稲城第四中学校の杉本校長も、訪問団に借りた韓服に身を包んで参加していた。夜景の美しい会場では、竹之内指導主事の司会による稲城市側参加者会の紹介とあいさつで歓迎交流会が始まった。食事と歓談の途中、訪問団から金団長のあいさつがあり、続いて、女性教職員による踊りの披露、男性教職員によるアリランやふるさとの歌の披露があった。日本側からも歌で応え、笑顔と歌で交流を深めた。



日韓教職員の歌の交流(歓迎夕食会)

❖ 稲城市立稲城第二小学校

プログラム第5日の1月23日(木)午前、Bグループ一行は、稲城市立稲城第二小学校を訪問した。同校は130年あまりの歴史を持つ学校で、ESD活動が活発に行われ、国際交流が盛んである。

一行が到着すると、校長の松坂章二氏から歓迎のあいさつがあり、訪問団の金団長からは松坂校長へ記念品の贈呈が行われ、続いて全員で記念写真を撮影した。

教室を移した会場では、教員によって稲城第二小学校のESD活動について詳しく説明された。その後、一行は体育館で、全校児童による群読と歌を聞いた。児童みんなで作った群読の「あったとき」と、稲城第二小学校に合わせた替え歌「ふるさと」の元気な声に、訪問団員らは大きな拍手を送った。

3校時目の交流授業の時間は、1年生から6年生までの6クラス全ての教室に訪問団員らが教師として教壇に立ち、折り紙、韓国の伝統、文化、遊び、キャラクターの紹介や韓国舞踊の紹介等の授業を行った。さまざまに工夫を凝らした訪問団員による授業に、児童たちは興味深く聞き入ったり、参加したりしていた。この交流の様子はNHKの取材を受け、その晩のニュースにもなった。

同校の訪問を終え、訪問団員らは昇降口から校門まで続く子どもたちの手で作るアーチをくぐって、笑顔で握手をしながら次の目的地に向かうバスに乗り込んだ。



韓国の折り紙を教える団員ら(稲城市立稲城第二小学校)

❖ 稲城市郷土資料室

稲城市立稲城第二小学校を出発したBグループ一行は、稲城市郷土資料室に向かった。この資料室は、古い校舎を利用しており展示場所自体が歴史の一部と言える。稲城市の自然、原始古代から現代までの歴史、民俗、教育と標本資料の分野を、テーマ毎に分けて展示している。稲城市教育委員会統括指導主事の並木茂男氏が、稲城市の歴史や展示物について説明を行い、団員らはそれを興味深く聞き、展示物を見て回っていた。



稲城市の郷土資料室を見学する団員ら(稲城市郷土資料室)

❖ 地域教育懇談会、学校支援コンシェルジュ連絡会

次に、Bグループ一行は、稲城市の定例集会の地域教育懇談会と、学校支援コンシェルジュ連絡会を見学するために、会場の平尾小学校に向かった。地域教育懇談会と学校支援コンシェルジュ連絡会は、稲城市が地域ぐるみで子どもたちを育成することを目標に行われている取り組みである。

学校では既に地域懇談会が始まっており、各種学校の校長や副校長など教職員代表、

PTA 代表、文化施設の館長、民生委員のほか、自治会やふれあいセンターなど地域の協力者らが多く参加していた。訪問団員らは2種類の会を見学した後、会の構成、会のテーマや開催場所等について質問し、稲城市の地域と学校の結びつきについて学んだ。



稲城市の地域交流会(定例集会)を見学する団員ら(稲城市立平尾小学校)

❖稲城市立稲城第六小学校

プログラム第6日の1月24日(金)午前、稲城市立稲城第六小学校を訪問した。同校は1975年に設立され、今年4月に創立40周年を迎える。

一行が到着すると、校長の石川清一郎氏からあいさつがあり、学校説明がなされた。その後、5年生の児童から訪問団に「アリラン」の歌のプレゼントがあった。一行は日本の子どもたちの歌うアリランに顔をほころばせていた。

続いて一行は、2校時の通常授業の見学を行った。休み時間になると訪問団員らも校庭に出て、子どもたちと一緒になわとびをして楽しんだ。更に3校時目の通常授業を見学した後、質問の時間が設けられた。

続いての時間は、当日在校している各クラスに訪問団員らが入り、韓国の伝統遊び、伝統文化や流行文化等についての授業を行った。訪問団員らは身振り手振りに加え、ICTなどの機器を活用しながら、積極的に児童らと交流を図っていた。

給食の時間は、各教室に訪問団員らが2、3人ずつ入り、給食に出た納豆の食べ方や、飲み終わった牛乳パックの潰し方などを子どもたちに教わるなどしながら、楽しい時間を過ごした。

最後に、一行は昇降口で児童らと一緒に記

念撮影を行い、バスでクリーンセンター多摩川へ向かった。



児童との給食交流(稲城市立稲城第六小学校)

❖クリーンセンター多摩川

クリーンセンター多摩川は家庭などから集められたゴミを燃やし、再利用可能な資源を回収するために作られた施設である。ここでは焼却する際の熱を利用して、電気や温水を作っている。この施設は、常時見学を受入れており、稲城市近郊の学校の子どもたちや一般市民が、施設を見学しながら環境問題と再資源活用について学んでいる。

一行が同センターに到着すると、総務課の梶原崇喬氏と篠崎忠久氏からあいさつがあり、まずは施設についての説明DVDを全員で見た。その後、訪問団員らは実際に施設を歩いて見学した。一行は目の前にあるゴミの山やそれを焼却する各種施設について、各自活発に質問しながら見学していた。



日本の環境保全技術の説明を聞く(クリーンセンター多摩川)

❖情報共有会、ホームビジット

稲城市での最終日となるプログラム第7日

の1月25日(土)、Bグループ一行はホテルをチェックアウトし、稲城市立中央図書館に併設する城山体験学習館に向かった。

約1時間半の情報共有会の後、訪問団一行は、稲城市のホームビジットの受入れ家庭と対面した。ホームビジットの受入れ家庭は、稲城市教育委員会と学校からの呼びかけで集まったボランティアの15家庭である。また、交流を促進しようと、韓国語のボランティア通訳も6名集まった。

稲城市立図書館館長の毛塚是則氏からあいさつがあった後、ACCUよりホストファミリーへの説明が行われ、訪問団員はそれぞれの家庭に向かった。昼食をはさんでのホームビジットでは、短い時間ながら、日本の心や文化に直接触れるあたたかい時間を持つことができた。ホームビジット終了後はそれぞれのホストファミリーが城山体験学習館に再集合し、大阪へ出発する訪問団一行に手を振りながら笑顔で見送ってくれた。



訪問団を見送るホームビジット受入れ家族たち

3. Cグループ: 和歌山県橋本市

春川(チュンチョン)教育大学附属小学校の金貞淑(キム・ジョンスク)校長をグループ長としたCグループは、1月22日(水)から25日(土)までの4日間、和歌山県橋本市を訪問した。同市教育委員会の協力により、小学校2校、小中一貫校1校、中学校を併設する高等学校1校、パイル織物資料館、高野山を訪問した。同市教育委員会学校教育課の森下まちこ指導主事は2013年夏に、同社協昌義指導主事は2012年夏に、韓国政府による日本教職員韓国訪問プログラムに参加しており、和やかな雰囲気で行われた。

プログラム第3日の1月21日(火)、青山学院高等部訪問後、羽田空港から空路で大阪国際空港に到着した一行は、バスで奈良県五條市にある宿泊先のホテルへ向かった。ホテルでは、橋本市の森下指導主事、辻脇指導主事が参加者を出迎えた。

❖教育長表敬訪問・オリエンテーション

プログラム第4日の1月22日(水)午前、訪問団一行は教育文化会館において、橋本市教育委員会の松田良夫教育長への表敬訪問を行った。松田教育長からは橋本市のESDの紹介とともに、この交流をきっかけとして日韓両国の教職員間や学校間の新しい友好の輪が広がることを期待するとのあいさつがあった。

続いて、訪問団を代表し忠清南道(チュンチョンナムド)教育庁の兪永徳(ユ・ヨンドク)主任指導主事から、橋本市を訪問できることへの感謝と訪問の学びを期待するとのあいさつがあり、その後、訪問団から松田教育長へ記念品が贈られた。

表敬訪問に引き続き、学校教育課の辻脇指導主事より橋本市の概要紹介があり、橋本の地名の由来などについて説明があった。橋本市の紹介DVDでは、橋本市の職員、教員、地域住民が橋本市のさまざまな場所で踊りながら市を紹介する「恋するフォーチュンクッキー橋本市編」の映像も鑑賞した。学校教育課の今田実課長より橋本市の教育概要の説明が行われ、小中学校の状況、教育目標、活動方針などについて話があった。「連続性と連携」をテーマに、小中が連携した学校教育を縦の連携、地域との連携を横の連携として、つながりと学びによる「共育」のまちづくりを目指していると説明した。さらに、「橋本市教育フォーラム」を開催し、教育に関わる教職員、保護者、地域住民にこのような考え方を共有していることも紹介された。質疑応答では、学校と地域、保護者との関わりについて、少子化の問題への対策について、高校進学について、創造力を高める取り組み(総合的な学習の時間)について、ICTを活用した地域保護者との連携などについての質問が韓国側からあった。



松田教育長によるあいさつ（教育文化会館）

❖橋本市立橋本小学校・中学校

オリエンテーション後、一行は橋本市立橋本小学校・中学校を訪問した。同校は平成 19 年度より小中一貫教育に取り組み、小学校高学年におけるゆるやかな教科担任制の導入、低・中学年でのチームティーチングの充実、また小中兼務教員による授業交流の実施など 9 年間の育成を視野に入れた実践を行っている。2013 年 4 月より、小学校が中学校と同一敷地内に新築開校した。

訪問団員一行が到着すると、南知孝小学校長、辻正雄中学校長より歓迎のあいさつがあり、体育館での歓迎式典が行われた。拍手をもって迎えられた一行は、校長からの歓迎のあいさつに続き、小学校の児童会と中学校の生徒会から歓迎の言葉を受けた。その後、小学校 5 年生による合唱と、中学の吹奏楽部による演奏があった。最後に小学校の児童より訪問団一人ひとりに記念品の贈呈があり、それに対して訪問団を代表し、ウネン高等学校の李海錫（イ・ヘソク）校長がお礼のあいさつを述べた。

式後は、訪問団員が 2 名ずつ 1 クラスに分かれ、小学校の各教室で児童と給食を食べた。訪問団員らは、言葉の壁はあっても、スマートフォンの家族の写真を見せ、片言の日本語を使うことで児童と交流を図っていた。給食後は児童の清掃の様子も視察し、児童が自分で教室や廊下を掃除する姿を訪問団員は感激すると共に熱心に視察していた。

給食後、2 グループに分かれて、同校の特色である交流授業の見学を行った。中学校の教員が指導する小学校の音楽、理科、小学校の教員が指導する中学校の美術、家庭の授業をそれぞれ見学した。授業見学が終わると、多目的室に移動し、小中一貫教育の説明を辻正

雄中学校長より受けた。その後、5 グループに分かれて、通訳協力者の協力も得て、日本の教員との意見交換を行った。小グループであったため、各グループともにざっくりばらんな意見交換が行われており、児童・生徒の指導、教職員の待遇や異動、不登校の問題などについて意見交換をした。

最後に金グループ長から受入れに対するお礼のあいさつがあり、小学校と中学校それぞれへ記念品が贈られた。記念撮影の後、同校の職員に見送られ、一行は学校を後にした。



日韓教員の意見交換会(橋本市立橋本小学校・中学校)

❖歓迎夕食会

同日午後 6 時より、橋本商工会館にて夕食会が催された。訪問団員の多くは韓服に着替えており華やかな夕食会となった。開会前に、松田教育長を中心とした教育委員会職員と有志による踊りが披露され、会場が一気に和やかな雰囲気になった。その後、辻脇指導主事の司会の下に会が始まり、初めに松田教育長より歓迎のあいさつ、そして訪問団員を代表して金グループ長よりお礼のあいさつがあり、乾杯と共に和やかな懇談が始まった。各テーブルでは、ホームビジットでお世話になるホストファミリーや訪問先の学校教員との会話を楽しむ姿が見られた。ひとときの懇談の後、韓国政府日本教職員招へいプログラムに参加した橋本市の教員による、AKB48 の「恋するフォーチュンクッキー」の披露があった。次に訪問団員による「プサン港へ帰れ」の合唱、曹斗煥(チョ・ドンファン)氏によるハーモニカの演奏が披露され、会場が盛り上がった。

❖和歌山県立橋本高等学校・古佐田丘中学校

1月23日(木)午前、一行は和歌山県立橋本高等学校・古佐田丘中学校を訪問した。同校は併設型の中高一貫教育学校で、高等学校は明治44年創設の高等女学校を前身としており、平成23年に創立100周年を迎えている。校訓は自治と自由であり、高校の教育目標は、個人の尊厳を重んじ真理と平和を希求する創造性豊かな人間を育成することである。中学校の教育目標は、心身ともに逞しく豊かな心と確かな学力をもち広い視野に立って社会の変化に主体的に対応できる生徒を育成することである。

到着すると、玄関で生徒会の歓迎を受け、会議室に入った。北浦健司校長からのあいさつが終わると、生徒会執行部のメンバーによる学校紹介が行われた。生徒が自分たちの学校を紹介するという積極的な様子は訪問団員に大きな印象を与えた。質疑応答の時間を越えても、短い休憩時間にもかかわらず、一部の訪問団員は、勉強と生徒会の両立などについて熱心に生徒に質問をしていた。

次に1グループで韓国の学校のESDの取り組みについて、訪問団員2名が発表した。済州(チェジュ)第一中学校の金南守(キム・ナムス)副校長は、配慮を通したグローバル人材育成をテーマとし、社会的に配慮が必要な人のための活動や済州島にある漢拏山(ハルラサン)の生態保全教育について紹介した。ハンソル中学校の朴芝玄(パク・ジヒョン)教諭は、「自然を教室に、体験を教室に、未来を教室に」と題し、ESDの一環として行っているキムチの漬け込み祭り等の取り組みを紹介した。

続いて、訪問団員の発表に対して、日本側の教員から学校におけるESDのテーマ設定はどのようにしているか、ESDが国の政策にどのように活かしているか等について質問が挙がった。また北浦校長からは、訪問団員に対して学校教育でのタブレットなどのICTの利用頻度、ICTの弊害を取り除く取り組みについて質問があった。

最後に、金グループ長から訪問受入れに対するお礼のあいさつがあり、記念品が北浦校長に贈られた。大勢の生徒、教員に見送られ、記念写真を撮った後、訪問団員は学校を後にした。



生徒会による学校紹介(和歌山県立橋本高等学校・古佐田丘中学校)

❖高野山

一行はバスで学文路(かむろ)駅まで移動し、電車とケーブルカーにて高野山に向かった。高野山では、現地のボランティアガイドの案内のもと、壇場伽藍を視察し、奥之院を散策した。雪であたり一面雪化粧しており、一行は景色も楽しみながら視察を行った。



伽藍にて(高野山)

❖橋本市立あやの台小学校

プログラム第6日の1月24日(金)午前、一行は橋本市立あやの台小学校を訪問した。同校は新興住宅地内に2013年度に開校し、防災、環境、バリアフリーに配慮した校舎となっている。同校の榊洋史教諭は2013年夏の韓国政府による日本教職員韓国訪問プログラムの参加者である。

一行が学校に到着すると、広い玄関ホールで全校児童による歓迎の集会があった。佐藤昌吾校長より歓迎のあいさつがあり、続いて児童会長による歓迎の言葉があった。次に、全校児童による校歌斉唱、4年生による合奏が披露された。子どもたちの純粹で熱心な姿に、涙ぐみながら聴く訪問団員もいた。最後に、訪

問団を代表しウネン高等学校の李海錫(イ・ヘソク)校長がお礼を述べた後、記念品を贈呈し、記念撮影を全校児童と共にいった。

続いて、訪問団員は2グループに分かれ学校施設見学を行った。日本の民話を英語で発表する外国語授業や、屋外プール、学年ごとにさまざまな農作物を育てている学級園を見学した。屋外プールは日本の公立の小学校にはほぼすべての学校にあるが、韓国では稀であるため、訪問団員は熱心に見学していた。

最後に、多くの教職員や児童に見送られ、一行は次の訪問校へと向かった。



玄関ホールにて全校児童と（橋本市立あやの台小学校）

❖ 橋本市立高野口小学校

1月24日(金)午後、一行は橋本市立高野口小学校を訪問した。同校の岡泰子教諭は2013年夏の、土田恵久教諭は2012年夏の韓国政府による日本教職員韓国訪問プログラムの参加者である。到着すると一行は図書室に案内され、その後、井澤清校長の先導で体育館での歓迎式典に出席した。松山武彦教頭の司会進行の下、井澤校長からの歓迎のあいさつ、児童代表の歓迎のあいさつに続き、児童による「アリラン」の合唱や「冬のソナタ」のテーマソングの合奏の演奏が披露され、訪問団員も一緒に口ずさんでいた。最後に児童全員が体育館の舞台下に集合し、訪問団を囲んで記念の集合写真を撮影した。

休憩後、図書室にて井澤校長による学校説明が行われた。高野山への玄関口として発達した高野口の歴史から近代の発展の様子を紹介し、その中で発達した学校の歴史が紹介された。同校は築76年の木造の校舎であるが、高野口のシンボルとしての保存運動のおかげで最近全面改修工事が施され、本年度国重

要文化財に指定されている。井澤校長は、「学校を開放して、地域住民と一緒に子育てを進める」ことをモットーに学校経営にあたっていると述べた上で、学校開放を進める母体としての「学校運営協議会」の取り組みについて紹介した。

また、同校の教育活動の特色の一つである「いま昔プロジェクト」について詳細な説明があった。本プロジェクトは、歴史や文化遺産を知り、地域の人と交流して郷土愛を育み、将来を担う若者を育てたいというプロジェクトであり、そのための学習活動がさまざまに行われている。これらの取り組みによる子どもたちの変化、地域住民の変化についても紹介があった。

続いて、訪問団は13クラスに分かれ、2名ずつクラスに入り、児童と給食をとった。給食後は、清掃や休憩時間の様子を視察した。

その後、1年生から6年生までと特別支援学級合わせて13クラスに訪問団員が2名ずつ入り、韓国の伝統遊び、食べ物、衣服、学校生活などについて授業を行った。通訳がつかないため、訪問団員はビジュアルを活用したり、できる範囲で日本語を使うよう準備してきており、クラスでは日本語を読み上げたり、黒板に日本語を書いたりし、さまざまに工夫している様子が見られた。訪問団員らは、授業前は緊張していた様子であったが、児童たちと授業を通して心を通わせることができ、授業後は達成感のある表情が見られた。

最後に訪問団を代表して金グループ長より訪問受入れに対するお礼のあいさつがあり、学校長に記念品が贈られた。国重要文化財に指定された木造校舎を背に記念撮影をした後、多くの教職員、児童に見送られ、一行は学校を後にした。



訪問団員による授業(橋本市立高野口小学校)

❖パイル織物資料館

一行はパイル織物資料館を訪問し、地域の特産の一つである「再織」を3人1組で実際に体験した。限られた時間であったが、訪問団員らは楽しみながら体験しており、完成した作品は記念にプレゼントされた。



再織体験（パイル織物資料館）

❖合同夕食会

同日、一行は食彩らくやにて、教育委員会の今田課長、辻脇指導主事らとともに合同夕食会を行った。堅苦しくなくざっくばらんな雰囲気、日韓の教育や文化の違いについて膝を交えて話し合う機会となった。

❖ホームビジット

プログラム第7日の1月25日(土)、一行は教育文化会館にて情報共有会を行い、翌日の報告のための発表資料を整えた。

共有会后、同会場にて、ホストファミリーとの対面式に臨んだ。辻脇指導主事の司会により、ホストファミリーへの説明のあと、訪問団員の名前が書かれた紙を掲げながら、対面を行った。その後、訪問団員はホストファミリーと一緒に武道場へ移動し、橋本市職員を含む3名による日本の居合道、杖道の説明と実演があった。昨年の本プログラムで、今回の演者である山本和樹氏の家をホームビジットで訪れた訪問団員が、朝鮮古来の兵法である「朝鮮勢法」を披露し、親交の証として刀を受け取った経緯があり、今回はその恩返しの意味もこめて訪問団員へ演武を披露した。

演武の後、訪問団員らはそれぞれの家庭に向かった。10時半頃からの昼食をはさんでのホームビジットで、通訳協力者の協力もあり、

それぞれの家庭と心の通う交流をすることができた。訪問先は、訪問した学校の教職員や保護者、あるいは教育委員会職員の家庭が選ばれていたことも交流の促進に寄与した。ホームビジット終了後は、訪問団員らはそれぞれのホストファミリーにより教育文化会館まで送り届けられた。



名前を掲げながら韓国の先生を呼ぶホストファミリー

ホームビジット終了後、橋本市教育委員会の今田課長、森下指導主事、辻脇指導主事ほか教育委員会のメンバーが集まり、訪問団員に最後のあいさつを行った。一行は教育委員会やホストファミリーに見送られ、名残を惜しみながら橋本市を後にした。

4. Dグループ：石川県小松市

趙顯鍾(チョ・ヒョンジョン)氏をグループ長とするDグループは、1月22日(水)から25日(土)までの4日間、石川県小松市を訪問した。同市教育委員会の協力により、小学校1校、中学校1校、高等学校1校、サイエンスヒルズこまつを訪問した。

プログラム第3日の1月21日(火)、横浜市立永田台小学校訪問後、羽田空港から空路で大阪国際空港に到着した一行は、石川県小松市に向かった。

❖小松市立安宅小学校

プログラム第4日の1月22日(水)、Dグループの訪問団員28人は、石川県小松市立安宅小学校を訪問した。

同校は名勝「安宅の関」に近く、児童たちも歌舞伎の「勸進帳」の舞台であることを知って

いるほど、歴史を身近に感じている。新校舎になってから10年弱でとても綺麗な校舎であり、特別支援学級の生徒にも配慮した設備が作られている。

一行が到着すると、会議室にて木下靖彦校長のあいさつがあり、続いて坂下和之教務主任が1日の予定を説明した。その後、体育館で行われる全校集会(歓迎式)に向かい、生徒たちから詩吟、金管オーケストラの演奏等が披露された。そして訪問団からは、韓国民謡・愛唱歌の合唱が贈られた。

3時間目、一行は2グループに分かれて授業参観と校舎施設の見学を行った。その後の4時間目は、訪問団員が6学年12クラスに分かれてそれぞれ授業を行った。一行は韓国の子どもたちの様子を映したパワーポイントを見せたり、韓国の遊びや季節ごとのお祝い、流行の歌手、そして韓国からキムチを持参してキムチの味等について授業を行ったりした。大変バラエティに富んだ授業となり、児童もとても満足そうな様子であった。訪問団員らはその後一旦教室の外に出て、児童が給食の準備をしている間、改めて校舎を見て回り、掲示板の壁新聞等を撮影していたが、準備ができると再び教室に戻って、児童と一緒に給食をとった。

給食後は児童の掃除を見学し、会議室に戻った。続いて木下校長による安宅小学校の説明を聞いた。安宅小学校では、児童の虫歯をなくす生活指導を熱心にしており、虫歯の撲滅が学校教育と家庭教育を結ぶ絆であるという説明があった。これには訪問団員もとても共感し、早速韓国の学校でもこの運動を始めたいとのコメントがあった。

更に一行は多目的室に戻り、広い絨毯敷きの広間で、児童会の児童を招いて懇親会を行った。一行は児童たちに対して宿題、塾、先生の叱り方、テレビゲーム遊びの頻度、将来の夢などについて多くの質問をしたが、児童らは皆素直に接し、学校の中にはいじめなどの問題を聞いたことがないという返答があった。韓国の児童は勉強熱心だが、逆にTVゲームにばかり興じる子どもが社会問題になっているという話があった。

最後に会議室にもどり、木下校長のあいさつを受けた後、趙グループ長の返礼があり、お互いに記念品を交換した。玄関の前で日韓教職員が集まって記念撮影をした後、一行は安宅小学校を後にした。



韓国教職員による韓国の文化についての授業(小松市立安宅小学校)

❖小松市長表敬訪問

プログラム第5日の1月23日(木)、Dグループ一行は石川県小松市長および教育委員会を表敬訪問した。

午前9時、小松市役所に到着した一行は会議室にて、小松市教育委員会のオリエンテーションを受けた。坂本和哉小松市教育委員会教育長の歓迎のあいさつに始まり、パワーポイントにより小松市の概要および教育概要について説明がなされた。質疑応答では、訪問団員から高校進学率や他県への移動数などが質問され、それに対し教育委員会からは、小松市の生徒たちはほぼ全員が小松市の高校に通い、大学進学する生徒も多くが石川県内に進学するという返答があった。

そのまま一行は応接室に移動し、市長との面会に臨んだ。和田慎司小松市長は「これからも一層の日韓友好に寄与したい。小松市から韓国の距離は東京よりも近いので、是非韓国からもっといらっしゃって欲しいし、小松市からももっと訪問すると思います」と述べた。訪問団員からは趙団長があいさつし、「訪問団員と日本の教職員がもっと近い立場で話し合い、よりより教育を目指し、日韓がもっと友好的になれば良い」と返礼した。その後記念品を交換し、市長・教育長を交えた写真撮影を行った後、一行は市役所を出発し次の訪問地である小松市立芦城中学校へ向かった。



坂本教育長の挨拶（小松市役所）

❖小松市立芦城中学校

その後、一行は石川県小松市立芦城中学校を訪問した。同校は小松市立芦城小学校と隣接しており、同小学校のほとんどの生徒が芦城中学校に通うことになる。また同校は、徒歩圏に芦城公園があり、市立図書館、博物館、美術館が点在している住宅街に位置している。また地域との連携が強く、家庭・地域と学校の3者で教育に取り組んでいることが特徴である。

一行が到着すると、多目的ホールにて坂谷敦子校長からあいさつがあり、それに対して趙グループ長からの返礼があった。そして記念品を交換した後、宮本徹教頭からパワーポイントを使って学校概要についての説明があり、質疑応答へと進んだ。訪問団員からは、生徒たちの受験勉強の様子や、小松市以外の高校に進む生徒の割合についての質問が挙がった。宮本教頭からは、ほぼ全員が高校へ進学し、その高校もほぼ全て小松市内であるとの回答があった。

4時間目は授業参観となり、訪問団員は2グループに分かれ、数学、英語、体育、理科の授業、保健室や教員室を見学した。その後の給食には各クラスから2名の生徒が同席し、訪問団員と英語を交えながら談笑していた。生徒たちは皆静かで、教職員たちが驚くほどのマナーの良さだった。

給食後の休憩時間になると、一行は自由に中学校内を見て回り、その後再び授業見学となった。一行は、同校では中学校でも主要科目以外の教科が多いことに気がつき、心身を共に鍛えていく、という考え方に共感していた様子であった。その後、訪問団員らは全校生徒が待つ体育館に移動し、全校集会のゲスト

として参加すると、生徒会長からの歓迎の言葉の後、吹奏楽部による演奏が贈られた。そして、訪問団員からは、パワーポイントを使っての「韓国の学校生活や生徒の様子」の説明が行われた。ほとんど日本と変わらぬ光景や、遊びの様子、授業の様子、ファッションなどの写真一つひとつに生徒からは歓声が上がっていた。

一行は休憩の後、部活動の見学に向かい、美術部、剣道部を見学した。茶道部ではお抹茶を体験した。最後に全員が集まって記念撮影が行われ、一行は同校を後にした。



茶室にてお抹茶体験（小松市立芦城中学校）

❖サイエンスヒルズこまつ

プログラム第6日の1月24日(金)、Dグループ一行は「サイエンスヒルズこまつ」の、ひとものづくり科学館・こまつビジネス創造プラザを見学した。同館の展示それぞれが小松市の産業に直結しており、またその対象企業が出展しているという施設である。これらは小松駅に隣接した小松市を中心とした科学・工業展示館であり、グランドオープンが3月であるが、今回特別に見学できることとなった。

まずは3Dスタジオで360度の映像が見えるという映像館で、宇宙の成り立ちを学習した。その後、一行は物理(滑車・テコ)、電気、気象、光などそれぞれの展示場で、展示物を実際に手にして体験していた。施設では主に小学生・中学生を対象としているが、訪問団員らも楽しみながら小松市の産業を学習している様子であった。その後、一行は小松市立高校へ向かった。

❖小松市立高等学校

同日、一行は石川県小松市立高等学校を訪問した。同校は小松市唯一の市立高等学校で

あり、普通科芸術コースが設置された高等学校である。小松市のキャッチコピー「歌舞伎の町小松」で使われるシンボルマーク「いよっ小松！」は、歌舞伎の舞台化粧からヒントを得て同校生徒が製作したデザインである。実際にこのマークは街角や小松市のホームページ、市職員の名刺等で広く使用されている。また、元々創立時は女子校だったことから、とても明るい雰囲気的高等学校である。

一行が小松市立高等学校に到着すると、会議室で歓迎式典が行われた。式典では、音楽科の男子生徒の歌、合唱、吹奏楽とレベルの高い演奏の披露があった。その返礼として、予定にはなかったが、訪問団員もピアノと横笛を使った演奏を披露した。

その後、鈴木一恵校長からあいさつがあり、趙グループ長から歓迎のお礼を述べた後記念品の交換があった。続いて福岡茂雄教頭から学校概要の説明があり、芸術コース設置の意義、進路状況、普通科の進路状況等について説明がなされた。韓国では芸術コースを設置した高等学校は珍しく、私立高校で数校しかないという。そういった珍しさもあったためか、訪問団員からは進路についてさまざまな質問が挙がった。

教職員と一緒に昼食をとった後、生徒会代表が会議室にやってきて、生徒との質疑応答コーナーが開かれた。ここでも生徒の将来についての質問が多く挙がり、生徒たちが一様に、小松市または石川県内で進学・就職をすると回答すると、訪問団員らは「なぜ東京や海外には行かないのか」等と質問をしていた。それに対し生徒たちは、石川県から出て行くイメージがないと答えており、それを聞いた訪問団員からは、韓国の生徒の価値観とは異なっていて興味深い、との感想があった。

昼食後は授業を見学する他、英語の授業(単語ゲーム・百人一首の英語訳当て)に参加するなどしていた。特に芸術コースの授業を一行はとても興味深そうに見学していた。更に美術科では、大学卒業後の就職先についての質問や、大学進学についての質問を先生や生徒にしていた。

部活動の時間になると、各活動に訪問団員に積極的に参加してもらい、一行は生け花、琴、茶道、書道等の体験をした。最後には書道部の見事な書道パフォーマンスを見学し、一行は大きな拍手を送った。

最後は会議室に戻り、お互いにお礼のあいさつを交わした後、全員が集まって記念撮影をし、一行は小松市立高校を後にした。



書道部のパフォーマンス（小松市立高等学校）

3.全体プログラム（大阪）

1. 報告会(第 11 日)

プログラム第 8 日の 1 月 26 日(日)、大阪国際会議場 10F 会議室 1001~1002 にて、報告会が行われた。式には、訪問団の他、国際連合大学の秋葉正嗣事務局長、文部科学省大臣官房国際課の今里讓課長、大阪韓国教育院の宋鍾錫(ソン・ジョンソク)院長、および 2013 年 8 月の韓国政府日本教職員招へいプログラムで訪韓した日本教職員 10 数名が日本側来賓として出席した。

報告会では、C、D、A、B グループの順番で、各グループ代表より逐次通訳を含み 20 分ずつプログラムの感想、成果等についての発表が行われた。各グループの報告は以下の通りである。

—C グループ—

まず C グループを代表し、ウネン高等学校の李海錫(イ・ヘソク)校長より発表があった。橋本市を訪問した C グループは、グループの活動目的として、21 世紀の ESD の推進方法および教育の懸案事項の解決方法の模索を挙げ、それが文化交流を通じた国家間の相互理解の増進および協力強化の一助になると述べたうえで、学校訪問およびグループでの活動を以下のようにまとめた。

- 日本の初等中等教育は、「未来が要求する力を育成するための環境整備」という大きなタイトルの中で推進されていて、訪問した橋本市の教育推進政策は、「人間育成は地域全体が一緒にする」という大きな枠組みの中で実質的な 21 世紀の市民の養成に注力していた。
- 青山学院では宗教活動を通じた分かち合いと配慮の精神教育の強化、国際交流を通じたグローバル人材の育成、スポーツ活動の強化を通じた健康な学生の育成に力を入れていた。
- 橋本市では小・中・高で連携・持続する教育、音楽・体育教育の強化、国際理解教育の強化、生徒会の活性化などが特に印象深かった。あやの台小学校と高野口小学校の場合は、音楽・体育教育の活性化、分かち合いと配慮の教育、オープンに意

見を伝え合うことの練習、伝統文化教育が特に見事であった。また、高野口小学校では韓国の教職員の授業を通じて、両国のより教育交流ができた。

- 文化交流を通じた民間でのコミュニケーションの大切さを再確認するとともに、学校間でも韓国との交流を希望していた日本の学校を見て、両国にとっての明るい光を見ることができた。

最後に、教育過程の中で自主的に ESD を活用、発展させることや、文化交流を通じた異文化理解、伝統を大切にし、未来へ引き継ぐことに意欲を見せ、発表を締めくくった。



報告会 C グループ

—D グループ—

次に D グループを代表し、ジンゴン中学校の姜承植(カン・スンシク)校長が発表を行った。同グループは、「ビジョン(비전)を行動(행동)に移せば奇跡(기적)が起きる」という標語の頭文字から名前をとって、グループの名前を「飛行機(비행기)チーム」と決めた。しかしそれは大げさな目標達成ではなく、小さな成功の積み重ねを示したものであるとした。ここでいう成功とは、プログラムの達成感、生徒との一体感のことである。奇跡というのは、このような小さな成功を引き続き作っていくということであると述べたうえで、各訪問先での学びについて、以下のように述べた。

- 横浜市立永田台小学校では、1~3 年生は韓国語であいさつを、4~6 年生はアリランを韓国語で歌ってくれた。また、ESD の根本である命の授業を、内実を伴って行っていることに感銘を受けた。以前同

校を訪れた新龍山(シンヨンサン)小学校の教員が送った朝顔の種が永田台小学校で育てられ、花を咲かせていて、交流の持続を実感した。授業では、韓国の遊びと伝統的な遊びを紹介した。子どもたちは有機農業の食事と残飯を作らないという学習を幼い頃からしている。

- 小松市立安宅小学校では、全校生徒が民謡を歌って迎えてくれた。韓国教職員も日本童謡の「赤とんぼ」や韓国民謡「アリラン」、「ふるさとの春」など歌って文化交流をした。あいさつをはじめ他人を思いやること、正しい読書習慣、毎食後の歯磨きの習慣など、人間教育を徹底している。幼い頃からの基本的な生活習慣の形成にどれだけ学校が努力しているのかを感じて、とても感動した。
- 芦城中学校は、伝統美術や柔道など、伝統文化教育を積極的に取り入れ、実施している。またパワーポイントを使って韓国教職員が授業をし、給食の時間には生徒との交流を通じて韓国の文化の理解に寄与することができた。
- 小松市立高等学校では、活発に行われているスポーツや書道等、放課後の部活動の様子を見学した。特に生徒による書道のパフォーマンスには感銘を受けた。
- 小松市教育委員会の概要説明では、「生きる力」として学力、豊かな人間性、健康・体力の育成に注力していることがわかり、家庭・地域との連携、小中学校、PTA との連携の様子を理解することができた。
- 小松市長の名刺には小松市立高等学校の生徒が作った小松市の伝統文化を取り入れたシンボルが入っており、自ら交流大使をされていることを知った。
- 小松市の14家庭でのホームビジットでは、日本の文化を知ることができ、訪問団は日本の生活と一体となったESDの姿を知った。

最後に、訪問団は今回のプログラムを通して、日本の初等中等教育が自然と環境を重視し、伝統と文化を重んじる姿を知った、と述べて発表を終えた。



報告会 D グループ

休憩をはさんだ後、報告会に出席した中曽根弘文議員があいさつを行った。中曽根氏は、時がたつのは早くもうプログラムが終了になるが、今後もこの交流に対して力添えを続けたいと述べた。また、数年前に日韓共同のサッカーワールドカップがあり、自分の母校である慶應義塾大学でも日韓で試合を行ったことに触れ、今後もこのように、言葉がなくても交流ができるスポーツ等の青少年交流が続くことを期待している、と締めくくった。



中曽根弘文 参議院議員

—A グループ—

A グループを代表し、ヒョンソク中学校の鄭丞辰(ジョン・スンジン)教諭より、東京および奈良市についての発表がなされた。発表のキーワードは Goal, Question, Navigator, Hope であると説明し、それぞれの項目について訪問地での印象を交えて報告した。

- Goal=主題
発表の主題は「歴史の中の ESD」である。

- **Question=質問**
奈良市は由緒ある歴史と伝統のある都市であり、韓国の慶州市とは姉妹都市の縁である。では、奈良市ではどのようにして歴史を通じた ESD がなされているのか、重点的に調べた。
- **Navigator=訪問校**
名門私立高校である慶應義塾高等学校では、「ペンが剣よりも強し」という言葉が何よりも心に響いた。韓国にはない入試制度として、生徒がストレスなく大学に進学するエスカレーター方式が印象に残った。進学についてのストレスの代わりに、自由に自分がしたいと思う夢に向かって大切な時間を送ることができるという点が記憶に残っている。
- 奈良市の並松小学校は全校生徒 59 名の小さい学校であるが、生徒たちが地域遺産を大切にしている、また我々を歓待してくれる姿に感動した。
- 奈良市の伏見小学校は、食文化を通して地域を知るための研究授業の印象が深かった。
- 飛鳥中学校では、地域と共に行う連携教育の印象が深かった。
- 何よりも、A グループが日本の私立から公立の小学校まで、多様な学校を訪問し、日本の多様な教育現場を直接感じ体験できたことが何より嬉しかった。

最後にまとめとして、A グループは何よりも日本の ESD がどのように行われているのか関心を持っていたと述べ、その点について奈良市では世界文化遺産の学習を実際に学校授業に取り入れており、国際理解、平和、環境、人権をテーマに、それぞれの内容で異なる教育を行っていたと報告した。そして自分達がこれから学校に戻り、世界遺産と地域遺産の学習を通じた ESD を試してみたいと思うと述べた。



報告会 A グループ

—B グループ—

最後に B グループを代表し、フンドク高等学校の鄭智燾(ジョン・ジファン) 教諭、ジンゴン中学校の康恩禎(カン・ウンジョン) 教諭より発表があった。B グループは、チームのテーマを「B happy Inagi」とし、まずは訪問地の稲城市について、東京都の東に位置する 8 万 6,000 人の小さな都市であることに触れ、稲城市出身のデザイナーが作ったキャラクター「なしのすけ」や「ガンダム」、特産品の梨等を紹介した。

- 東日本大震災について
稲城市でも震災の際は子どもたちが帰宅困難に陥ったことに触れ、以降稲城市が防災教育に力を入れていると述べた。具体的には防災ずきん、防災袋の準備をしておき、いざという時に子どもたちだけでなく何かできるように、親からの手紙も入っていた。これらを受けて、稲城市の教育方針は「自ら生きて行く力を持った 2050 年の大人を作ること」であると感じた。
- 稲城市の教育の地域的特性について
稲城市では、地域社会との連携がなされており、小規模の都市の特徴を十分に活かしている。コーディネーター役の「学校教育コンシェルジュ」が地域と学校を繋げていることを知った。学校と地域が非常に緊密であり、評価まで行っているところが印象的であった。
- 食育と給食制度について
「食育」とは、食べることによって教育することであるが、その概念は韓国にはなく、日本の給食については、来日前からとても興味を持っていた。理由の一つは、

日本の昼食はどうなっているのだろうかという単純な文化的好奇心。もう一つは、ESD を通じて誰もが参与できる最も基本的な方法は、結局給食なのではないかという共感である。韓国では小学校～高等学校まですべて給食であり、小学校給食は無料である。稲城市では、小学校・中学校では給食が実施されていたが、高校は実施されていなかった。1ヶ所で給食を作り、市内の全部の学校に配膳する方法をとっていた。学校では健康係というものを作り、給食がどこで作られているか発表していた。これにより、非常に残飯率が低くなったそうだ。地産地消についても教育されており、米作りに関しては農業をしている人を学校に呼んで教えを受け、子どもたちが自分で米を作っていた。このように、コンシェルジュから紹介を受けた地域の方が授業中に子どもたちに教えること、地域と食べ物に対する愛を深めること等をはじめ、給食を通して互いの肯定的な側面を認め、活かすという教育姿勢が印象に残った。

最後にまとめとして、ビデオ映像によって東京～稲城市の各学校訪問の様子と訪問地紹介、参加者全員の紹介とメッセージを発表した。



報告会 B グループ

各グループの発表後、日本の教職員を代表して、本プログラムで A グループを受入れ、2013年8月の韓国政府日本教職員招へいプログラムで訪韓した、奈良県奈良市教育委員会の毛利康人課長補佐が感想を述べた。

2. 閉会式

報告会に続き同じ会場にて、閉会式が行われた。

最初に国際連合大学の秋葉正嗣事務局長が、発表の中で教育は世界平和の実現にとっても重要な役割を果たしていることを強調し、このプログラムを通して得たことや構築したネットワークが、日本と韓国間の教育交流の更なる推進と、それぞれの国において平和でより良い未来社会の構築に貢献する人材育成に役立つことを期待する、と述べた。



国際連合大学 秋葉正嗣事務局長

続いて、文部科学省より今里譲大臣官房国際課課長が、参加者に対し、日本と韓国のパートナーシップの重要性、そして特に若い世代間の相互理解の必要性を強調し、このプログラムで得られた経験や交流を通して、日本と韓国との間の交流と理解がさらに深まることを期待している、と述べた。



文部科学省 今里譲課長



大阪韓国教育院 宋鍾錫院長

その後、韓国教職員訪問団代表の趙顯鍾(チョ・ヒョンジョン)Dグループ長よりあいさつがあり、教育に携わる者の持続的な発展における影響力を強調し、このプログラムは日韓の相互理解促進への一助となったのではないかと述べた。

閉会のあいさつの後、秋葉事務局長から、グループ長4名に記念品の贈呈が行われ、閉会式は幕を閉じた。



趙顯鍾 Dグループ長

最後に、大阪韓国教育院の宋鍾錫(ソン・ジョンソク)院長があいさつし、日韓は政治などでは距離があるといわれるが、民間のレベルでの交流は活発であると述べた。そして参加教職員たちに対して、この研修で得られたことを韓国の教育の場においても生かして欲しいと締めくくった。

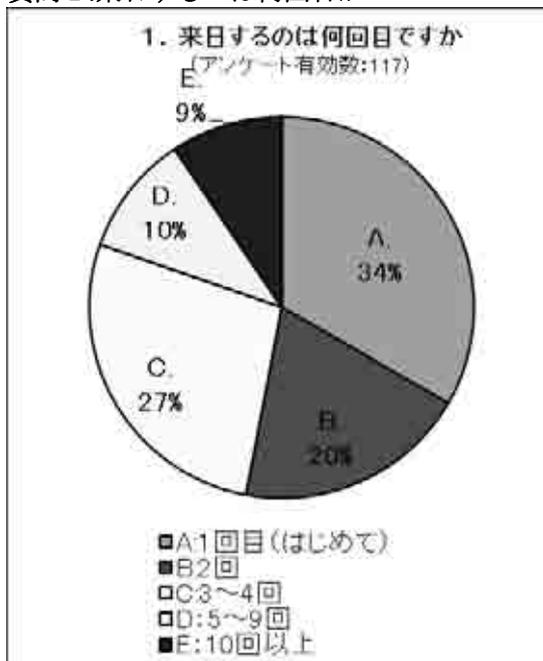
第II章

コメントと提案

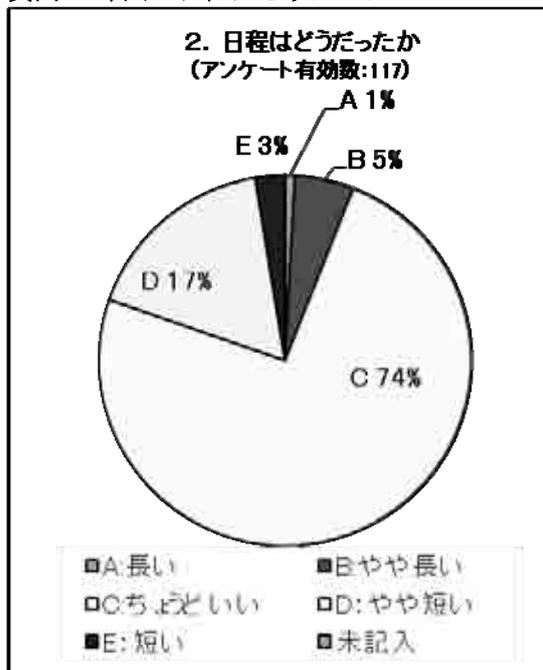
1. 韓国教職員
2. 受入れ教育委員会
3. 主な受入れ学校および機関

◆1. 韓国教職員

質問1. 来日するのは何回目か



質問2. 今回の日程はどうだったか



【主な意見】*原文は韓国語

※韓国教職員への評価票翻訳については、サムスン電子ジャパン株式会社、日本サムスン株式会社、サムスン日本研究所にボランティアとして多大なるご協力をいただきました。感謝申し上げます。

A-04 チェ・ジョンア (やや短い)

訪問学校が小・中・高だったが、中学校と高校を1か所ずつしか回れなかったので、比較できる学校をもっと訪問したかった。日程を1-2日程度延長してほしい。

A-10 ジョン・ミヒャン (ちょうどいい)

小中高大等あらゆる教育機関を訪問して、日本の教育現場を理解することができる適当な期間だった。

A-26 パク・キョンオク (ちょうどいい)

個人日程と公式日程の割合がよかった。ただ一つの学校ですべての活動が行われるほうが良いと思う。小・中・高各1校のみ訪問し、ひとつの学校で深い交流がなされたほうが良い。ひとつの学校で文化授業、給食体験、教師との対話があったほうが良い。

B-10 カン・ウンジョン (やや短い)

日本のユネスコ世界遺産を体験する機会がなかったので残念でした。

B-25 パク・セラシ (やや長い)

学校訪問の回数が多い気がした。重複のところがあれば学校の数を縮小したほうが良いと思う。

C-3 ベ・ヒョニョン (ちょうどいい)

日程自体は適当でした。但し、学校別に訪問及び交流時間が一定せず残念でした。

C-15 コ・スジン (やや短い)

1-2日程度午前行事の後、午後の自由時間が与えられたら、文化体験および日本語の勉強などができ、余裕をもって活動できると思う。

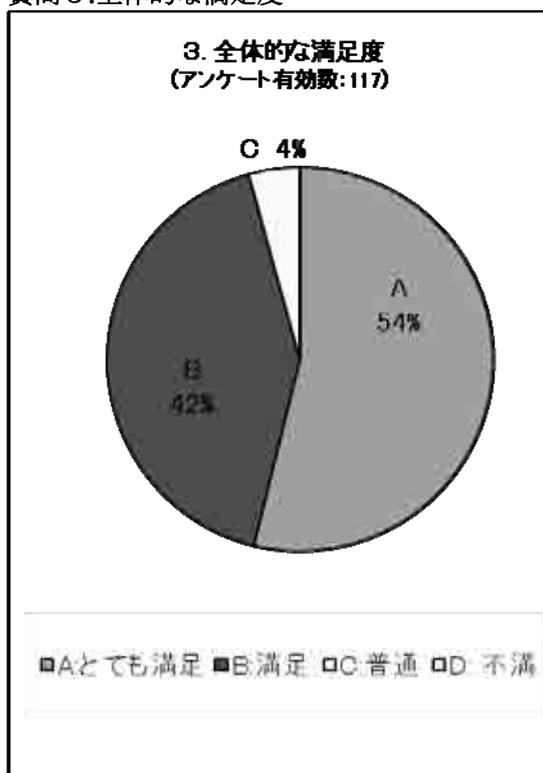
D-7 ジョン・ヨンジュ (やや長い)

プログラム運営面で行事に対する時間の分配を多少短くし、地域文化施設の訪問も日程に追加して欲しい。

D-9 キム・ヘギョン (ちょうどいい)

学校レベル(小・中・高)別に適切に配分され、良い体験ができました。

質問3.全体的な満足度



【主な意見】*原文は韓国語

A-11 ジン・ヨジュ (とても満足)

学校の見学で日本の学校の運営が分かり、日本の先生たちと交流を通じて現場の声が聞けた。日本学校のESD運営の現況が分かり、特に小中高が全部訪問できたので、とても満足だ。

A-13 カン・ヨン Chol (満足)

日本の家庭訪問を通し日本生活文化に接する事ができた。

小・中学校を訪問した事で我々と違う付属校の進学及び小・中がつながる9学年制の意味を改めて考える事ができた。

B-02 ベク・テグム (満足)

日韓の教師が話合う時間を通じて両国間の友好増進に少しでも役に立ったと思う。すべてのスタッフたちの親切な案内と助けで何らの不便なしに研修に参加することができました。

B-03 ピョン・キョンスク (満足)

稲城市学校訪問(5校)を通し日本の教育制度を知ることができた。また、授業の参観や

参加を通して教員としての責任を確認するようになって、教えることに対する愛情と熱情を少し取り戻した気がした。

B-10 カン・ウンジョン (とても満足)

少し具体的に日本のことが分かるようになった。また、教職員・一般人および生徒たちと交流する機会があつてとても感動的でした。日本人は平和の時代を一緒に開けていく友人だと思います。

C-03 ベ・ヒョニョン (満足)

日本の教育制度及び学校別に特色のある事業について知ることができて良かった。日本の教師達の情熱も十分に感じられました。しかし、ESDやユネスコスクールと関連した活動を具体的に見られなかったので残念でした。

C-21 イ・ヨンジュ (とても満足)

家庭訪問と学校訪問をはじめ、表面上の国際交流ではない実質的な体験及び対話の場が設けられ、大変満足しました。

C-25 パク・ジヒョン (とても満足)

日本の教育と文化に対して詳細に分かるには短い日程だったが、予定された時間内で可能な限り多くの学校を訪問して、学校の運営状態、学生たちの生活、学生と教職員の懇談会など、内容面で非常に充実したプログラムの運営だったと思います。

D-22 パク・スンジョン (とても満足)

事前の準備を十分にすることで、日本の学校教育について知ることができる機会となった。また学生と教職員との質疑応答を通じて日本を理解することができた。日本の家庭を訪問することで日本の家庭を体験し、日本人が生活する姿も知ることができて良かった。

D-26 ソ・ジョンムン (とても満足)

日程がちょうどよくプログラム運営(進行)に時間的余裕があつて良かった。夕食の時間を空けておいてもらったのも良かった。

質問4.参加目的は何か

【主な意見】*原文は韓国語

A-21 イ・ミョンホ

・日本の教育の方向・現況・悩み等に対する理解
・日韓の教員交流の方法を模索

A-04 チェ・ジョンア

ESD を理解し、日本の学校で実践しているESD を見て学んで母国で応用したい。また、日本の学校と交流したいから。

A-06 チョン・ジュヨン

日本についての先入観、偏見のない誠実な日本の姿をみたかったことと、日本の教育現場を訪問して韓国に活用できる場所をみつけることが目的だった。

A-12 カン・ソンド

政治性を排除し、純粋に民間交流に期待感を持って、特に教育問題について真剣に考えたかった。

A-26 パク・キョンオク

国際理解教育の担当者として業務を更に深めるため、日本の現状と比較して長所短所を把握し、長所を取り入れるため。

B-07 ハン・キョンオク

国際的な交流、日本の学校の教育現場と韓国の教育方法及び教育の目的を比較・分析するため。

B-21 コン・セオク

新たな分野に接して学ぼうと思うことが多かった。特にユネスコスクールとして客観的な指標のある学校とするにはどうすれば良いかという観点から探求する姿勢で挑んだ。

B-27 ソン・ヨンギ

・韓国と日本のESDの現況の比較
・日本のESDの現況を、韓国にどのように適用するかという示唆点を把握する
・主要な政策の反映面での類似点
・放課後の教育活動

C-13 キム・ジョンスク

1. 日本の教育現場の探索およびESDとグローバルリーダーシップ教育プログラム実行の

実態の把握

2. 日本の文化の理解と友好増進、教育情報の交流
3. 日本の自然環境と文化の発展を体感する

C-03 ベ・ヒョニョン

学校と地域社会（地域企業）がどのように連携し、活動しているか。学校は地域にどんな貢献ができるか、地域は学校にどんな支援をしているかが知りたかった。

C-17 クォン・ウンラ

日本の学校の生活指導（持続可能な発展と関連して）→給食指導、生活指導、放課後教育。

C-29 ユン・ヘギョン

日韓の学校の参観を通じて、施設と文化の差、学生たちの授業の様子、特に礼儀や品性、そして特別支援学級の児童生徒たちの韓国との差が知りたかった。

D-06 チョ・ヒョンジョン

学校を訪問しながら地域社会と学校間の関連、学校の国際理解教育の実態を把握すること。

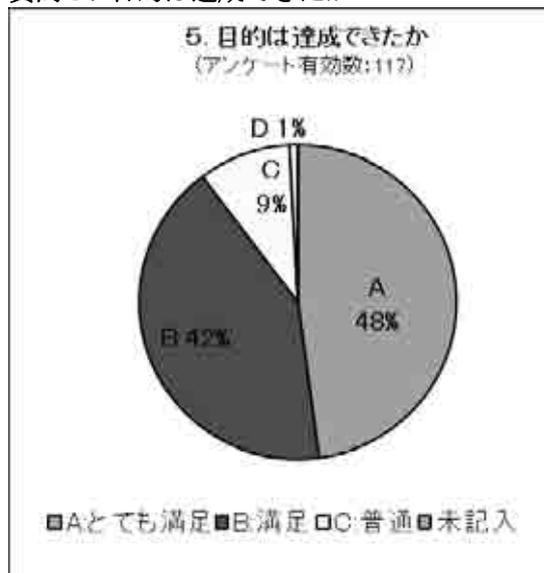
D-07 ジョン・ヨンジュ

・日本の学校現場と教育文化施設を訪問、見学するため
・日本の教育制度と日韓教職員との相互交流や意見交換などで両国を理解し、友好関係を築くため

D-11 キム・ミヒ

日本のESDの現況を把握し、本校の2014年の教育課程を作成する参考にしたかった。

質問5. 目的は達成できたか



【主な意見】*原文は韓国語

A-06 チョン・ジュヨン (満足)

政治的な先入観を持たずに日本をみると、特に子どもたちの純粋な姿が印象的で、基本教育が充実していることに感心した。伝統を尊重する現代の教育を未来にも継承していこうとする努力、特に地域社会の皆が協力する姿には学ぶところが多かった。

A-12 カン・ソンド (とても満足)

本音まではわからないが、日本人、特に教育分野の関係者たちは本当に平和を望んでいて、韓国との活発な交流を望んでいた。そしてかなり友好的だったことが分かった。学生たちの温かくて好奇心のある目の色を長く記憶したい。

B-03 ピョン・キョンスク (満足)

日本は韓国と違って教育の主体が地方自治体だということ。そのため学校施設と資源が不足しているように見えた。教員の処遇と認識は韓国より低いと思った。日本の教育が少し理解できた。学校では、ごみの分別や衛生管理が徹底され、印刷物も大量にしないなど、持続可能な発展に向けて考慮されているように見えた。

B-05 チョ・チャンナム (とても満足)

日本は基礎・基本教育が非常に充実しているという感じを受けた。また韓国でこのごろイ

シューになっている討論学習も、重点的に運営されているという感じを受けた。討論学習の成否が両国の未来を決めるのではないかと考えながら見ていた。

B-14 キム・ボンギ (とても満足)

地域社会と保護者、教師、みなが関心を持って自然、環境を守り、学生の教育に取り入れているのが印象的だった。

C-10 カン・ウンジョン (満足)

一般的に、「そうだろう」と思っていたこととは大きな違いがあり、特に学校生活の基礎、基本的な教育が忠実に行われているのを見てとても驚いた。特に、教員の様々な授業方式が形成され、現在の韓国の教育について考えることができるきっかけになった。

C-18 イ・ヘソク (とても満足)

日本も少子化による学生数の減少や、進路指導などに教育問題があらわれている。

C-21 イ・ヨンジュ (とても満足)

小中高の各学校を直接訪問して、教職員をはじめ多くの学生たちと交流して、両国の教育活動を理解できました。相互交流の重要性を感じた有意義なプログラムになりました。

D-19 イ・ジョンハン (とても満足)

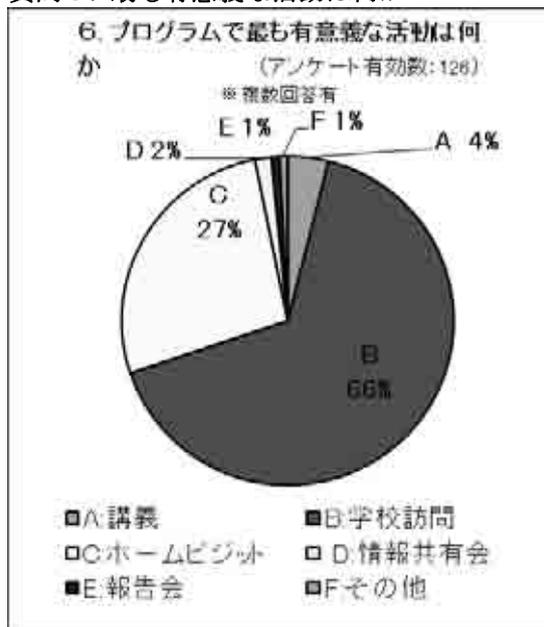
具体的に韓国でも実践したい点を見つけた。

1. ESDのために横浜の永田台小学校とソウルの新龍山小学校が交流し、アサガオの種をもらい育てている点。
2. 地元の食材で給食を作り、ほぼ残さず食べるようにしている点。
3. 小松市安宅小学校で地域のお祭りに積極的に参加し地域の文化と歴史について勉強している点。
4. 生徒たちが勉強と運動を適度に並行して勉強もしながら健康な生活を送っている点。

D-22 パク・スンジョン (とても満足)

日本の教育制度の中で印象深かったのは公教育を非常に重要視しており、基礎基本教育を忠実にやる姿を学ぶことができた。韓国に戻っても基礎基本学習の重要性と私教育を減らすことのできる授業方法の改善に焦点を置いて研究しなければならないと思う。

質問6. 最も有意義な活動は何か



【主な意見】*原文は韓国語

A-05 チュ・キョンファ (ホームビジット)
3世代が一緒に生活する様子を見て韓国と似ていたのも、親密感を感じた。フレンドリーかつあたたかいおもてなしでその前まであった緊張と疲労がほぐれた。

A-12 カン・ソンド (学校訪問)
奈良県並松小学校の 59 名の学生たちの心からのおもてなしに涙が出そうだった。学生の合唱を聞いて、我々は韓国のチマチョゴリについて紹介して、伝統舞踊である花冠舞を見せた。

A-16 コ・チュンジャ (ホームビジット)
日本語ができないため心配していたが、家族が英語を話すことができたので、聞きたいことを自由に聞いて、話もできた。生の体験となりよかった。

B-07 ハン・キョンオク (ホームビジット)
日本の家庭生活の日常の姿と家族構成、家族の雰囲気がわかったので非常に意味があった。

B-20 キム・ソネ (学校訪問)
学校の環境と授業、教育課程の運営全般にかかわる交流を通じ、日・韓関係を考え直すきっかけとなった。

B-28 ユ・ジウォン (ホームビジット)

日本人の方々の生き方を発見できた。旅行では、日本家庭を経験する事はなかなか難しいことである。お婆さん、お爺さん達が茶の伝統を愛する姿や、韓国人達に心を込めて接待して下さることに感銘を受けた。しかし、時間が短かったのが残念だった。

C-18 イ・ヘソク (学校訪問)
小/中/高校を訪問することで日本の教育を理解する機会になった。特に学校の現状や構成員は、韓国と比べてとても肯定的な視野を持っていると感じた。

C-23 パク・ホ Chol (学校訪問)
知りたい部分や内容が学校と関連していたので、学校訪問を通じて(特に韓国教師の授業を通じて)お互いに親密度を高めることができたのは一番意味のある活動だったと思う。

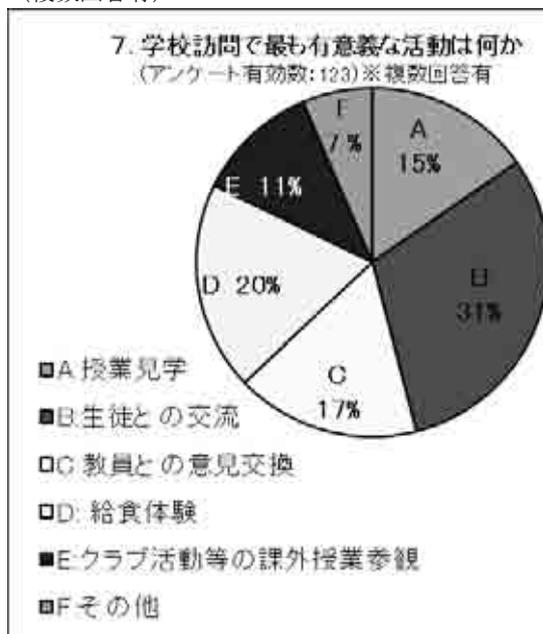
C-29 ユン・ヘギョン (学校訪問)
日本スタッフの韓国の訪問者に対する準備と親切さ、徹底的なひとりひとりの各パート別の準備に感嘆しました。韓国でもしっかり準備したのでその様子が似ていて良かったです。

D-07 ジョン・ヨンジュ (学校訪問)
日本の学校を訪問し、直接現場を見て韓国の学校との違いを比較分析することができ、より良い教育環境を作るきっかけになりました。

D-08 カン・スンシク (ホームビジット)
ホームビジットが最も役に立ったが時間がとても短かった。1日(8時間)程度だと良い。

D-12 キム・ミミ (学校訪問)
1つ選べと言われると学校訪問だがホームビジットも本当に忘れられません。学生達の態度や来訪者を迎える姿に感動しました。また給食では残飯のないところ、後片付けをする姿を見て、韓国の学生の給食についての教育が早急に必要だと切実に感じました。

質問7. 学校訪問で最も有意義な活動は何か
(複数回答有)



【主な意見】*原文は韓国語

A-04 チュ・ジョンア (授業見学)

韓国の授業との違いを理解した。学生たちの団体活動、生活態度が印象深いものだった。災害防災教育も印象に残る。

A-11 ジン・ヨジュ (給食体験)

韓国と給食文化が違ったが、日本の子どもたちの規則の遵守、礼儀正しい行動、食べ残しゼロ、牛乳パックの処理、給食室の掃除等、韓国の子どもが学ぶところが沢山あった。小学生ですらおかずについて文句をいわず、食べ残しが無かったことに感心した。

A-14 キム・カップソン (生徒との交流)

短い時間ではあったが、未来社会を担う子どもたちと同じ目線での対話を通じて日本の子ども達に韓国を知らせる事ができ、今後に繋げることができた。

A-20 イ・キョンヒ (給食体験)

食事後の残飯処理や牛乳パックの再活用のための洗浄、その後続く掃除活動など、とても組織的に行われていたことが印象深く、触発された。我が学校の現場では消え去った価値ではないかと思ったし、導入したいと思った。

B-02 ペク・テグム (クラブ活動等の課外授

業参観)

稲城市立の稲城第6小学校のクラブ活動を参観した時に児童達とサッカーのシューティング練習をして空振りを何回もしたことを思い出します。正規の授業時間以外には徹底的にクラブ活動の時間を与えて、芸・体・能の教育を活性化しているのが非常に印象的でした。

B-07 ハン・キョンオク (クラブ活動等の課外授業参観)

放課後、誰でも一つは専門家のように完全な技能を習得し、定期的に大会に参加して力を発揮したり、体力の管理が出来る力を培うという、見えない力に感銘を受けた。

C-05 チョ・ドゥファン (生徒との交流)

日本という国を遠く感じていたが、純真な児童達と出会って見たら児童達が天真爛漫な姿で接してくれてとても親近感を感じられた(教師の休憩室まで一つのクラスの児童が全員で訪ねて来てくれて、皆を連れて運動場でドッジボールをした経験など)。

C-23 パク・ホ Chol (生徒との交流)

授業風景や教育課程などは似ている部分が多かったし、文献を通じて理解できる部分だが、子どもたちとの交流は体験しないとわからない価値のある活動だった。実際に子どもたちとの交流を通じて、このプログラムの価値と未来、希望などを感じた。

C-28 ユ・ジョンヘ (教員との意見交換)

教師としての悩みや夢を交流しながら共感できる部分があって心が和んだし、一生懸命な彼らの熱意を感じて自分をふりかえることができました。

D-01 ベ・ユニョン (授業参観)

授業の雰囲気が積極的で、真理を追求し、発表する子どもが主導する授業であった。基礎的な生活指導が上手く出来ている。

D-12 キム・ミミ (生徒との交流)

子どもたちとの出会いと意見交換・我々を迎えてくれた歓迎式に参加している子どもたちの真心と情熱の中から、日本の教育が日本人の根幹を作り出す力なのではないかと思った。言葉が通じなくても我々の訪問を心から喜んでくれる姿、日本文化を持続的に連携して継承し、愛する姿にとっても感動した。

質問 8.他にどのようなプログラムがあったらよいか

*原文は韓国語

A-05 チュ・キョンファ

日本の文化についての簡略な紹介および歴史の流れなどをオリエンテーションの時間に紹介すれば、日本の歴史や青少年文化を理解するのに役に立つと思う。

A-10 ジョン・ミヒャン

小学生の放課後の教育、1日程度の先生の自由旅行時間、遺跡や公演鑑賞(歌舞伎、能、相撲など)。

A-22 イ・サンチョル

登校から下校までを観察できるプログラムがあるといい。学校生活の一日全体を見て、教育活動についての理解度をより深めるため。

B-05 チョ・チャンナム

団体で動く活動も良いが一回くらいは自由活動時間があつたら良かったと思う。例えば2~3時間後に目的地を決めて置いて一人で探して来るような活動があればいいと思った。または日本の自然環境を見られたら良いと思います。

B-07 ハン・キョンオク

公立中・高等学校の授業交流と各教科別に担当教師との相談及び質問、教育方法及び現況を自由に討論出来る機会が不足していた。次回には担当教師の間1:1で相談が与えられるのを期待する。

B-08 ジョン・ジファン

大阪で同じ地域同士教育庁-管理者-教師間の懇談会があり、実在的な運営に反映させることでたら良いと思う。

B-15 キム・ボンナム

自由に任せることより、文化探訪で各地域(該当地域)の文化財や名所を何箇所か案内することもよさそうです。

B-23 パク・スンシク

ESD 関連の学校教育活動だけでなく、日本国内のユネスコ指定の自然文化遺産を巡り、その意味を考えてみる機会がなくて残念だった。

C-08 チャン・イングオン

ユネスコで、教師だけではなくて児童生徒達も日本を訪問出来る機会を提供してほしい。

C-15 コ・スジン

児童生徒が教師と一緒に参加して日本の教育現状を探訪するプログラムがあれば(全体日程の3-4日程度)日本についての肯定的なマインドが形成され、両国の理解増進に役に立つと思う。

C-27 ユ・ヨンドク

ホームビジットの時間を増やして1泊でホームステイがしたい。

D-09 キム・ヘギョン

学校教育の背景になったであろう地域文化を視察または体験する時間があれば更に良いと思う。

D-10 キム・ケサン

日本の教育現場に対する正確な理解は結局、日本の文化に対する理解からだと思う。だから、日本の文化のベースになる遺跡や名勝などの観光が1~2箇所あると更に良いと思う。

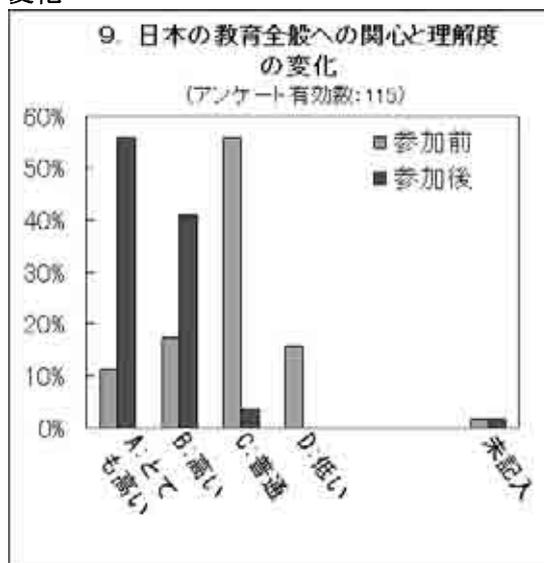
D-11 キム・ミヒ

小松の勸進帳という歌舞伎が有名と聞いていたが、公演をみる機会があるか、勸進帳記念館を訪れる機会があれば良いと思う。

D-22 パク・スンジョン

学校訪問と教育施設見学以外に日本の歴史と文化を体験できる歴史文化体験プログラムがあれば良いと思う。

質問9. 日本の教育全般への関心と理解度の変化



【主な意見】 *原文は韓国語

A-05 チェ・キョンファ (ふつう→とても高い)

学生たちが環境教育や生活の中で環境保護を実践していることがとても印象的だった(牛乳パックの分別作業、環境保護活動など)。学生たちの秩序意識や清潔さも印象的。日本の家庭が、ESD 運動と歴史についてプライドを持っていることが、家庭訪問して分かった。

A-11 ジン・ヨジュ (低い→高い)

プログラム参加前は日本教育について興味、理解、知識が乏しかった。プログラム参加を通じて日本の教育について少なくともわかるようになった。日本と韓国は同じ悩み(少子化、高齢化、学校内暴力、教権の失墜など)をもっていることが分かった。特に奈良地域の学校訪問を通じて、地元を誇らしく思う学生を育てるという教育ビジョンを小中で一貫して運営していることが印象的だったし、文化遺産が多い奈良市の特徴に合わせた ESD 運営と、自分の住む地域にプライドを持っている学生を見て、日本の教育についての興味が深まった。

B-02 ペク・テグム (普通→とても高い)

近くて遠い隣国から近くてもっと近い隣国のイメージが変わりました。韓国と日本は、両国とも地球村の人材育成を目標として教育が

成り立っていることに共感したからです。

B-21 コン・セオク (高い→とても高い)

世界の流れに流されず、自分の意見を主張するための道徳教育に感動を受けた。基礎学力を固める教室教育が活かされている日本の教育は、一日で成された事ではない。基本的な人間性教育を基にした教育が、教師・学生の誠実な人格をつくっているのではないか。2050年代に大人になる子ども達を、急がずに誠実に教えている日本の教育に心から拍手を送る。

C-03 ベ・ヒョニョン (普通→高い)

表面的に見える教育制度だけは知っていたが、今回のプログラムにより現在の日本の教育が目標とすることが何か、具体的には県と市が主導的に目標を立てて実現するために多くの努力をしていることが分かった。基本教育、人生教育、感性教育が調和されて行われているところが羨ましかった。

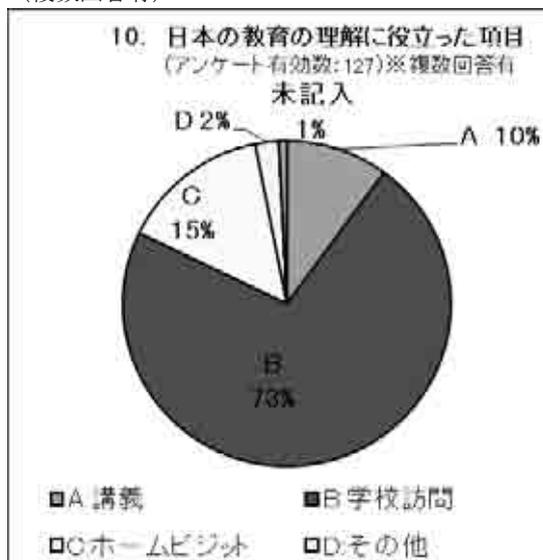
C-28 ユ・ジョンヘ (高い→とても高い)

日本の教師との交流時間に会話しながら具体的な事例を通じて彼らの努力が見えた。自分たちの目指すべき点、重点の長所、短所を正直に話し合いながら、韓国の教育の問題点が見えた。彼らの問題を教訓にして、私たちの学校現場で実践すれば良いと思った。

D-12 キム・ミミ (低い→とても高い)

普段旅行で来る時は、日本人はどうしてこんなに親切で秩序を守り、気が配れるのか驚くばかりだったが、学校に直接赴き学校教育を見て感じ、そこから日本人があのようにつつてできたのだなと思った。学校での出会い、子どもたちが残飯なく感謝する心で給食を食べる姿、伝統を大事に守る姿、自然と地域社会と連携した教育、国際教育、我々を心から歓迎してくれる姿、静かで秩序ある団体行動、先生を尊重する姿を見て、これまでの日本人に対する漠然とした(良くない感情を含めて)印象が本当に優しく温かな印象に変わった。これからさらに日本の教育について興味を持って研究したい。

質問 10. 日本の教育の理解に役立った項目
(複数回答有)



【主な意見】 *原文は韓国語

A-06 チョン・ジュヨン (学校訪問)

小中高と奈良教育大学など多くの教育機関を訪問することによって全体的な輪郭が分かった。教育委員会の訪問は教育政策と地域社会の協力が把握できて良かった。

A-08 ク・ミンジ (学校訪問)

日本の先生との交流の中で韓国の学校の教育システムと日本の教育システムの共通点と違いがわかった。

A-11 ジン・ヨジュ (学校訪問)

学校(教育庁)訪問を通じて現場の様子を直接見て、学生と教員の交流を通じて日本の教育現場の声も聞けて、日本の教育を理解することに役立った。

B-02 ペク・テグム (ホームビジット)

ホームビジットを通して日本伝統の食べ物(正月のおせち料理)を知ることができた。日本語はできなかったですが、お互いのことを理解することができて今後の訪問を約束する機会となりました。

B-27 ノ・ヨンムン (講義)

- ・学校教育課程についての学校長の哲学及び意志の把握
- ・未来社会への対策教育(目標設定及び実践努力)

B-28 イ・ヒョスク (学校訪問)

地域と共にある日本の教育が印象的だった。地域住民が子ども達の名前も知っていて、お年寄り達が教育に深く関与し、礼儀と伝統を伝授して感謝されていた。地域団体が活性化され、この団体らが定期的に集まっていた。

C-01 アン・ジョンリョル (学校訪問)

生徒たちは過去の日・韓国関係より未来の発展的な日・韓関係に関心があることを感じた。

C-17 クォン・ウンラ (学校訪問)

韓国の親は子どもを学校に行かせる際にもっと可愛く、綺麗にと他の子より目立つようにおしゃれをさせるが、日本は違って、とても素朴な印象だった。お互いの同質性に配慮するからなのか?

C-23 パク・ホ Chol (学校訪問)

実際にみて感じることは重要だ。学生たちの姿、授業態度、周辺環境などを通じて普段の姿が分かったしリアルに体で感じられた。特に秩序教育がとてもよくできていて羨ましい。

C-25 パク・ジヒョン (講義)

全体的な日本の教育を理解することができ、情報提供の良い機会になりました。

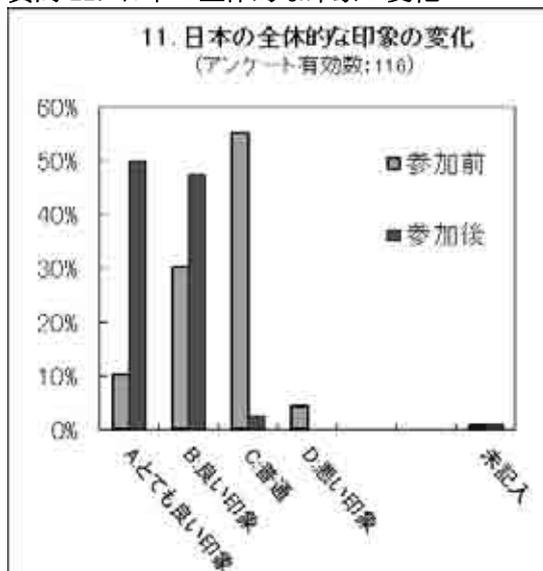
D-07 ジョン・ヨンジュ (ホームビジット)

学校だけでなく、小さい時から家庭で基本生活(秩序の遵守、配慮する心、ゴミの分別、ゴミを捨てないなど)習慣を体系的に習得できるように教育する。

D-22 パク・スンジョン (学校訪問)

学校教育過程の説明と授業参観・生徒たちとの質疑応答を通じて学校について理解できた。生徒たちとの学校給食は、生徒と日本の家庭教育を理解する上で役立った。食べ残しのない給食が印象的だった。

質問 11. 日本の全体的な印象の変化



【主な意見】*原文は韓国語

A-04 チェ・ジョンア (悪い→良い印象)

マスコミの日本についての政治的な報道から良い印象を持っていなかったが、日本を訪れて日本に親近感、清潔さ、礼儀正しさを感じた。日本文化についてよい印象を持つようになった。日本語の勉強も頑張っ、また訪問したい。

A-11 ジン・ヨジュ (普通→良い印象)

プログラム参加前は日本について興味、理解、知識がなかったが、今回の教育を通じて日本語を勉強して彼らと直接話したいと思った。歴史的な問題、竹島の問題、日本の政治家の右傾化など、韓国と日本の関係はだんだん気まぎくなるが、国民一人ひとりには我々と変わらない。彼らも東アジアの発展のために韓国と日本がお互いに協力すべきだと思っていることが分かった。交流を拡大していきたい。

A-26 パク・キョンオク (普通→とても良い印象)

対外的また政治的には対立の関係にあり、若干否定的な感情もなくはなかったが、ホームビジットなどを通じ、日本の時間に対する観念、伝統を保存する意志、親切さなど、とても良い印象を受けた。

B-03 ピョン・キョンスク (普通→普通)

日本は日本だ。配慮・親切・だけど閉鎖的だと思う。

B-05 チョ・チャンナム (良い印象→とても良い印象)

他人に被害を与えないという思考と行動は私たちが必ず見習うべきだと思った。しかしもうちょっと活気に満ちた姿に変わったら良いだろう。

B-20 キム・ソネ (普通→とても良い印象)

- ・基礎基本教育についての徹底さ、急がせないで待つ教育、体験を重視する教育
- ・親切や思いやり、気遣いが身についている日本人、真面目で節約する、礼儀正しい日本人
- ・伝統についてのプライド

C-07 チェ・チャンスン (普通→とても良い印象)

韓国と日本は言語だけ違って同じだと感じた。断絶ではなく交流を通じて関係の変化は可能。教育の交流は益々拡大されるべきであり、この為教育者は努力すべきである。日本の国民性を韓国が見習うべきである。

C-23 パク・ホ Chol (普通→良い印象)

実際に見て感じて経験することで日本人の生活習慣などを深く理解できた。日本国民、子どもたちの良い姿をたくさん見られたので、これが良い印象に残った。

D-12 キム・ミミ (普通→とても良い印象)

日韓のいくつかの政治的に敏感な部分により良くない感情も少しはあったが(もちろん日本人について普段の旅行を通じて良い印象もあった)、今回の訪問で直接交流しながら感動、また感動であった。毎回別れる度にバスが見えなくなるまで手を振ってくれた日本人の気持ちを忘れられないと思う。

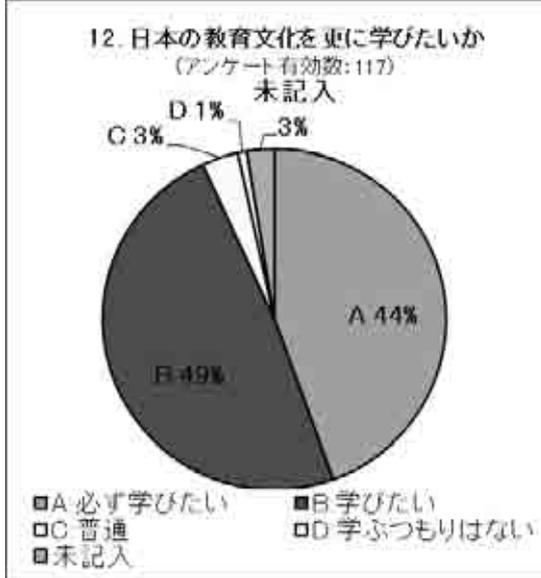
D-18 イ・ジェドン (普通→とても良い印象)

異なる文化・歴史を持つ異なる民族間においても、さまざまな交流活動を通じて相互を理解し配慮する気持ちが生まれたし、両国間の親善にも非常に役立った。

D-22 パク・スンジョン (普通→とても良い印象)

これまで関心はなかったが今回のプログラムを通じて、親切で礼儀正しい日本人の姿を通じて日本に対する認識が高くなった。特に伝統等環境を重視する姿が良かった。

質問 12. 日本の教育・文化を更に学びたいか



【主な意見】*原文は韓国語

A-06 チョン・ジュヨン (思う)

8泊9日の体験だけで日本の教育及び文化について深く理解することは難しいが、今度機会があれば日本教育及び文化について研究を深めようと思った。

A-07 ジョン・スンジン (とても思う)

近くて遠いというが、似ているけれど違う事が多い。お互いに学ぶべき点は学ばないと。学ばなければならない点がある。

A-22 イ・サンチョル (思う)

茶道：韓国、中国の茶文化と比較しながら、日本の茶道文化である千利休の精神を体験したい。

A-26 パク・キョンオク (とても思う)

伝統を守ろうとする姿、自分のものを大切に作る姿をもっと具体的に学びたい。

B-02 ペク・テグム (とても思う)

とくに、日本語の習得を通して、日本の教育および文化をこれから習いたい。なぜなら言語がその文化を代表しているから。

B-20 キム・ソネ (とても思う)

歴史の中での関連性や我が教育に深い影響を与えた国だからです。特に俳句は我が国の昔の詩(詩調)のように民族文学なので共に交流してみたいです。

詩調の作家で俳句を教えた第4中学校で見た作品が印象深い。

B-28 ユ・ジウォン (思う)

日本の教育で ESD 以外に算数・国語の授業の際、小学生の論理的な思考を発展させるための視覚的な構造と体系を組織出来る戦略がもっと知りたい。

C-15 コ・スジン (とても思う)

近い国だが、お互い知らなかったことを反省するきっかけになったし、日本語と日本文化をこれからも持続的に勉強したい。

C-17 クォン・ウンラ (とても思う)

日本語を習いたい。日本語を知っているのであればもっと日本を理解できると思う。

C-25 パク・ジヒョン (とても思う)

私たちと一番似ている環境及び情緒を持っている国として、同じ教育的な難しさと悩みを持っていると感じました。日本の教育と文化にもう少し接しながら私たちの教育の問題点、解決方法とこれから進まなければならない方向を一緒に模索したいです。

C-28 ユ・ジョンヘ (思う)

基本生活習慣の定着(秩序指導)と基礎学習の内実化を図る努力などを学びたい。しかし全体的な教育に重点を置いて個性が失われるのではないかという懸念もあった。

D-02 ペク・クァンウン (思う)

日本の生徒がとても礼儀正しく、秩序をきちんと守っている姿から、韓国の学生たちを一度振り返らせる必要があると感じたし、食べ残しをしない態度も習うべき文化だと感じた。

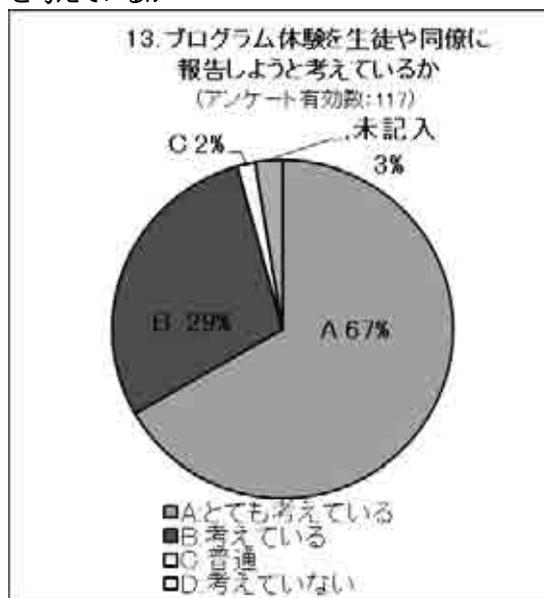
D-03 チャ・ミスン (思う)

より深い理解のために日本語の勉強の必要性を感じる。意思の疎通ができれば文化の理解がより円滑にできると思われる。

D-09 キム・ヘギョン (とても思う)

日本の教育は学校別、地域別に特徴があり、今回のプログラムで観察したものが全てではないと思う。多彩な教育および地域別文化を更に体験し、教育活動に適用したいと思っている。

質問 13. プログラム体験を生徒や同僚に報告しよう
と考えているか



【主な意見】 *原文は韓国語

A-05 チュ・キョンファ (とても思う)
「百聞は一見にしかず」の諺のように、漠然と考えていた日本に対する偏見などを見直す機会になった。未来の世代のために準備する日本の教育課程や地域社会の連携教育がとても印象的だった。

A-08 ク・ミンジ (思う)
ユネスコスクールとしてのユネスコ活動がクラブメンバーに限っているのではなく、全校生と教員が興味をもって積極的に参加できるようにモチベーションをあげたい。

A-10 ジョン・ミヒャン (とても思う)
先入観で固められている日本について、自分の変わりつつある考えや思いを写真/動画などで紹介したい。日本の訪問をぜひ勧めたい。

B-02 ペク・テグム (とても思う)
同じ学校で勤務している先生また、担当しているクラスの生徒達を含め高校 2 年生の生徒達が楽しみに待っています。帰ったらすぐに話を聞かせたいです。

B-14 キム・ボンギ (とても思う)
日本で見たことについて、
- 基本・基礎の秩序教育
- 他人をまず思いやる姿勢

- 秩序および順序を守る姿勢
- 自由な身体的活動
- 環境を大切にする姿勢
などを報告したい。

B-21 コン・セオク (とても思う)
習う事は継続する事だと思う。2050 年頃に大人になる日本の子ども達と共に生きる我が国の子どもをきちんと教育するべきだと思う。決して負けてはいけないからである。良い事を見習って私達に合うように適用すべきだと思う。

C-07 チュ・チャンスン (とても思う)
参加経験を聞かせるだけではなく、自分なりに分析し、長所を子ども達と討論するなど教室で活用したい。子どもと父母の協力が必要だから教育課程の弾力的運営がとても羨ましい。

C-18 イ・ヘソク (とても思う)
韓国は ICT 強国なので、特に設備面に関して日本を否定的に見る傾向があるが、実際はそうではないし、日本の国民がみている韓国は、政治とはとても違うこと。

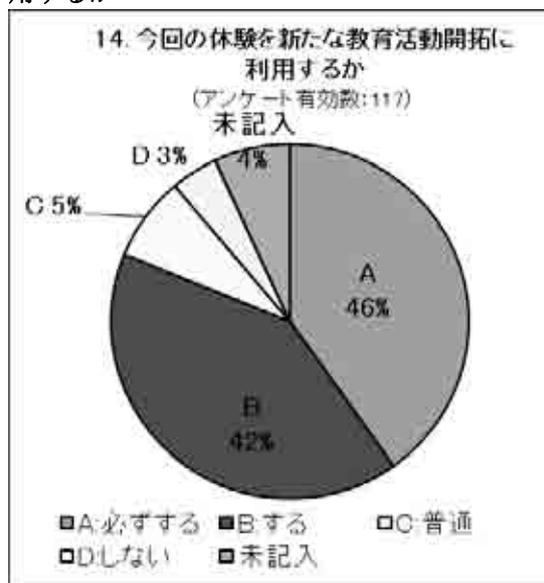
C-28 ユ・ジョンヘ (とても思う)
私の心の変化は授業中に自然に出ると思いますが、特に放課後の活動時間や朝礼/終業時に話すとします。その理由は私の良い経験を仲間の先生たちと子ども達に共有するのが国語を担当する私の役割だからです。

D-01 ベ・ユニョン (とても思う)
塾などの私教育で苦勞する学生たちに、もっと広い世界や世の中を教えてあげて幸せな生き方ができるようにしたいです。

D-07 ジョン・ヨンジュ (とても思う)
両国間の学校教育に対する見学を通してメリット・デメリットを深く研究し、メリットを更に発展させる方法などを同僚たちと話し合うことで持続的な教育の発展に役に立てたい。

D-12 キム・ミミ (とても思う)
感じた点が非常に多い。必ず生徒たちに詳しく聞かせて、今後日韓交流プログラムがあれば積極的に参加するようにして生徒たちが直接感じられるようにしたい。100 回言うより 1 度の経験の方が、効果があるはずだから。

質問 14. 今回の体験を新たな教育活動開拓に利用するか



【主な意見】*原文は韓国語

A-04 チュ・ジョンア (ある)

日本の学校の給食指導がとても印象的で、学校に戻ったら適用してみたい。

A-06 チョン・ジュヨン (ある)

ソウルにある世界文化遺産について、学生たちが長い期間において調査/研究して互いに発表することにより地域教育文化遺産についてプライドと理解を高める。そして世界のいろいろな国に英語で知らせて ESD を実践したい。

A-11 ジン・ヨジュ (ある)

2013年ユネスコ学校運営課題である”地域固有の文化を知らせる”のプログラムと連携し、2014年は地元でプライドを持つ学生を育てるプログラムを具体的に実践したい。我々の地域の文化を発掘し、調査し、紹介する活動をすることによって最終的には地元を誇らしく話せる知識人を養成したい。

B-03 ピョン・キョンスク (ある)

“読書を基盤にすると、討論も上手にできるということ”。私が読書教育に対する質問をした時に関係者の方と接した内容だった。

B-23 パク・スンシク (ある)

日本の小学校の ECO と自分が暮らしている地域と自然についての教育活動が印象深かつ

たため、本校の周りの河川に関する生体教育を実施するように勧める。

B-25 パク・セラン (ある)

ユネスコスクールとして、日・韓の教職員及び学生プログラムを運営する際に、日本で見て、学んだことを共有し、生徒の指導に活用するつもりだ。

C-03 ベ・ヒョニョン (とてもある)

学生自治会(生徒会)の構成を再編する予定である。橋本高等学校生徒会の構成やアイデアを見習って新聞委員会、環境管理委員会などの構成を教室でも導入し具体的に実践してみたい。

C-21 イ・ヨンジュ (ある)

大学院で ESD について続けて研究しながら日本の多様な教育事例をもっと知りたいです。

C-29 ユン・ヘギョン (ある)

学校施設、親切さ、準備の周到さ、学生たちのきちんとした姿など、さらに小学校の基礎基本教育の必要性、道徳教育など、良かったいくつかの点を授業に応用しようと思います。

D-01 ベ・ユニョン (とてもある)

水準別学習、発見学習、基礎・基本学習、プログラム中心で授業時間に教科別特性に合わせて適用してみたいです。

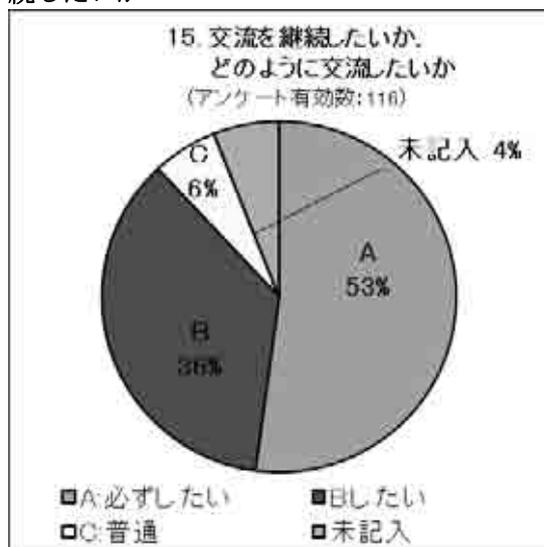
D-12 キム・ミミ (とてもある)

自分は公務員なので授業に適用できないと思うが、今後の交流事業をさらに積極的に推進したい。

D-19 イ・ジョンハン (とてもある)

- ・生徒たちに読書を勧めるために朝の10分間読書を導入
- ・地域の歴史についての授業を増やそうと思う。
- ・自ら自分の興味のある勉強や運動を選んで熱中できる環境を醸成したい

質問 15. 交流を継続したいか、どのように継続したいか



【主な意見】*原文は韓国語

A-10 ジョン・ミヒャン (思う)

教員との交流を持続、発展させていきたい
Eメール、訪問、交流を計画したいが日本語の実力が足りないので日本語の勉強を頑張りたい。

A-11 ジン・ヨジュ (思う)

2014年に国際交流事業を計画しており、日本との交流を推進する考えだ。具体的な細部事項は校長、教頭と相談し決める予定だ。

A-12 カン・ソンド (普通)

今回のようにユネスコを介さずには交流は難しいと思う。次回また機会があれば参加したいし、今度は個人資格で訪問して教育以外の分野で日本人に会いたい。

B-02 ペク・テグム (とても思う)

中・高校の教師と継続的に交流をしたいです。具体的な交流内容はまだ考えてないですが、2015年から新しい実践の行動の方向が設定できたら、それにしたがって教師及び生徒交流を継続したいと思います。

B-23 パク・スンシク (思う)

生徒たちの国際交流及び国際文化理解を高めたい。現在の世界化の流れに合う、つまり我が国の文化が大事なだけ異国の文化と教育も大切であることを理解させる教育が肝心だと思う。

B-24 パク・ヘリョン (とても思う)

共同授業、共同協議会をオンラインで実行してみたい。また、我が国と似た内容の授業が確実にありそうなので、お互い見させたい。

C-9 ジョン・ソンジャ (とても思う)

授業に関連する交流をしたいと思う。日本語ができない教師の場合、授業の資料を日本語で作成し、サポートしてもらいたい部分を日本語で作成して授業の前に、チームティーチングできるようにすると良いだろう。授業映像資料、パワーポイントなどを日本語と韓国語で説明を挿入すると、気軽にレッスンをすることができそうだ。

C-24 パク・ジョンヒ (思う)

特に東京にある高校と交流したい。Skypeを通じた授業をしてみたい。日本のネットが円滑であれば、韓国と日本の学生たちのKeypalをして、英語教育の実際化につなげたい。

C-27 ユ・ヨンドク (思う)

日本人の韓国滞在時に案内及び招聘等に参加

D-02 ペク・クァンウン (思う)

Eメールを通じてお互いの意見交換と多様な交流を進行し、これらをもとに学生たちにも持続的な交流と発展の機会を与えたい。

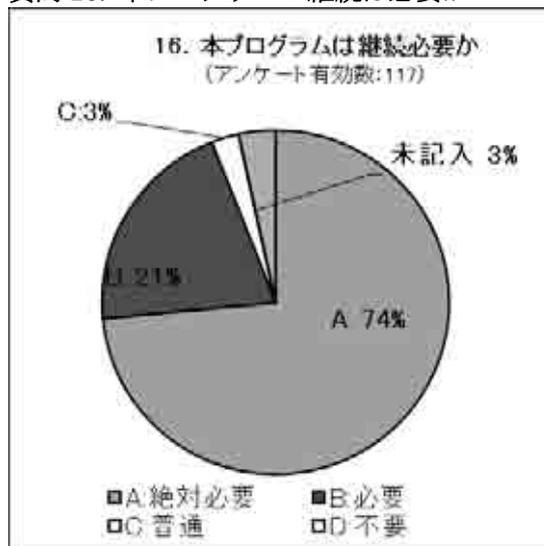
D-10 キム・ケサン (思う)

- ・生徒および教師、姉妹学校との相互交流
- ・オンラインを通じた相互交流
- ・同じ目標で同じ活動(例えば、帽子編みを両国で一緒の時期に実施し、帽子を必要としている地域(アフリカなど)へ一緒に送るなど)

D-19 イ・ジョンハン (とても思う)

授業をしていた生徒たちや家庭訪問をしていた教育委員の方々と定期的に手紙をやり取りして徐々に生徒の交流訪問もできるよう、教育庁にも持続的にアピールしようと思う。生徒の交流は音楽やテコンド等を通じて行いたい。

質問 16. 本プログラムの継続は必要か



【主な意見】*原文は韓国語

A-07 ジョン・スンジン (絶対必要)

互いに知らない点がとても多い。来る前のイメージは良くない場合が多かったが積極的に交流すれば違ってくると感じた。

A-10 ジョン・ミヒャン (絶対必要)

先入観の除去、両国間の交流の活性化、教育の発展、協力のためにもこのプログラムは持続すべきだ。韓国の多くの教員がユネスコESDプログラムや招聘プログラムを通じて、自分が思っていた日本の国民性について先入観を持っていたことが変わることが感じられる。相互理解/協力して発展して行ってほしい。

A-26 パク・キョンオク (絶対必要)

政治的な対立を緩和するためには人間的に理解する必要がある。対立の溝が深くなるほど、このようなプログラムを増やすのが望ましい。

B-10 カン・ウンジョン (絶対必要)

未来世代を育てる教師としてお互いに対する理解が必要だ。今後とも国際理解を通してお互い理解する機会がたくさんあってほしいです。

B-23 パク・スンシク (必要)

お互いの教育、文化などの理解のために必要だと思い、より拡大して日本だけでなく世界各国とも交流を深めたい。

B-25 パク・セララン (必要)

日韓関係は、ユネスコのESD・EIUを核心とした教育を各国へ広め、実行できる位成熟した関係になっていると思うため。

B-30 リュ・ウンジン (絶対必要)

日韓両国は政治的に常に国家間で緊張関係にあるために、“教育”というテーマにおいて交流を持続的にすべきだと思う。

C-18 イ・ヘソク (必要)

ユネスコの理念を達成するために一番効果的。

C-21 イ・ヨンジュ (絶対必要)

両国の文化を正しく理解し、国際的なマインドを高めてグローバル市民教育についての土台をつくるためです。

C-24 パク・ジョンヒ (絶対必要)

私たちは学生にたくさんの影響を及ぼすことができる教師だ。教師の一言がその学生たちの思考と価値観へたくさんの影響力を及ぼす。このようなプログラムに教師が参加することで、左右に偏らず、客観的な思考を持つことができ、それを学生たちに伝えることができる。学生たちに客観的な思考と多様な経験を聞かせることができるので必ず必要だと思う。

D-01 ベ・ユニョン (絶対必要)

教師の質が教育の質を左右する。先生たちの考えが変わると教育を受ける学生の考え、人生も変化する。教師研修とユネスコ招聘プログラムのおかげで非常に役に立ったと思う。

D-12 キム・ミミ (絶対必要)

日本と日本の教育を直接感じる事ができた。このような交流が国家間の友好関係に持続・発展できるだろうと確信し、韓国の学生に日本の教育の良い点を経験させ、問題点を改善したい。(何故か韓国には日本の否定的な姿の方がたくさん入ってきている。このような直接交流プログラムでなければ、良い姿を経験しづらいと思う)。

D-15 イ・ビョンノ (絶対必要)

変化を通じた発展または経験を通じた行動・ビジョンを実践のための持続的な交流が必要。

質問 17. その他気付いた点

【主な意見】*原文は韓国語

A-20 イ・キョンヒ

自国また地元の文化遺産に対する愛郷心を感じ、韓国の子供達にも薄れていく国家・地元に対する愛郷心の育成に注力すべきだと思った。意味のある活動に参加でき、とても嬉しく思います。主催者の方々にも感謝します。

A-26 パク・キョンオク

韓国は日本に比べてくさんの予算を教育に投資していた。施設、給食、教育プログラムなどを比較するとすべて韓国のほうが現代的で進んでいると思った。しかし、韓国の学生は礼節（給食後の牛乳パック洗い、書道、伝統教育）においては日本に後れを取っており、学ぶべきところが多かった。まともな人間を育てる教育のため、韓国はもっと熾烈に悩むべき。

A-27 ソ・ウニョン

学校教育過程で ESD の実現は韓国の方が進んでいると思いました。現在ユネスコ委員会で主管する青少年世界市民宣言などを日本に紹介する資料が普及され、韓国の ESD 教育についても知らせることが望ましいと思います。

B-04 チュ・ソンヨン

目標達成・志向的な教育ではなく、楽しく見て聞いて感じる過程を通して習得と学ぶことが成り立つ日本教育現場が印象的だ。そして共生教育による礼儀正しい態度。

B-05 チョ・チャンナム

日本学校を見てみて韓国教員や生徒たちがとても豊かな生活をしていると思った。こんな環境が 10 年 20 年後はどんな結果で現われるか知りたい。しかし日本の教育環境が悪いということはない。むしろとても豊かな環境で育った韓国の子供達の未来が暗くなるのではないかと心配になった。両国が教育の過程と成果を共有して試行錯誤を減らして行きたいと思う。

B-23 パク・スンシク

公立/私立学校の相違点や実質的な教育課程を知ることができた。また、小・中学校の相違点を、直接訪問し、参観することを通じて知ることができた。どの国も児童と青少年たちの人間性教育のため、家庭・地域社会・学

校がお互い協力して教育するように努力していたことを知った。

C-26 パク・ミノク

1、日本の学生たちの勉強する様子を実際に見られて良かったです。
2、授業参観で大まかにみるよりは一時間でも一教科を集中的に見たかったです
3、ユネスコ学校の実質的な活動や ESD の具体的な活動を見たかったです。

C-29 ユン・ヘギョン

1、教科書だけで感じていた日本に対する考えが今度の旅行で変わった
2、日本も韓国ほど教育についての変化と関心、情熱があることを確認できた
3、基礎・基本教育の大切さをもう一度実感できた
4、21 世紀の持続可能な明るい希望の光がみえた

D-01 ペ・ユニョン

日本人か韓国人かが重要ではなく私たちは皆地球人という言葉が一番記憶に残っていて、生きる力を持った人間を育成するために努力する姿が印象的だった。私教育に頼らず自己主導的な学習ができるように指導しなくてはいけないと思いました。親切で気配りができる優しい学生たちも忘れることができないと思います。芸術・体育などの部活も良かった。

D-05 チョ・ヘギョン

日本の家庭教育および基本教育について良いと感じた。

D-07 ジョン・ヨンジュ

家庭訪問時、とても親切に歓迎して下さり、日本人に対して親密さを感じた。生徒たちがマスコミで報道されるより純粋で優しく、秩序を守りゴミの分類についても良く教育されていることに感銘を受けた。

D-18 イ・ジェドン

韓国と日本は近い隣人として発展できるといふ信じる気持ち。同質的文化認識。教育の発展と改善を通じた未来の人材育成の必要性を認識。

※韓国教職員のコメントと提案は、プログラム終了時に参加者に記入を依頼した「総合評価票」をまとめたものです。

◆2. 受入れ教育委員会

Aグループ

奈良市教育委員会事務局

指導主事 西口 美佐子

プログラムの全体的な印象

- 韓国教職員は、積極的に奈良市内の教職員、市教委職員と関わっていたので、親交が深まった。また、子どもたちとも一緒に歌を歌ったり、ゲームをしたり等、意欲的に関わっていた。
- 特に、奈良市が進めている世界遺産学習について理解を深めていただいたと感じる。
- 報告会では、ESD や世界遺産教育は難しく取り組みにくいと思っていたが、奈良市の世界遺産学習の考えや取組を学ぶことで、韓国においても身近なところから実践できると感じた、韓国でも世界遺産学習に取り組みたい、世界に広めたいと言っていたのがとても印象深かった。

プログラム成果

- お互いに意見を交換し合う中で、教育に関して同じような問題を抱えていることを知り、理解が深まった。
- 子どもたちが片言のハングルで質問したことについて韓国教職員が答える等ふれあいの中で、子どもたちの韓国や外国に関する興味関心が高まった。
- 韓国教職員を受け入れる学校では、事前学習に取り組み、ハングルで教室掲示をしたり、名札を作ったりする等、国際理解教育に意欲的に取り組めた。
- 来日された韓国の先生から、日韓中3か国の子どもたちが交流する計画が提案され、今後さらに韓国との交流を進める道筋ができた。

苦労した点

- ホームビジットを募集したが、人数が集まらず、NPO 団体に依頼して確保し

た。

- 食事会にもう少し多くの方に参加いただけたらよかったと感じた。

加えるとよいと思われる活動

- 交換授業は、日本の児童生徒にとっても韓国の先生にとっても大変良い体験になると思うので、積極的に進めたらよいと思う。

プログラムの改善に向けた助言

- 韓国教員受け入れ校が訪問した教員と継続的に交流できるような支援体制を構築してほしい。(グループサイト、学校データベースなど)

Cグループ

橋本市教育委員会学校教育課

指導主事

森下まちこ、辻脇昌義

プログラムの全体的な印象

- 昨年度に引き続き、受入をさせていただき本当にありがとうございました。今回も橋本市の教育を小・中学校を中心とした縦の連携と学校と地域、保護者の横の連携を中心に説明をさせていただき、韓国教職員側からもたくさんの質問をいただきました。総合的な学習の時間での体験活動や地域との連携については、共通の関心事であり、ESDの視点でお互いの交流を深めることができました。教育論議をしているときや、高野口小学校でそれぞれの韓国教職員に授業をしていただいているときは、国やシステムが違っていても、やはり同じ教師マインドをもっていて、教育にかける情熱は同じであると感じました。授業終了後の、子どもと授業をとおして触れ合えた、ほっとした先生方の笑顔が印象的でした。それにしても、高野口小学校児童の韓国語や韓国文化等の授業の吸収力の速さには驚かされました。ある韓国の先生は、「まるでスポンジみたい。」と驚いていま

た。また、高野山訪問についても雪の心配があつて韓国の先生方には万全の足元の準備をしていただきましたが、いい天気にも恵まれ、短時間ではありましたが世界遺産を観ていただくいい機会となりました。また、最終日となったホームビジットも最後の別れ際の別れるのが惜しそうな光景を見ていると、それぞれの先生方がそれぞれのホストファミリーと楽しい時間を過ごすことができましたようです。今回は、英語や日本語を話せる韓国教職員が結構いましたので、より深くコミュニケーションをすることができました。滞在時間をもっと長ければ、いろいろなトピックについてももっとじっくりと話をしたかったです。最終日の前日の夜のレストラン「らくや」での夕食会は、韓国の先生方も全員参加で、お互いリラックスしながら、本当に楽しい時を過ごさせていただきました。特に団長様の歌とダンスは最高でした。歌や踊りはやはり世界共通ですね。また、いつか韓国教職員の皆様と再会できることを楽しみにしています。

プログラム成果

- まず、一点目として、受入側の橋本市教育委員会や受入学校が自分たちの教育方針や教育内容を発信し、違った角度から質問等をいただくことで、その方針や内容を確認したり、見直したりすることができたことです。発表用プレゼン等の作成には時間も要しますが、異文化の国の教員に自分たちのめざしていることを明確に伝える工夫をすることによって、より深く自分たちの取組を再認識することができました。
- 二点目は、ESD の推進です。ESD の視点を全面に出しながら交流できたので、今後の ESD の推進につなげていけるとおもいます。まだまだ、ESD そのものは市内の教職員に浸透しているとは言えない状況のなかで、こういったプログラムを活用し、外部からの刺激をいただきながら前進していきたいと考えています。また、ユネスコスクール

登録も徐々に増やしていきたいと考えています。

- 三点目は、異文化理解と交流の推進です。各学校訪問は短い時間でしたがそれぞれの児童生徒や教職員と触れ合うことにより、異文化を感じあえたことと思います。お互いの文化や考え方、システム等の違いや類似点に気づき、それらを排他するのではなく受け止めていく態度、姿勢をこれから生きる子どもたちには身につけさせていきたいと考えています。交流につきましては、出会いのチャンスをいただけたのが何よりの成果です。橋本高等学校では、学校長が姉妹校として手を挙げてくれる学校を探しておりました。市内小・中学校におきましても学校レベルで交流ができればと考えています。同時交流できるテレビやネット関係の機材が整備されていないという課題はありますが、近い将来実現をめざしています。

苦勞した点

- 日程が昨年度より1日少なくなったため、スケジュールがタイトなものとなってしまいました。もっとそれぞれの場所で時間的余裕を持ちたい、ゆっくりとしたいという声が、受入学校教職員、韓国教職員の両方からありました。（教育委員会事務局は最初から承知のうえでのスケジュールだったので。）
- 韓国語を話せる通訳探しに時間をとってしまいました。昨年度から続いてお願いした方もいましたが、人数が足りなくて、直前まで人を探す必要がありました。
- 訪問学校との細部の打ち合わせが甘くなってしまいました。細部の確認をきちんとしないまま、本番になってしまいました。特に、高野口小学校での授業の準備関係は、PC や音響、テレビ等の準備に苦勞しました。韓国では普通の通常授業でできることが、ここではPC が足りなくて、PC を他校から借りてくる必要があつて、ICT の面ではま

だまだ遅れていると感じました。

加えるとよいと思われる活動

- 日韓教職員同士のじっくりと時間をかけた教育や教師の仕事についてのトークタイムの設定（普段の何気ない疑問点を出し合える機会があれば双方にとって有益）
- 日韓教職員が事前にテーマを決めて共同で行う共同授業、体験活動等（事前打ち合わせ等が可能であれば・・・）
- 書道や茶道、華道等の日本文化を体験する機会の提供

D グループ

小松市教育委員会

指導主事

東口 幸央

プログラムの全体的な印象

- 海外の教職員とほとんど話すことがない中、貴重な体験ができたことはよかったです。
韓国の教職員のほとんどの方は、英語での会話を通じたことが、今の自分ではできないので、今後、語学力を付けていかないといけないと感じました。そして、今の児童生徒が大人になった時にそのような思いをしないように教育の充実を図らなければならないと思いました。
- 韓国の方からは、教員の報酬や受験のことの質問が多くありました。日本ではあまり報酬のことは聞かないので印象に残りました。

プログラム成果

- 最初に書きましたが、語学力をつけなければならないと考えるようになり、自分自身の意識の向上につながりました。また、小中学校での英語教育の在り方も考えるようになりました。
- 教職員と話をする中で、韓国の英語教育と受験のことについて聞くことができよかったです。

加えるとよいと思われる活動

- 今回日程の都合で学校訪問が中心となりました。文化施設、教育施設も取り入れたいですが、観光名所の案内など学校教育以外の場所も見学する時間があればよいと思いました。（石川県といえば金沢、兼六園や近江町市場なども小松からは1時間程度かかるがせっかく韓国から来日されたのであってもよかったですと思います。韓国の方は行きたがっていた）

◆3. 主な受入れ学校および機関

A グループ（東京近郊）

●慶應義塾高等学校

教諭

大竹優志

プログラムの全体的な印象

- 最初は双方に緊張が見られ重々しい雰囲気の中でのレセプションでしたが、レセプション後に韓国滞在経験があり、韓国語が堪能な地学の杵島先生が韓国語で挨拶した瞬間から、場の雰囲気が和み、一気に会話が弾みました。交流はとても楽しく、韓国の先生方も楽しんでいただけたように感じました。たくさん先生と仲良くなり、学校見学やランチ中に様々な話をすることができました。「生徒が明るく元気いっぱいなのが印象的」と何人からも言われました。韓国の受験勉強中の同じ高校生と比べると大学受験のない本校の生徒はストレスを感じていないように見えたのだと思います。
- また本校の生徒、教員にも韓国の先生方との交流の中で他の文化、価値観に触れることの楽しさ、大切さを感じてもらえたように思います。次の日に生徒が「初めて自分の英語が通じてうれしかった。」と言っていたのが印象的です。韓国語がわからなくても、英語が

使えるだけで気持ちを伝えることができるということに生徒が気付いてもらったのがとてもうれしいです。

プログラム成果

- ▶ 本校はとても伝統のある学校です。その反面、とても保守的で外国に接したことの少ない先生が多いのが私の印象です。学校を挙げての教員同士の国際交流も今回が初めてでした。職員会議でも今回の訪問を不安視する意見をお聞きしました。しかし、当日は本校の教職員、生徒の協力のもと、素晴らしいおもてなしができたと思います。たくさんの方々が交流に参加して頂き楽しんでいただきました。1、でも述べましたが生徒もこの交流から普段の英語の授業では得られない外国人との交流を体感することができました。あと数年で本校は70周年を迎えます。その事業の1つに本校の国際化があります。今回の教員交流が様々な国際交流プログラムを立ち上げるきっかけとなってほしいと考えております。

Aグループ

●奈良教育大学

専任講師

中澤 静男

プログラムの全体的な印象

- ▶ 韓国においても、文化遺産の教材化が行われていると聞き、よかった。
- ▶ 奈良ASPネットワークの教員が自主的に参加し、本音トークする機会をもつことができたこと。

プログラム成果

- ▶ 学生と韓国教職員が一緒になってインドネシアの楽器、アンクルンを演奏できた。学生にとって、海外を意識する機会となったと思う。

苦勞した点

- ▶ 学生の授業と重なったため、参加学生を集めるのに苦勞した。

- ▶ 日本・韓国総参加者数が70名と多かったのですが、いただいた予算では十分なおもてなしをすることができなかったのが残念だった。

加えるとよいと思われる活動

- ▶ 今回、訪問先以外の学校から日本人教員が積極的に参加して韓国教員との交流ができた。そこで、訪問以外に参加を希望する教員を募り、韓国の教員と一緒に何か作業する時間を持つことができれば、個人的なつながりが生まれ、その後の学校間交流にも発展するのではと、思った。

●奈良市立飛鳥中学校

教頭

梅元 雅人

プログラムの全体的な印象

- ▶ めったにない交流ができて良かったと思っている。懇親会に於いて反日感情の質問をなげかけてみた。「80年代は厳しいこともあったが、今は友好的な考えが多くなっている。ただ、政治色の強い学校に於いては、その限りでない」等の話も聞いた。また、「日本の防災教育が進んでいる是非学んで帰りたい。」等、双方の情報交換が有意義にできたことは今後の両国における友好関係に大きく貢献するのではと感じているところである。

プログラム成果

- ▶ 日本の（本校の取組）学校の考え方や抱えている問題について、話をしたが共感頂き、参考になったとの意見をいただいた。さらに本校の場合、生徒会の活動も話したがそれらの取組にもいい評価を頂いた。係の生徒達も大きな自信につながり喜んでいる。外国の教員団にプレゼンする機会を与えていただき子ども達が一段と成長した気がする。

苦勞した点

- 今回は、6年生の体験入学の様子と生徒会の防災教育の取組等、はっきりした内容があったので特に準備で困ったことはなかった。管理職と生徒会の担当者だけの対応だったので、他の教員たちにも話をする機会があればよかったと思う。

加えるとよいと思われる活動

- 来日される先生方の質問内容や両国の友好的な教育プログラムの開発など事前に資料交換しながら当日、もっと深い交流ができたらい。

プログラムの改善に向けた助言

- 校種別・分掌別に詳しい情報交換（授業テクニック・部活指導）を行い、両国の親睦を図りたい。

●奈良市立伏見小学校

栄養教諭

山中淳代

プログラムの全体的な印象

- 韓国教職員の先生方が日本の曲としてイメージし、歌う練習をされていた「さくらさくら」を、6年生児童が箏により演奏した際、自然な流れで演奏に合わせ一緒に歌って頂いたことは、日本の文化を共感して頂く非常に印象的な場面だった。また、感性的な音楽や図工の作品鑑賞は、言葉の壁を感じることをなく感動を生み、心揺さぶる貴重な機会となった。そして、文化交流授業は、メディアを通じて得る情報ではなく、韓国の文化について直接触れ合うことで本当の意味で理解できること、テキストで学ぶ以上に理解しようとする気持ちを高めることが出来たと思う。児童をはじめ、学校全体で取り組んだおもてなしに感動を持って頂いたことは、本校としても大変嬉しく思った。
- 教職員交流での感想として、「ESD・世界遺産学習の取組は難しいと捉えていたが、今日の実践報告を見せて頂き、

難しく考えすぎていると感じた。具体的には地域遺産“直指”を教材とした取組をやっという感想を頂いた。本校の地域遺産学習に対する思いを、しっかりと伝えることが出来たと感じた。

プログラム成果

- 文化交流授業では保健室登校だった児童が半年ぶりに学年教室まで出向き、廊下から授業の様子を見学することができた。また、3年生合同音楽授業では、初任者である担任が子供たちの頑張る姿に感動し、涙する場面もあった。訪問受入は大変というイメージがあるが、子供たちは非常に楽しみにし、普段以上に頑張る子供たちの姿を垣間見ることが出来るなど、本校としては得るものが多い貴重な機会であった。

苦労した点

- 慌ただしい日程でしたが、学校紹介・教職員交流・交流授業・校内見学・児童との給食と盛り沢山の内容を実施することができた。14時までの滞在時間であったならば、掃除見学ともう少し教員交流時間も持てたと思う。困難だった点は、交流授業の通訳手配と授業内容の確認である。通訳がない環境で子供たちが授業内容を理解するには無理があり、英語や翻訳アプリ等でコミュニケーションが取れるホームビジットよりは、多くの児童を対象とした文化交流授業の通訳が優先であってほしいと思った。歓迎会に出席することが出来たので、韓国の先生方が必要とする準備物を確認することが出来たけれど、メール連絡の内容とは相違があった。韓国と日本との教室 ICT 環境の違いによる認識不足もあることから、TV・パソコン・スピーカーは連絡がなくても準備しておくと思った。
- また、授業番号とクラス番号が違ったため誘導係りの子供たちが非常に戸惑った。スムーズな運営のためには直前の打ち合わせが必要だったと思った。

- 韓国語の学校要覧とプレゼンを本校で準備した。翻訳手配は大変であるが、学校紹介の理解を深めた効果は大きく、大変好評だった。

加えるとよいと思われる活動

- 今回若草山の山焼きが始まる直前に奈良を出発されたことは非常に残念。後のスケジュールはフリーだったのでせめてあと1時間滞在が伸ばせたらと思った。
- 奈良市の世界遺産観光は、案内だけではなく、日程や日本の教職員の調整ができるのであれば、教員交流を兼ねてグループ見学がいいのではないかと思う。(ソウルでの世界遺産探訪スタイルが良かったので。)

プログラムの改善に向けた助言

- 今回参加者の中に韓国で訪問した学校と教育委員会の先生方のお知らせがあったのですが、ソウル世界遺産探訪参加者及び清州市ホームビジット受入の先生方は、最終日にようやく認識できるという残念なことがあった。また、日本語が話せるということでリストに掲載されていたにも関わらず、話せないという方がいた。後々支障をきたす場合もあるので正確な情報であって欲しいと思う。

●奈良市立並松小学校

校長 井本 章子

プログラムの全体的な印象

- 本校は山間にある小規模校。あまり外国の方と接する機会がなく、とても良い機会でした。
- 受け入れに当たって、事前学習や、担当（子どもに国旗制作・ハングル・あいさつ・文化指導・掲示作成・お土産作成 お手紙作成）などを決めて全校体制で取り組みました。そして、課題であった児童の発表力をつけよう！の発信場所として、地域の方や保護者に

も参加してもらいました。歓迎交流会として参観日に実施しました。少し冒険でしたが、「ふるさとに自信を持ち、ほこりにして発表する」という目標が達成できたと喜んでます。認めてもらい、ほめてもらい、笑顔で接してもらい子どもは成長できました。

- 地域や保護者にも「良い機会で、子どもたちは大きな声でがんばったね」と好評でした。最後に、トンネルでお見送りも、保護者や地域の方も参加してくださり良かったです。

プログラム成果

- 子どもの自信につながったことです。発表する場や交流の場を設けてもらい、認められることで成長すると考えます。緊張もしたようですが、短い間でしたが、給食や授業に入っただき楽しかったと言っています。
- 職員・子ども・地域も視野が広がり、国際交流の楽しさを味わえました。
- このプログラムに当たり、職員・子どもがチームワークを発揮してよくまとまり取り組めました。
- 韓国の先生との話で授業や文化の違い、教員の共通の課題などに気付きました。
- 近くてもなかなか知らなかったお隣の国について、事前から本番から事後と学びを継続できました。

苦勞した点

- タイムスケジュールが少しきつかったこと
もう少し時間があれば、最後に自由な交流ができたかと思います。
みんなで「さくら」や「アリラン」を歌ったら楽しかったと思います。
子どもも、身振り手振りで伝えあう喜びを感じる場がもう少しあったらいいなと思います。

加えるとよいと思われる活動

- これからも、スカイプなどあれば学校間交流ができるなと思います。

プログラムの改善に向けた助言

- 大変有意義なプログラムです。このプログラムがこれからも実施されますよう願います。ありがとうございます。

Bグループ

●稲城市立稲城第四中学校
校長 杉本 真紀子

プログラムの全体的な印象

- 生徒も教職員も、また地域も、大変意義のある経験をさせていただきました。特に、韓国の先生方が生徒に親しみをもち接して下さったこと、踊りを披露したり服装や言葉について教えて下さったりしたことにより、生徒たちが楽しく異文化に接することができ、感謝しております。25日(土)のホームビジットについても、各家庭、大変楽しかったと言っていました。

プログラム成果

- 中学生が異文化への理解を深めるよい機会になりました。特に、韓国の先生方から積極的に話しかけていただいたことにより、外国の方とのコミュニケーションを実際に体験でき、自信がついたと思います。
- また、熱心に掲示物を見ていただいたり、教育活動についてご質問いただいたことにより、学校としても客観的に教育活動を見直すことができました。

苦勞した点

- 事前に、どのような交流場面を設定させていただけばよいか、迷いました。実際には、韓国の先生方のお陰で円滑に進みました。

プログラムの改善に向けた助言

- ホームビジットの際、日本の家庭は、

事前の案内等から、「10:30～13:30」のプログラムと受け取り、内容等を計画していたようですが、実際にはご説明やボランティアの方へ事務手続き等が生じていました。日本人は時間を守るという習慣がありますので、今後ご案内方法や当日の進行についてご検討いただければと思います。

●稲城市立稲城第二小学校
副校長 石川 育代

プログラムの全体的な印象

- 国際的に厳しい状況下での来日、来校に感謝しています。子どもたちと明るく接して下さり、大変嬉しく思いました。
- 短い時間でしたが、積極的に子どもたちや教職員と交流して下さいました。参観された授業の良い点なども直接伝えてくださるなど、大変フレンドリーでした。
- 交流授業も一生懸命準備して下り、児童にとっても国際理解のいい経験になりました。
- 韓服で来校して下さった方が数名いらっしゃり、印象に残ったという児童が多くいました。

プログラム成果

- 本校児童にとって、韓国に親しみをもつことができたこと。
- 教職員が外国の方と英語やボディランゲージなどでコミュニケーションをとることができたこと。
- 本校の研究(ESD)について伝える場が設定できたこと。

苦勞した点

- 午前中という短時間の中で、十分な交流ができなかった点。特に、交流授業はせっかく準備して下さったのに、時間が足りないところが多かった。折角なので、延長してやっていただいたが、授業参観の時間を削ることになっ

てしまった。また、授業について等、教師間で交流する時間がもてなかった。

加えるとよいと思われる活動

- 交流授業
- 教師の交流

プログラムの改善に向けた助言

- ACCUの方の事前の支援（翻訳など）がありがたかったです。
- 通訳の人数が限られていたので、通訳のいない学級の交流授業は片言英語で行ったが、うまくいかない面もあった。
- 視察の観点（見たいもの）がわかっていると、準備、提供できることもあったかと思えます。

●稲城市立稲城第六小学校

副校長 戒 勝一

プログラムの全体的な印象

- 今回の韓国教職員の皆様の訪問は、教職員を含め子供達にとって、とても有意義で心温まる交流でした。韓国の先生方は、高等学校・中学校そして小学校の先生でしたが、先生方に行っていた子供達への授業は、それぞれの先生が韓国の文化・風習を子供達に伝えようと工夫を凝らし、小学校1年生から6年生までのそれぞれの学級で、子供達に温かい働きかけや言葉かけを行っていただきました。言葉は分からなくても、言葉以上に自分の思いを伝える事ができるということをお子達が体験として学んだことは、とても貴重な体験学習であったと考えます。

プログラム成果

- 先に述べたように、子供達が、言葉は分からなくても言葉以上に自分の思いを伝えることができるということをお子達が体験として学ぶことができました。また、韓国の先生方が明るい表情で子供達へ働きかけてくださり、自分

達の文化や風土を伝えようと工夫を凝らしたりして、授業に取り組まれる姿勢は、本校の教職員にとってもとても良い刺激となりました。また、夏に韓国に訪問させていただいた本校の教員は、訪問の後、本校で「韓国訪問で学んだこと」というテーマで教職員の研修会を行い、他の教職員も、他国の教育制度について学ぶこともできました。訪問した教員をはじめ他の教員にとっても、教育に対する視野が広まりました。なお、ホームビジットを引き受けていただいたご家庭から、「とても楽しく有意義な体験をさせていただいた。機会があれば、また、我が家にお願ひします。」との言葉を、全家庭から聞きました。

苦勞した点

- 特に苦勞した点や困難だったことはありません。当初は、言葉が通じなければどうしようかという迷いだけはありませんでしたが、それもお会いしてすぐに解消しましたのでこの事業にかかわれたことを幸せに思っています。本校にとって、貴重な経験だった考えます。

加えるとよいと思われる活動

- 時間の制約があるので、今回の内容で良いと思います。

プログラムの改善に向けた助言

- ホームビジットのご家庭で過ごす時間をもう少し確保できると良いと考えます。各家庭でいろいろな企画がされており、時間が少ないために十分なおもてなしができなかったのが残念だったと聞いています。

Cグループ（東京近郊）

●青山学院高等部

英語科教諭 梅津 直子

プログラムの全体的な印象

- 普段なかなか接することのできない先生方をお迎えする機会に恵まれて大変勉強になりました。最後に代表の方がおっしゃった「歴史は変えられないけれども、未来を担う若者を韓国と日本で協力して育てていきたい」という言葉が印象的でした。

プログラム成果

- 韓国の先生方と一緒に平和について考える機会が与えられたことは大きな収穫でした。また、韓国の先生方がする質問を通して、本校が行っている教育について外から見つめなおすことができました。

苦勞した点

- 特にありません。ユネスコの職員の方々がとても丁寧に企画・運営されていたので、何一つ不安なく当日を迎えることができました。

加えるとよいと思われる活動

- 教員間での交流の時間が非常に有意義だったので、これからもそのような時間をしっかりもてるプログラムであれば良いと思いました。

プログラムの改善に向けた助言

- 事前に、韓国の先生方が学校のどのような面を見たくて来ているのかを詳しく知ることができると、準備がもう少しやりやすかったかもしれません。

●橋本市立橋本小学校 校長

南 知孝

プログラムの全体的な印象

- 韓国教職員の方々を迎えるにあたって、事前打合せや諸準備等で繁忙を極めたが、終わってみると本校教職員や児童から、「緊張しつつもとても楽しく、良い思い出になった。」という声が数多く

聞かれた。本校にとって、異文化と触れあうまた異文化理解を促す有意義な機会となった。

プログラム成果

- 韓国教職員の方々には各学級に入っただけ、給食、清掃、遊び等々、児童とともに過ごしていただいた。お互い言葉は通じないものの、アイコンタクトやジェスチャー等一生懸命コミュニケーションを図ろうとしていたことが印象に残る。児童にとっては、外国の方と直に接する良い機会になるとともに忘れられない貴重な思い出となったようである。
- ホームビジット（4名の教員を2家庭で）をお引き受けしたが、いずれの家庭にも通訳を配置していただいた。おかげで、教育のこと、家族のこと、食べ物のこと等々、和気あいあい且つフランクに語り合うことができた。双方の教職員にとって、国際理解、国際交流を図る有意義な場となった。また、ホームビジットには、管理職も含めて本校の教職員が組織的に関わったことで、以前にも増して連帯感が育まれたように思われる。蛇足であるが、日本食（おでん、お好み焼き、たこ焼き）には、全員舌づつみを打ってくれたようである。

苦勞した点

- 学校訪問では、限られた人数の通訳しかいなかったので十分なコミュニケーションを図ることができなかった。

加えるとよいと思われる活動

- 双方の教育事情について、意見交流する時間が日程上僅かしか確保できなかったことが残念であった。減多にない機会であるので、もっと、ゆっくりと時間をかけて話し合いたかったという教員の声も多かった。（通訳が入るということで、実質半分の時間となる）

●橋本市立橋本中学校

校長 辻 正雄

プログラムの全体的な印象

- 本校、小学校の交流授業を公開授業として観ていただいた際、「ことばの教室」の担当者の先生からその活動内容や対象児童の障害程度やエリアをこと細かく熱心に聞いていたのが強く印象に残っています。
- 後の教員の交流会でも特別支援教育に関する質問が出ておりました。韓国の先生方にとって日本の特別支援教育の在り方に強い関心がある印象を持ちました。

プログラム成果

- 非常に慌ただしくて十分なおもてなしが出来なかったかも知れませんが、小学校・中学校が一緒になって来校いただいた30名の先生方と随行の方々をお迎えすることで、また新たに小中の一体感が生まれた実感がありました。
- 当日、先生方の交流だけでなく歓迎セレモニーで児童会・生徒会が一緒になって歓迎の意をコメントとして述べたり、小学5年生の器楽演奏やブラスバンドの演奏と飛び入り生徒による「恋するフォーチュンクッキー」のダンスなどおいでいただいた方を歓迎する表現活動が伸び伸び出来たことが子どもたちにも成果になると考えます。

苦勞した点

- 午前11時30分に到着して、その後、慌ただしく歓迎セレモニーに移るという流れは、余りにも忙しく、給食を小学校で韓国の先生方に入ってもらって食事しながらの交流というのは小学校にとっては、大変忙しかったと思います。

加えるとよいと思われる活動

- 今回のような一校の時間設定の中で、新しいものを加えるのは難しいと考えます。それより、本校職員にとってグループ協議を楽しく交流できた場と感じた意見が多かったのでその時間をもう少し取れる時間設定がいいかと思えます。

●和歌山県立古佐田中学校・橋本高等学校 教諭 西浦 博之

プログラムの全体的な印象

- 韓国の教職員の方は親しみがあり、初対面とは思われないほど活発な意見交換ができ、生徒にも質問をたくさんしていただき本校にとっても有意義な交流訪問でした。
- 特に、ESDについての韓国の先生による発表は、興味深く大変参考になることが大きかったです。
- 今後、複数の学校とメール等のSNSを利用して交流しようとアドレス交換しました。

プログラム成果

- 特に、ESDについての韓国の先生の発表です。来年度、ユネスコ・スクール登録後の生徒へのESD（持続発展教育）の具現化として、つきたい力をどのように育てるか具体的な方法を考えるヒントが得られました。

苦勞した点

- 事前に東京から担当者の方に来校していただき、加えてメール等で計画の打ち合わせを行うなど、スムーズに企画・運営することができました。
- ただ、午前中の訪問だったので、十分な企画ができず失礼ではなかったかと危惧しております。

加えるとよいと思われる活動

- 今回のESDの発表のような韓国教職員の方からの実践的な取り組みを享受

させていただき、本校の今後に生かされたらよいと思います。

- 生徒との交流を考え授業参加などを取り入れることが、より日本の学校教育の現状を理解していただくには良いと思います。

プログラムの改善に向けた助言

- 今回は、時間が十分にとれなくて残念でした。次回は更に充実した計画・運営をしたいと思います。

●橋本市立あやの台小学校 校長 佐藤 昌吾

プログラムの全体的な印象

- 本校へは、新設校として、施設を中心にした見学で来校いただいた。教員の方々からはE S Dに関する関心の高さが感じられた。

プログラム成果

- 短時間の訪問であったが、訪問日に合わせ「おもてなし」の心得を全児童で学ぶことができたことから、心から訪問を歓迎する姿が見られた。

加えるとよいと思われる活動

- 今回は短い訪問だったので、無理があったが、韓国の先生方と子ども達が直接触れあえる活動があればと思う。

●橋本市立高野口小学校 校長 井澤 清

プログラムの全体的な印象

- 子どもたちにとって貴重な異文化体験の場となりました。特に授業をとおした交流は有意義であったと思います。民族衣装の着用をはじめ、様々な工夫を凝らして授業に臨んでくださった韓国の先生方の姿勢と熱意に敬意を表したいと思います。
- ホームビジットも「和やかな雰囲気の中

でうち解けた時間を持つことができた」と、職員間では高評価でした。

プログラム成果

- 短い時間でしたが、教科書等からだけでは得られない多くのものを、子どもたちは学んだと思います。豊かな体験と交流を交えてより学習が深まってくことを、改めて感じました。

苦勞した点

- スケジュールが過密であったこと。もう少し時間的に余裕があれば、充実度が増したのではないかと思います。
- 事業担当者との連絡調整

加えるとよいと思われる活動

- 子どもたちとの交流時間をもう少し増やすとともに、職員間の懇談の時間を設けていただければ嬉しいです。両国の子どもたちの現状や教育事情等について意見を交換できたらと思いますので。

Dグループ

●小松市立安宅小学校 教諭 坂下 和之

プログラムの全体的な印象

- 昨年8月に韓国を訪問させていただき大変お世話になりました。今回、韓国の先生方が小松市に訪問されることになり、本校にも来てくださり、児童・教職員にとって有意義な経験をすることができました。特に、印象に残った事は、韓国の先生方による授業です。事前に多くの準備をしていただき、韓国の文化や生活等に直接ふれる良い機会となりました。また、児童会役員との懇談会を持ちました。韓国では教科の勉強にとっても力を入れ、放課後・家でも習い事よりも勉強をする時間が多いとのことでした。日本の学校の子ども達は自由な時間があり幸せに思う

という感想が聞かれました。韓国の学校では掃除もなく休み時間も外で自由に遊ぶことがなく、学力を上げるために時間を惜しんで勉強をしていることが分かりました。児童会役員も韓国の先生方から家での生活についてたくさんの質問がありました。「習い事はどんなことをしているか」「週何回ぐらい習い事をしているか」などを聞かれました。先生に対する接し方・気持ちにも興味があるようでした。韓国では高学年になると先生に反発する態度をとる子がでてくるということでした。小松市から飛行機で2時間もかからない距離にありながら子ども達もあまり知らないところがありましたが今回の訪問で実際に距離以上に身近な国に感じたようです。韓国の先生から「韓国の子ども達は一生懸命勉強しないと仕事につけない・韓国の国内での仕事が限られているのでアメリカやヨーロッパで仕事をする人も多い。日本人はほとんどの人は国内で仕事ができることは良いことだ」というお話をしていました。

- ▶ ホームビジットでは、韓国の先生と家族と会話することができ、とても楽しい時間を過ごすことができました。「韓国に家族でください。」と声をかけていただき、韓国の先生方の温かい人柄にふれることができました。これを機会に交流を継続していきたいです。

プログラム成果

- ▶ 韓国の先生方の授業を通して、本校児童・教職員にとって韓国の文化や生活等にふれるよい機会となった。韓国の先生方の英語力から、日本においても英語力を身に付けていく必要性を学んだ。韓国の先生方との交流を通して、より韓国が身近に感じる事ができた。

苦労した点

- ▶ 韓国教職員による授業の内容が直前にしか分からず、準備する時間があまりなく大変だった。

- ▶ 給食に教室に入っていただく人数調整など、事前にもう少し打合せができるとうい。
- ▶ 通常の日程では水曜日に掃除がなかったが掃除を入れてほしいという要望があり入れたが、とてもスケジュールが大変であった。

加えるとよいと思われる活動

- ▶ 学校の周辺の案内（安宅の関や日本海など）

プログラムの改善に向けた助言

- ▶ 今回限りの交流で終わるのではなく、教師間・児童間交流を継続できるとよい。

●小松市立芦城中学校

教頭

宮本 徹

プログラムの全体的な印象

- ▶ 韓国の教職員の方々には、本校教職員との懇談でも生徒との懇談でも非常に積極的に質問されるなど、日本の学校のことを一生懸命学ぼうとしており、地域を代表して来られているだけあるなあと感じました。
- ▶ 歓迎集会で本校生徒が静かに行儀良く話やプレゼン、歌を視聴したり、校歌を元気よく歌ったりする様子に「韓国の学校ではありえないことだ」と驚いており、それを聞いてこちらも驚きました。

プログラム成果

- ▶ 昼食時に各クラスから生徒2～3を集め、韓国教職員とコミュニケーションしながら食事をする機会を設定しましたが、生徒も韓国教職員も積極的に話し、会話が盛り上がっていたようで、生徒の新しい一面を見ることができました。また歓迎集会では愛校心を示そうと元気よく校歌を歌う姿が見られ、生徒の気概を感じました。

- 日頃知ることができない他国の教育の現状の一端を知ることができ、国による教育施策の違いや保護者の考え方、学校の在り方について改めて見つめることができました。

苦勞した点

- 企画する側としては、具体的なイメージを描くため、昨年度受け入れた学校に詳細を尋ねましたが、担当職員の異動等により、うまく情報が入ってこない部分もありました。新たに受け入れる学校が先入観等を抱くことなく新鮮な気持ちで企画・運営するのも大事ですが、ある程度の詳細情報を受け渡しできるようにしておくことも重要だと感じました。(例えば本件に関わる電子媒体一式とか紙媒体のファイルを次年度の学校の参考用に渡せるようにしておくなど)

●小松市立高等学校

教頭

福岡 重雄

プログラムの全体的な印象

- 大変友好的なムードで交流が行われ、教育をテーマとして両国教職員の間の友好親善が深まった。本校芸術コースの生徒の演奏、韓国の先生方にもグループの一員として参加していただいた授業見学(芸術コース、英語)、生徒会役員とのふれあい、部活動での日本文化発信等、いずれも大変有意義だったと思う。

プログラム成果

- 教員は韓国の教育事情(英語教育・受験に向けての取り組み・)について直接話を聞くことで教育に関する知見を深めることができた。生徒たちも韓国の先生方と授業や部活動の場面で直接交流することで、多少なりとも生きた国際親善を体験することができた。

苦勞した点

- 限られた時間の中で、学校説明、授業参観、懇談などを行うことでスケジュール調整が困難な部分があった。懇談の時間を充分確保できなかったため、めりはりのある時間配分を工夫すべきだった。
- 英語を十分理解されない方もいらっしゃるため、英語を通してのコミュニケーションが難しい時があった。

加えるとよいと思われる活動

- 韓国の先生方による本校生へ向けての授業やセミナーをしていただけるとより双方向性が高まると思われる。

プログラムの改善に向けた助言

- ACCUの担当者との打合せに基づいてプログラムを編成したが、実際の韓国の先生方の希望との若干の齟齬が発生したのが残念。事前のより綿密な打ち合わせが必要と思われる。

付録

1. 実施要項
2. プログラム日程
3. 参加者リスト
4. 関係機関リスト
5. 文部科学省講義資料
6. 過去のプログラム実績

◆付録 1. 実施要項

韓国教職員招へいプログラム

(2014年1月19日～27日：東京都、大阪府、奈良県、石川県、和歌山県)

実施要項

1. 背景

公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター(ACCU)では、我が国と韓国の教職員間の交流を深め、両国民の相互理解と友好の促進に資するため、国際連合大学の委託を受け、国際教育交流事業として韓国から初等中等教育教職員を招へいするプログラムを実施しております。

また、2003年からは同プログラムと対をなすものとして、日本の初等中等教育教職員が韓国を訪問するプログラムを実施しております。

第14回となる今回も、文部科学省、韓国ユネスコ国内委員会、韓国教育部および各教育委員会のご協力のもと、2014年1月19日(日)から1月27日(月)までの9日間にわたり、韓国から初等中等教育教職員約120名を日本に招へいします。

2. 目的

- (1) 日本の教育制度、学校教育の現状や特色ある取り組みを韓国教員に紹介するとともに、国際理解教育(EIU)および持続発展教育(ESD)について地域の好事例を紹介する。
- (2) 学校等での意見交換を通じて、日韓の教育の質を高める。
- (3) 日本の文化および社会全般に対する理解を深める。
- (4) 訪問する学校や施設などでの交流を通じて、日韓教職員の持続的なネットワークの構築、強化に寄与する。
- (5) 日韓両国の相互理解と友好を促進する。

3. 日程

本プログラムは、東京、日本各地の受入れ市および大阪において、下記の日程で実施される予定です。

日付	日程	訪問先	活動
1月19日(日)	第1日	東京	日本到着 オリエンテーション
1月20日(月)～ 21日(火)	第2-3日 (2日間)	東京	開会式・講義 学校訪問(授業見学、教員・児童生徒との交流) 歓迎交流会 受入れ自治体へ移動
1月22日(水)～ 25日(土)	第4-7日 (4日間)	*4グループ (30名程度) に別れ、各自 自治体訪問	教育長表敬、教育概要説明 学校訪問(授業見学、教員・児童生徒との交流) 教育文化施設視察 ホームビジット グループ別情報共有会 受入れ自治体から大阪へ移動
1月26日(日)	第8日	大阪	報告会・閉会式
1月27日(月)	第9日	—	日本出発

* 第4-7日目の間、参加者は4グループに分かれ、指定された自治体を訪問する。

* 4グループは各30名程度とし、以下のグループ分けとする。各グループには、小学校、中学校、高等学校の教員が含まれる。

- Aグループ：奈良県奈良市
- Bグループ：東京都稲城市
- Cグループ：和歌山県橋本市
- Dグループ：石川県小松市

* 各グループの代表者は、各自治体での活動について、第8日に大阪での報告会で報告する。

4. 参加者数

約 120 名

5. 参加資格

- (1) 大韓共和国の国民であること
- (2) 所属する学校等からの推薦を受けた、韓国初等中等教育の教職員であること(教育行政官及び教育専門家を含む)
- (3) 日本の教職員との、主に教育分野における交流に高い関心を持つもの
- (4) プログラムの全日程に参加が可能であること

なお、参加者は、①45歳以下で教員経験3年以上のもの、②日本の教員、児童生徒、学校との交流を希望しているもの、③国際理解教育、持続発展教育(ESD)の分野において積極的な活動を行っているもの、④英語または日本語の会話能力のあるものが望ましい。

6. 評価と報告

- (1) 各参加者は ACCU の用意する評価票に記入する。
- (2) 各グループの代表は、報告会において発表を行う。

7. 渡航費等

ACCU は下記の経費を負担する。

- (1) 往復航空運賃
韓国国内の指定された国際空港と、日本国内の指定された国際空港との間のエコノミークラス航空券。
- (2) 宿泊と食事
プログラム期間中のシングルルーム(朝食含)、およびプログラム期間中の食事。
食事が提供されない場合については食費を支給する。
- (3) 日本国内の移動旅費
プログラム期間中の、自由行動時間以外の国内移動旅費。

※上記以外の経費については参加者が負担することとする。

8. 海外旅行傷害保険

各参加者は、プログラム期間中に起こりうる傷害、疾病等の緊急時に備えて、各自の責任において、必ず海外旅行傷害保険に加入すること。

9. 通訳

ACCU は公式プログラム期間中、通訳者(日-韓)を必要に応じて手配する。なお、各県・市・町への訪問時には、専門の通訳が随行する。

10. このプログラムに関する照会先

公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター 人物交流部
〒162-8484 東京都新宿区袋町6番地 日本出版会館
TEL: 03-3269-4498
FAX: 03-3269-4510
E-mail: yoneshima@accu.or.jp, sasaki@accu.or.jp

◆付録 2. 프로그램日程

(1) 全体プログラム (東京)

제1일 (第1日)	1월19일 (일)	1月19日 (日)
08:40 10:45 13:00-14:00 14:30-15:30 15:45	서울(김포) 출발 (OZ1025) 도쿄(하네다 공항) 도착 점심 식사 오리엔테이션(이이다바시 레인보우홀 7층 대회의실) 호텔 도착 저녁 식사(각자) 복장: 캐주얼 숙박: 메트로폴리탄 에드몬트 (도쿄도 치요다구)	ソウル(金浦空港)発 (OZ1025) 東京(羽田空港)着 昼食 オリエンテーション(飯田橋レインボーホール7F「大会議室」) ホテル着 夕食(各自) 当日の服装: カジュアル 当日の宿泊: ホテルメトロポリタンエドモント (東京都千代田区)
제2일 (第2日)	1월20일 (월)	1月20日 (月)
09:00-09:30 09:45-10:55 11:05-12:15 12:30-14:00	개회식 (메트로폴리탄 에드몬트 2층 (유류)) 강의1 - 일본 초중등교육에 대하여 (유류) 강의2 - 일본에서의 ESD 추진에 대하여 (유류) 환영교류회 (2층 반리) 저녁 식사(각자) 복장: 정장 숙소: 메트로폴리탄 에드몬트 (도쿄도 치요다구)	開会式(ホテルメトロポリタンエドモント2F「悠久」) 講義 I 「日本の初等中等教育について」(同「悠久」) 講義 II 「日本におけるESDの推進について」(同「悠久」) 歓迎交流会(同2F「万里」) 夕食(各自) 当日の服装: ビジネス 当日の宿泊: ホテルメトロポリタンエドモント (東京都千代田区)
제3일 (第3日)	1월21일 (화)	1月21日 (火)
08:50 09:30-14:15 16:30-17:40 19:30	<Group A> 체크아웃, 호텔출발 케이오기쥬쿠고등학교 방문(ASPnet, 심교류) 하네다공항→이타미공항 (JL127), 공항에서 버스로 이동 나라(奈良)시 도착,호텔도착, 체크인 복장: 비즈니스 캐주얼 숙소: 호텔 후지타 나라	<Group A> チェックアウト、ホテル発 慶應義塾高等学校訪問(ユネスコスクール・昼食交流) 羽田→伊丹(JL127)、空港からバス移動 奈良市到着、ホテル着、チェックイン 当日の服装: ビジネスカジュアル 当日の宿泊: ホテルフジタ奈良
08:30 10:00-15:30 15:30-16:00 16:00	<Group B> 체크아웃, 호텔출발 오비링 중학교·오비링 고등학교 방문 (점심교류) 이나기(稲城)시로 버스로 이동 이나기시 근교 도착, 호텔 도착, 체크인 복장: 비즈니스 캐주얼 숙소: 케이오 플라자 호텔 타마	<Group B> チェックアウト、ホテル発 桜美林中学校・桜美林高等学校訪問 (昼食交流) 稲城市へ移動(バス) 稲城市近郊到着、ホテル着、チェックイン 当日の服装: ビジネスカジュアル 当日の宿泊: 京王プラザホテル多摩
08:15 08:50-13:45 15:30-16:40 19:30	<Group C> 체크아웃, 호텔출발 아오야마학원고등학교 방문 (점심교류) 하네다공항→이타미공항 (JL125) 공항에서 버스로 이동 하사모토(橋本)시근교 도착, 호텔도착, 체크인 복장: 비즈니스 캐주얼 숙소: 리버사이드 호텔	<Group C> チェックアウト、ホテル発 青山学院高等部訪問 (昼食交流) 羽田→伊丹(JL125)、空港からバス移動 橋本市近郊到着、ホテル着、チェックイン 当日の服装: ビジネスカジュアル 当日の宿泊: リバーサイドホテル
07:45 09:00-13:00 16:00-17:05 17:30-17:45	<Group D> 체크아웃, 호텔출발 요코하마시립 나가타다이초등학교 방문(ASPnet·급식체험) 하네다공항→고마즈공항 (JL1281), 공항에서 버스로 이동 고마즈(小松)시 도착, 호텔도착, 체크인 복장: 비즈니스 캐주얼 숙소: 고마즈 그랜드 호텔	<Group D> チェックアウト、ホテル発 横浜市立永田台小学校訪問(ユネスコスクール・給食体験) 羽田→小松(JL1281)、空港からバス移動 小松市到着、ホテル着、チェックイン 当日の服装: ビジネスカジュアル 当日の宿泊: 小松グランドホテル

◆付録 2. 프로그램日程

(2) 그룹프로그램

【A 그룹 : 奈良県奈良市】

제4일 (第4日)	1월22일 (수)	1月22日(水)
09:10	호텔출발	호텔발
09:30-11:00	나라(奈良) 시 교육위원회 방문	奈良市教育委員会訪問
11:30-13:00	점심 식사	昼食
13:00-14:30	나라 국립박물관	奈良国立博物館見学
14:30-17:00	나라 관광 (토다이지 등) 호텔도착	奈良視察(東大寺など) ホテル着
18:00-20:00	환영만찬 숙박 : 호텔 후지타 나라	歓迎夕食会 当日の宿泊: ホテルフジタ奈良
제5일 (第5日)	1월23일(목)	1月23日(木)
09:10	호텔출발	호텔발
10:10-14:10	나라시립 난마츠 초등학교 (급식교류)	奈良市立並松小学校訪問(給食交流)
16:00-19:00	나라교육대학 방문(ASPnet)	奈良教育大学訪問(ユネスコスクール)
19:30	호텔도착	ホテル着
	복장 : 비즈니스 캐주얼 숙박 : 호텔 후지타 나라	当日の服装: ビジネスカジュアル 当日の宿泊: ホテルフジタ奈良
제6일 (第6日)	1월24일 (금)	1月24日(金)
08:30	호텔출발	호텔발
09:00-13:30	나라시립 후시미 초등학교 (급식교류)	奈良市立伏見小学校訪問(給食交流)
14:00-17:00	나라시립 아스카 중학교	奈良市立飛鳥中学校訪問
17:30	호텔도착	ホテル着
	복장 : 비즈니스 캐주얼 숙박 : 호텔 후지타 나라	当日の服装: ビジネスカジュアル 当日の宿泊: ホテルフジタ奈良
제7일(第7日)	1월25일 (토)	1月25日(土)
09:10	체크아웃	チェックアウト
09:30-11:00	정보공유회(간담회)	情報共有会
11:30-17:00	가정방문	ホームビジット
17:00-18:30	호텔출발, 나라시 → 오사카 (버스)	ホテル発、大阪市へ移動(バス)
18:30	리가 로얄 호텔 오사카 도착, 체크인	リーガロイヤルホテル大阪着、チェックイン
	복장 : 캐주얼 숙박 : 리가 로얄 호텔 오사카(오사카부 오사카시)	当日の服装: カジュアル 当日の宿泊: リーガロイヤルホテル大阪 (大阪府大阪市)

◆付録 2. 프로그램日程

(2) 그룹프로그램

【B 그룹 : 東京都稻城市】

제4일 (第4日)	1월22일 (수)	1月22日(水)
08:15	호텔출발	호텔발
09:00-12:15	이나기시립 이나기 제4중학교(ASPnet)	稻城市立稻城第四中学校訪問(ユネスコスクール)
12:50	점심 식사 (이나기시청 6층 603호회의실)	昼食(弁当) (稻城市役所6階603会議室)
13:30-15:30	교육장 예방(이나기시청 6층 603호회의실)	教育長表敬訪問(稻城市役所6階603会議室)
	이나기시 교육개요 오리엔테이션(이나기시청 6층 603호회의실)	稻城市教育概要オリエンテーション(")
16:00-17:20	이나기시립 이나기제6중학교 방문 (동아리 견학)	稻城市立稻城第六中学校訪問(部活動のみ見学)
18:00	환영만찬	歓迎夕食会
20:30	호텔도착	ホテル着
	복장 : 정장 숙박 : 게이오 플라자 호텔 타마	当日の服装 : ビジネス 当日の宿泊 : 京王プラザホテル多摩
제5일 (第5日)	1월23일(목)	1月23日(木)
08:30	호텔출발	호텔발
09:00-12:15	이나기시립 이나기 제2초등학교(ASPnet)	稻城市立稻城第二小学校訪問(ユネスコスクール)
12:30-13:15	점심 식사	昼食
13:30-14:45	이나기시 향토자료실, (전통민가) 견학	稻城市郷土資料室、(古民家)見学
15:00	지역 교육 간담회 (히라오 초등학교)	地域教育懇談会を見学(平尾小学校)
16:00	학교 지원 담당자와의 의견 교류회 (히라오 초등학교)	学校支援コンシェルジュ連絡会との懇談(平尾小学校)
18:00	호텔도착	ホテル着
	복장 : 비즈니스 캐주얼 숙박 : 게이오 플라자 호텔 타마	当日の服装 : ビジネスカジュアル 当日の宿泊 : 京王プラザホテル多摩
제6일 (第6日)	1월24일 (금)	1月24日(金)
08:00	호텔출발	호텔발
08:30-13:30	이나기시립 이나기 제6초등학교 (급식교류) (ASPnet)	稻城市立稻城第六小学校訪問(給食交流) (ユネスコスクール)
14:00-16:00	쓰레기처리시설 견학 (클린센터 타마가와)	ごみ処理施設見学(クリーンセンター多摩川)
16:30	호텔도착	ホテル着
	복장 : 비즈니스 캐주얼 숙박 : 게이오 플라자 호텔 타마	当日の服装 : ビジネスカジュアル 当日の宿泊 : 京王プラザホテル多摩
제7일 (第7日)	1월25일 (토)	1月25日(土)
08:30	체크아웃, 호텔출발	チェックアウト、ホテル発
09:00-10:30	정보공유회(시로야마 체험학습관)	情報共有会(城山体験学習館)
10:30-11:00	한국측 참가자 : 이나기시립초중교 합동전람회에서 서예 견학	稻城市立小・中学校合同展覧会(書初め)見学
11:00-13:30	대면식, 가정방문	ホームビジット対面(式)、ホームビジット
14:00-15:15	시로야마 체험학습관 출발, 이나기시→하네다공항(버스로 이동)	城山体験学習館出発、稻城市→羽田空港(バス)
16:30-17:40	하네다공항→이타미공항 (JL127) 공항에서 버스로 이동	羽田→伊丹(JL127)、空港からバス移動
18:45	리가로얄호텔오사카 도착, 체크인	リーガロイヤルホテル大阪着、チェックイン
	복장 : 캐주얼 숙박 : 리가 로얄 호텔 오사카(오사카부 오사카시)	当日の服装 : カジュアル 当日の宿泊 : リーガロイヤルホテル大阪 (大阪府大阪市)

◆付録 2. 프로그램日程

(2) 그룹프로그램

【C 그룹 : 和歌山県橋本市】

제4일 (第4日)	1월22일 (수)	1月22日(水)
08:30	호텔출발	호텔발
09:00	하시모토시 교육위원회 교육장 예방 (하시모토시 교육문화회관)	橋本市教育委員会教育長表敬訪問 (橋本市教育文化会館)
09:00-11:00	하시모토시 교육개요 오리엔테이션	橋本市教育概要オリエンテーション
11:30-16:00	하시모토시립 하시모토초등학교·중학교 방문(급식교류)	橋本市立橋本小学校・中学校訪問 (給食交流)
18:00-20:00	환영만찬 호텔도착	歓迎夕食会 ホテル着
	복장 : 정장 숙박 : 리버사이드호텔 (나라현 고조시)	当日の服装 : ビジネス 当日の宿泊 : リバーサイドホテル (奈良県五條市)
제5일 (第5日)	1월23일(목)	1月23日(木)
08:30	호텔출발	호텔발
09:00-11:30	와카야마현립 코사다오카중학교, 하시모토고등학교 방문	和歌山県立 古佐田丘中学校・橋本高等学校訪問
12:00-13:00	점심 식사	昼食
13:00-18:00	세계유산 코야산 방문 (카무로역에서 전철로 이동) 가람, 콘뿌다이트 탑, 오쿠노인 사원 견학	世界遺産 高野山視察(学文路駅から電車で) 伽藍、根本大塔、奥の院等見学
19:30	호텔도착	호텔着
	복장 : 비즈니스 캐주얼 숙박 : 리버사이드호텔 (나라현 고조시)	当日の服装 : ビジネスカジュアル 当日の宿泊 : リバーサイドホテル (奈良県五條市)
제6일 (第6日)	1월24일 (금)	1月24日(金)
08:30	호텔출발	호텔발
09:00-10:00	하시모토시립 아야노다이초등학교 방문 (시설견학)	橋本市立あやの台小学校訪問 (施設見学)
10:30-14:30	하시모토시립 코야구치초등학교 방문 (급식교류)	橋本市立高野口小学校訪問 (給食交流)
15:00-17:00	코야구치초등학교 전통직물체험	高野口小学校区 再織体験活動
17:30-20:00	합동 저녁식사 (식당 "식채라쿠야")	合同夕食会(食彩らくや)
20:30	호텔도착	호텔着
	복장 : 비즈니스 캐주얼 숙박 : 리버사이드호텔 (나라현 고조시)	当日の服装 : ビジネスカジュアル 当日の宿泊 : リバーサイドホテル (奈良県五條市)
제7일 (第7日)	1월25일 (토)	1月25日(土)
08:30	체크아웃, 호텔출발	チェックアウト、ホテル発
09:00-10:30	정보공유회(하시모토시 교육문화회관)	情報共有会(橋本市教育文化会館)
10:30-15:00	가정방문	ホームビジット
15:30	하시모토시→오사카(버스)	大阪市へ移動(バス)
17:00	리가 로얄호텔 오사카 도착, 체크인	リーガロイヤルホテル大阪着、チェックイン
	복장 : 캐주얼 숙박 : 리가 로얄 호텔 오사카 (오사카부 오사카시)	当日の服装 : カジュアル 当日の宿泊 : リーガロイヤルホテル大阪 (大阪府大阪市)

◆付録 2. 프로그램日程

(2) 그룹프로그램

【D 그룹 : 石川県小松市】

제4일 (第4日)	1월22일 (수)	1月22日(水)
08:30	호텔출발	호텔발
09:00-15:30	코마즈시립 아타카초등학교 방문(급식교류)	小松市立安宅小学校訪問(給食交流)
16:00	호텔 도착	호텔착
	복장 : 비즈니스 캐주얼 숙박 : 코마즈 그랜드호텔	当日の服装: ビジネスカジュアル 当日の宿泊: 小松グランドホテル
제5일 (第5日)	1월23일(목)	1月23日(木)
08:30	호텔출발	호텔발
09:00-10:00	코마즈시 교육개요 오리엔테이션(코마즈시 관공서)	小松市教育概要オリエンテーション(市役所)
10:10-10:40	시장·교육장 예방	市長・教育長表敬訪問
11:00-16:00	코마즈시립 로조중학교(급식교류)	小松市立芦城中学校訪問(給食交流)
16:30	호텔도착	호텔착
18:10	호텔출발	호텔발
18:30-20:30	환영만찬	歓迎夕食会
20:50	호텔도착	호텔착
	복장 : 정장 숙박 : 코마즈 그랜드호텔	当日の服装: ビジネス 当日の宿泊: 小松グランドホテル
제6일 (第6日)	1월24일 (금)	1月24日(金)
09:10	호텔출발	호텔발
09:30-10:45	사이언스 힐즈(Science Hills) 코마즈 견학	サイエンスヒルズこまつ 見学
11:00-17:00	코마즈시립 고등학교(점심식사·교직원과의 간담)	小松市立高等学校訪問 (昼食・教職員との懇談)
	복장 : 비즈니스 캐주얼 숙박 : 코마즈 그랜드호텔	当日の服装: ビジネスカジュアル 当日の宿泊: 小松グランドホテル
제7일(第7日)	1월25일 (토)	1月25日(土)
08:40	체크아웃, 호텔출발	チェックアウト、ホテル発
09:00-10:30	그룹 정보공유회(코마즈시 교육센터)	情報共有会 (小松市教育センター)
11:00-13:30	가정방문	ホームビジット
14:00	코마즈→오사카(버스)	大阪市へ移動(バス)
18:30	리가 로얄호텔 오사카 도착, 체크인	リーガロイヤルホテル大阪着、チェックイン
	복장 : 캐주얼 숙박 : 리가 로얄 호텔 오사카 (오사카부 오사카시)	当日の服装: カジュアル 当日の宿泊: リーガロイヤルホテル大阪 (大阪府大阪市)

◆付録 2. 프로그램日程

(3) 全体プログラム (大阪)

제8일 (第8日)	1월26일 (일)	1月26日 (日)
09:30-11:20	보고회 (오사카국체회의장 회의실1001-2)	報告会(大阪国際会議場 会議室1001~2)
11:30-12:15	폐회식 (오사카국체회의장 회의실1001-2)	閉会式(大阪国際会議場 会議室1001~2)
	복장 : 비즈니스 캐주얼 숙박 : 리가 로얄 호텔 오사카(오사카부 오사카시)	当日の服装: ビジネスカジュアル 当日の宿泊: リーガロイヤルホテル(大阪府大阪市)
제9일 (第9日)	1월27일 (월)	1月27日 (月)
08:00	호텔출발, 체크인아웃, 간사이공항으로 이동	ホテル発(チェックアウト)、関西空港へ移動
11:10	(서울행) 서울 (김포) 로 출발 (OZ1115)	(ソウル行) 空路でソウル(金浦)へ (OZ1115)
11:50	(부산행) 부산 (김해) 으로 출발 (OZ143)	(金海行) 空路で釜山(金海)へ (OZ143)
13:00	서울 (김포) 도착	ソウル(金浦空港)着
13:20	부산 (김해) 도착	釜山(金海空港)着
	복장 : 캐주얼	当日の服装: カジュアル

◆付録 3. 参加者リスト

【Aグループ：奈良県奈良市】30名

★Head of Delegation : A-1 Mr. AHN YANGOK

Group Leader: A-21 Mr. LEE Myung Ho

No	Name(Kor)	Name(ㄱ)	Name(イ)	Name(Last)	Name(First)	Sex (M/F)	School/Org name(Kor)	Title	Subjects	City / Province
A 1	안양옥	アン	ヤンオッ	AHN	YANGOK	M	한국교원단체총연합회 Korean Federation of Teachers' Associations	President	Physical Education	ソウル
A 2	장명순	チャン	ミンスン	CHANG	MYUNG SUN	F	경상북도교육청 Gyeongsangbuk-do Office of Education	Supervisor	English	慶尙北道
A 3	최혜원	チェ	ヘウオン	CHOI	HYE WON	F	강원도원주교육지원청 Office of Wonju Education	Director	N/A	江原
A 4	최정아	チェ	ジョンア	CHOI	JEONG AH	F	월산초등학교 Weolsan Elementary school	Teacher	All subjects	慶尙南道
A 5	최경화	チェ	キョンファ	CHOI	KYUNG HWA	F	전라남도교육청 Jeollanam-doA Office of Education	Supervisor	English	全羅南道
A 6	정주용	ジョン	주ヨン	CHUNG	JOO YONG	F	서울대학교사범대학부설고등학교 Seoul National University High School	Teacher	English	江原
A 7	정승진	ジョン	스ンジ	CHUNG	SEUNG JIN	F	형석중학교 HyeongSeok Middle School	Teacher	Japanese	忠清北道
A 8	구민지	ク	민지	GU	MINJI	F	밀양여자고등학교 Miryang Girls High School	Teacher	English	慶尙南道
A 9	한철형	ハン	철리ョン	HAN	CHEOL HYEONG	M	보성여자중학교 Bosung Girls Middle School	Vice-principal	N/A	ソウル
A 10	정미향	ジョン	미햐	JEONG	MI HYANG	F	공원전초등학교 Gonghyeonjin Elementary school	Teacher	All subjects	江原
A 11	진여주	ジン	여주	JIN	YEOJU	F	대전노은고등학교 Daejeon Noeun High School	Teacher	Chinese	大田
A 12	강성도	カン	송드	KANG	SEONGDO	M	전주고등학교 Jeonju High School	Teacher	Korean	全羅北道
A 13	강연철	カン	연철	KANG	YEON CHEOL	M	원평초등학교 Wonpyeong Elementary School	Vice-principal	All subjects	忠清北道
A 14	김갑성	キム	갑성	KIM	KAPSUNG	F	신동초등학교 Sindong Elementary School	Teacher	All subjects	江原
A 15	김성훈	キム	성훈	KIM	SUNG CHOON	M	제주영송학교 Jeju Youngsong School	Teacher	Special Education	濟州
A 16	고춘자	コ	춘자	KOH	CHUN JA	F	대구외국어고등학교 Taegu Foreign Language High School	Teacher	English	大邱
A 17	이봉연	イ	봉연	LEE	BONGYEON	M	양산초등학교 Yangsan Elementary School	Teacher	All subjects	忠清北道
A 18	이재홍	イ	재홍	LEE	JAEHONG	M	수원외국어고등학교 Suwon Academy of World Languages	Vice-principal	English	京畿
A 19	이정민	イ	정민	LEE	JUNGMIN	F	서울신용산초등학교 Seoul Shinyongsan Elementary School	Teacher	Science	ソウル
A 20	이경희	イ	경희	LEE	KYUNGHEE	F	저청중학교 Jeocheong Middle School	Teacher	English	濟州
A 21	이명호	イ	명호	LEE	MYUNG HO	M	방배중학교 Bangbae Middle School	Principal	Ethics	ソウル
A 22	이상철	イ	상철	LEE	SANGCHEOL	M	분평초등학교 Bunpyeong Elementary School	Teacher	General education, music	忠清北道
A 23	임문택	イム	문택	LIM	MUN TEAK	M	백사초등학교 Baeksa Elementary School	Teacher	All subjects	京畿
A 24	나경관	ナ	경관	NA	KYUNGKWAN	M	광주교육대학교광주부설초등학교 The Attached Elementary School of Gwangju National University of Education	Teacher	Social studies	光州
A 25	박진실	パク	진실	PARK	JINSIL	F	보정고등학교 Bojeong High School	Teacher	Mathematics	京畿
A 26	박경옥	パク	경옥	PARK	KYONG OK	F	충청북도교육청 Chungcheongbuk-do Office of Education	Administrator	N/A	忠清北道
A 27	서은영	ソ	은영	SEO	EUNYOUNG	F	보령고등학교 Bopyeong High School	Teacher	Geography	京畿
A 28	성주경	ソン	주경	SUNG	JUKYEONG	M	수촌초등학교 Suchon Elementary School	Teacher	All subjects	忠清南道
A 29	이진구	イ	진구	LEE	JINGOO	M	교육부 Ministry Of Education	Assistant director		ソウル
A 30	조우진	チョ	우진	CHO	WOOJIN	M	유네스코한국위원회 Korean National Commission for UNESCO	Chief		ソウル

通訳：李 美美、杉山 直美

ACCU 随員：冨本ひろみ

A グループ参加者（慶應義塾高等学校）



李グループ長によるあいさつ（教育長表敬訪問）



児童と交流（並松小学校）

◆付録 3. 参加者リスト

【Bグループ：東京都稲城市】30名

Group Leader: B-16 Mr. KIM Doohwan

No	Name(Kor)	Name(姓)	Name(名)	Name(Last)	Name(First)	Sex (M/F)	School/Org name(Kor)	Title	Subjects	City / Province
B 1	안중현	アン	ジョンヒョブ	AHN	JONGHYUB	M	경기외국어고등학교 Gyeonggi Academy of Foreign Languages	Teacher	English	京畿
B 2	백태금	ベッ	テ Gum	BAEK	TAEGEUM	M	광양백운고등학교 Gwangyang Baekun High School	Teacher	English	全羅南道
B 3	변경숙	ビョン	キョンスク	BYUN	KYEONG-SOOK	F	봉곡중학교 Bonggok Middle School	Teacher	Korean	慶尙北道
B 4	채성용	チェ	ソンヨン	CHAI	SONG YONG	M	신일여자중학교 Sunil Girls Middle School	Teacher	English	ソウル
B 5	조창남	チョ	찬남 Nam	CHO	CHANG NAM	M	정선남선초등학교 Namseon Elementary School	Teacher	All subjects	江原
B 6	최종구	チェ	チョング	CHOI	JONGKOO	M	금정고등학교 Keumjeong High School	Teacher	English	釜山
B 7	한경옥	ハン	키요오ク	HAN	KYOUNG OK	F	남성중학교 Namsung Middle School	Teacher	Physical education	忠清北道
B 8	정지황	ジョン	ジファン	JEONG	JEEHWANG	M	흥덕고등학교 Heungdeok High School	Teacher	English	忠清北道
B 9	정원옥	ジョン	ウォノク	JUNG	WONOK	M	진영제일고등학교 Jinyoung Jeil High School	Teacher	English	全羅南道
B 10	강은정	カン	ウンジョン	KANG	EUNJEONG	F	진진중학교 Jingjeon Middle School	Teacher	English	京畿
B 11	강금진	カン	Gum Jin	KANG	GUM JIN	F	제주시교육지원청 Jeju City Office of Education	Supervisor	English	濟州
B 12	강인희	カン	イニ	KANG	INHUI	F	논산고등학교 Nonsan High School	Teacher	Geography	忠清南道
B 13	강재성	カン	제손	KANG	JAE SUNG	M	거창고등학교 Geochang High School	Teacher	Ethics	全羅南道
B 14	김봉기	キム	بون기	KIM	BONG KI	M	성포고등학교 Seongpo High School	Vice-principal	English	京畿
B 15	김봉남	キム	بون남	KIM	BONG NAM	F	산남초등학교 Sannam Elementary School	Teacher	All subjects	忠清北道
B 16	김두환	キム	두환 Fan	KIM	DOOHWAN	M	학산여자중학교 Haksan Girls Middle School	Principal	Math	釜山
B 17	김희경	キム	히기ョン	KIM	HEE KYEONG	F	제주중앙고등학교 Jeju Joong-ang High School	Teacher	English	濟州
B 18	김재진	キム	제진	KIM	JAE JIN	M	양성초등학교 Yangseong Elementary School	Teacher	All subjects	京畿
B 19	김선호	キム	ソノ	KIM	SEON HO	M	함백고등학교 Hambaek High School	Teacher	English	江原
B 20	김선혜	キム	ソネ	KIM	SEON HYE	F	안현초등학교 Anhyeon Elementary School	Principal	N/A	京畿
B 21	공세옥	コン	세오ク	KONG	SEIOK	F	보성여자중학교 Boseoung Girls Middle School	Teacher	Morals	ソウル
B 22	마은경	マ	운기ョン	MA	EUNKYEONG	F	첨단고등학교 Cheomdan High School	Teacher	Chemistry	光州
B 23	박순식	パク	스닝크	PAK	SOON SHIK	F	신남중학교 Shinnam Middle School	Vice-principal	English	ソウル
B 24	박혜련	パク	헤리ョン	PARK	HYERYUN	F	대구학정초등학교 Hakjeong Elementary School	Teacher	English	大邱
B 25	박세랑	パク	세란	PARK	SERANG	F	상당고등학교 Sangdang High School	Teacher	History	忠清北道
B 26	신호래	シン	호레	SHIN	HORAE	F	한거레고등학교 Hangeore High School	Vice-principal	Sociology	京畿
B 27	송영기	ソン	영기	SONG	YOUNG GI	M	인천광역시교육청 Incheon Metropolitan City Office of Education	Director-General	Elementary Education	仁川
B 28	유지현	ユ	지우온	YOO	JIWON	F	도곡초등학교 Dogok Elementary School	Teacher	Science, moral Education	ソウル
B 29	이동명	イ	동미ョン	LEE	DONGMYEONG	M	교육부 Ministry Of Education	Assistant director		ソウル
B 30	류은진	リュ	운진	YU	EUNJIN	F	유네스코한국위원회 Korean National Commission for UNESCO	Programme Assistant		ソウル

通訳：權 惠京、徐 清香

ACCU 随員：外山 紀子

Bグループ参加者（稲城市教育長表敬訪問）



金グループ長(左)と大越孝桜美林中学校・高等学校校長(右)



給食交流(稲城第六小学校)

◆付録 3. 参加者リスト

【Cグループ：和歌山県橋本市】30名

Group Leader: C-13 Ms. KIM Jung Sook

No	Name(Kor)	Name(ㄱ)	Name(ㄴ)	Name(Last)	Name(First)	Sex (M/F)	School/Org name(Kor)	Title	Subjects	City / Province
C 1	안종렬	안	쥬니리올	AN	JUNGYEOL	M	경일고등학교 Gyeongil High School	Teacher	Earth Science	慶尙北道
C 2	안수영	안	스ヨン	AN	SUYOUNG	F	순천왕지초등학교 Suncheon Wangji Elementary School	Teacher	P.E	全羅南道
C 3	배현영	베	히오니온	BAE	HYUNYOUNG	F	강원의국어고등학교 Gangwon Foreign Language High school	Teacher	Japanese	江原
C 4	전영희	チョン	ヨンヒ	CHEON	YOUNG HEE	F	남산초등학교 Namsan Elementary School	Teacher	All subjects	江原
C 5	조두환	チョ	ドッフ안	CHO	DOO HWAN	M	백사초등학교 Baeksa Elementary School	Vice-principal	N/A	京畿
C 6	최성미	チェ	ソン미	CHOE	SUNG MI	F	부산광역시교육청 Busan Metropolitan City Office of Education	Supervisor	English	釜山
C 7	최창순	チェ	찬스온	CHOI	CHANGSUN	M	성원초등학교 Sungwon Elementary School	Teacher	All subjects	江原
C 8	장인권	チャン	잉곤	CHANG	INKWON	M	부산국제고등학교 Busan International High School	Teacher	English	釜山
C 9	정송자	ジョン	송자	JUNG	SONG JA	F	서울덕의초등학교 Seoul Dukeui Elementary School	Teacher	Music	ソウル
C 10	강은정	カン	웅존	KANG	EUNJEONG	F	신제주초등학교 Shinjeju Elementary School	Teacher	All subjects	濟州
C 11	김대감	キム	데갓	KIM	DAE GAB	M	울산광역시교육청 Ulsan Metropolitan City Office of Education	Administrator	N/A	蔚山
C 12	김진영	キム	진영	KIM	JINYOUNG	M	한겨레고등학교 Hangyeore High School	Teacher	Sociology, Economics	京畿
C 13	김정숙	キム	쥬온스	KIM	JUNG SOOK	F	춘천교육대학교부설초등학교 The Attached Elementary school of Chuncheon National University of Education	Principal	N/A	江原
C 14	김남수	キム	남스	KIM	NAM SOO	M	제주제일중학교 Jeju Jeil Middle School	Vice-principal	Social Studies	濟州
C 15	고수진	コ	스진	KO	SOOJIN	M	봉일천고등학교 Bongilcheon High School	Teacher	Geography	京畿
C 16	이미경	イ	미깡	LEE	MI KYUNG	F	안동영명학교 Andong Yeongmyeong School	Teacher	Preschool	慶尙北道
C 17	권은라	クオン	운라	KWON	EUNLA	F	원혜여자고등학교 Wonhwa Girls high school	Vice-principal	German Social Studies	大邱
C 18	이해석	イ	헤소	LEE	HAESUK	M	은행고등학교 Eunhaeng High School	Principal	Korean	京畿
C 19	이현구	イ	현궁	LEE	HYUN GU	M	서울대학교사범대학부설여자중학교 Seoul National University Girls Middle School	Teacher	Technology Home Economics	ソウル
C 20	이지연	イ	지연	LEE	JIEON	F	제천중앙초등학교 Jecheon Jungang Elementary School	Teacher	English	忠清北道
C 21	이영주	イ	영주	LEE	YOUNGJOO	F	신양초등학교 Shinyang Elementary School	Teacher	All subjects	京畿
C 22	나현선	ナ	현선	NA	HYUNSUN	M	수원의국어고등학교 Suwon Academy of World Languages	Teacher	Chinese	京畿
C 23	박호철	パク	호철	PARK	HOCHEOL	M	경상대학교사범대학부설중학교 The Middle School Affiliated with Gyeongsang National Univ	Teacher	Social Studies	慶尙南道
C 24	박정희	パク	정희	PARK	JEONG HUI	F	전주신흥고등학교 Jeonju Shinheung High School	Teacher	English	全羅北道
C 25	박지현	パク	지현	PARK	JI HYEON	F	한솔중학교 Hansol Middle School	Teacher	English	世宗
C 26	박민옥	パク	민옥	PARK	MIN OK	F	한국외국어대학교부설원곡초등학교 Wollgok Elementary School Affiliated with KNUE	Teacher	Science	忠清北道
C 27	유영덕	ユ	영덕	YOU	YOUNGDEUK	M	충청남도교육청 Chungcheongnam-do Office of education	Executive supervisor	Elementary education	忠清南道
C 28	유정혜	ユ	정혜	YU	JEONGHAE	F	상당고등학교 Sangdang High School	Teacher	Korean	忠清北道
C 29	윤혜경	ユン	혜경	YUN	HYEKYONG	F	강원명진학교 Gangwon Myeongjin School for The Blind	Teacher	All subjects	江原
C 30	홍보강	ホン	보강	HONG	BOGANG	F	유네스코한국위원회 Korean National Commission for UNESCO	Programme Specialist	N/A	ソウル

通訳：小嶋 寿美子、裴 聖淑

ACCU 随員：米島 百合子

Cグループ参加者(和歌山県立橋本高等学校)



金グループ長(歓迎夕食会)



教育委員会の方々と(歓迎夕食会)

◆付録 3. 参加者リスト

【Dグループ：石川県小松市】28名

Group Leader: D-6 Mr. CHO Hyunjong

No	Name(Kor)	Name(姓)	Name(名)	Name(Last)	Name(First)	Sex (M/F)	School/Org name(Kor)	Title	Subjects	City / Province
D 1	배윤영	ベ	ユニョン	BAE	YOUN YOUNG	F	서울월촌초등학교 Seoul Wolchon Elementary School	Teacher	All subjects	ソウル
D 2	백광운	ベク	クワンウン	BAIK	GWANG WOON	M	문산여자고등학교 Munsan Girls High School	Teacher	Chemistry	京畿
D 3	차미순	チャ	미순	CHA	MISOON	F	경기도교육청 Gyeonggi-do Office of Education	Supervisor	N/A	京畿
D 4	장현실	チャン	ヒョンシル	CHANG	HYUNSIL	F	한양대학교사범대학부속고등학교 Hanyang University High School	Teacher	English	소울
D 5	조혜경	チョ	헤깅	CHO	HEAKYUNG	F	대전광역시교육청 Daejeon Metropolitan Office of Education	Executive supervisor	Mathematics	大田
D 6	조현중	チョ	히ョン중	CHO	HYUNJONG	M	경상남도교육청 Gyeongsangnam-do Office of Education	Supervisor	N/A	慶尙南道
D 7	정연주	ジョン	연주	JUNG	YOUNJOO	M	학산여자중학교 Haksan Girls Middle School	Teacher	Math	釜山
D 8	강승식	カン	스승식	KANG	SEUNGSIK	M	진건중학교 Jingeon Middle School	Principal	N/A	京畿
D 9	김혜경	キム	헤깅	KIM	HYEKYOUNG	F	인천국제고등학교 Incheon International High School	Teacher	Japanese	仁川
D 10	김계산	キム	케산	KIM	KYESAN	F	서울대학교사범대학부속여자중학교 Seoul National University Girls Middle School	Teacher	Korean	소울
D 11	김미희	キム	미희	KIM	MIHEE	F	춘천교육대학교부설초등학교 The Attached Elementary school of CNU	Teacher	All subjects	江原
D 12	김미미	キム	미미	KIM	MIMI	F	서울특별시교육청 Seoul Metropolitan Office of Education	Administrator	N/A	소울
D 13	김영희	キム	리영희	KIM	RYEONGHEE	F	제주동초등학교 Jejudong Elementary School	Teacher	All subjects	濟州
D 14	김선	キム	선	KIM	SEON	F	호원초등학교 Howon Elementary School	Teacher	All subjects	京畿
D 15	이병로	イ	비ョン로	LEE	BYEONGNO	M	전북외국어고등학교 Jeonbuk Foreign Language High School	Vice-principal	Japanese	全羅北道
D 16	이병준	イ	비ョン준	LEE	BYUNJUN	M	월촌중학교 Wolchon Middle School	Teacher	Society	소울
D 17	이철수	イ	철수	LEE	CHUL SU	M	원주여자고등학교 Wonju Girls High School	Teacher	Earth science	江原
D 18	이재돈	イ	제돈	LEE	JAEDON	M	석봉초등학교 Seokbong Elementary school	Principal	N/A	慶尙南道
D 19	이정환	イ	정환	LEE	JEONGHAN	M	강원명진학교 Gangwon Myeong School for the Blind	Teacher	English, Reading	江原
D 20	이정수	イ	정수	LEE	JUNGSU	M	만대초등학교 Mandae Elementary School	Teacher	All subjects	江原
D 21	왕용	ワン	용	WANG	YONG	M	광주교육대학교부설초등학교 The Attached Elementary School of Gwangju National University of Education	Vice-principal	N/A	光州
D 22	박순정	パク	스정	PARK	SUN JEONG	F	공주교육대학교부설초등학교 The Attached Elementary School of Gongju University of Education	Teacher	Education of Elementary School	忠清南道
D 23	서영애	ソ	영애	SEO	YOUNG AE	F	다향고등학교 Dahyang High School	Teacher	Plant resources Landscape architecture	全羅南道
D 24	신현만	シン	현만	SHIN	HYUN MAN	M	경주정보고등학교 Gyeongju Information High School	Teacher	Commercial education	慶尙北道
D 25	손진철	ソン	진철	SON	JIN CHEOL	M	한국외국어대학교부설고등학교 Affiliated High School With KNUE	Vice-principal	N/A	忠清北道
D 26	서종문	ソ	종문	SUH	JONG MOON	M	대구서부고등학교 DaeguSeobu High School	Teacher	Career	大邱
D 27	양광미	ヤン	광미	YANG	JUNG-MI	F	시흥은평중학교 Siheung Eunhaeng Middle School	Teacher	English	京畿
D 28	염은정	ヨム	은정	YEOM	EUN JUNG	F	원평초등학교 Wonpyeong Elementary School	Teacher	Moral education, music	忠清北道
D 29	윤혜정	ユン	혜정	YOON	HYE JEONG	F	청주고등학교 Cheongju High School	Teacher	English	忠清北道
D 30	송지은	ソン	지은	SONG	JIEUN	F	유네스코한국위원회 Korean National Commission for UNESCO	KNCU	Assistant Programme Specialist	소울

通訳：牛尾 恵子、権 惠京

ACCU 随員：康 武司

Dグループ参加者(小松市長、教育長表敬訪問)



趙グループ長(左)と木下靖彦校長(右)(小松市立安宅小学校)



華道体験(小松市立高等学校)

◆付録 4. 關係機關リスト

(1) 전체 프로그램 / 全体プログラム

United Nations University (UNU) / 国際連合大学

5-53-70 Jingumae Shibuya-ku, Tokyo 150-8925

〒150-8925 東京都渋谷区神宮前 5-53-70

Tel:+81-3-5467-1212 Fax:+81-3-3499-2828 URL: <http://unu.edu/>

Mr. TAKEMOTO Kazuhiko

Director, UNU-Institute for the Advanced Study of Sustainability (UNU-IAS)

竹本 和彦

国際連合大学 サステイナビリティ高等研究所 所長

Mr. AKIBA Masashi

Administrative Director

Senior Academic Programme Officer (UNU-IAS)

秋葉 正嗣

国際連合大学 大学院事務局長

Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology (MEXT) / 文部科学省

3-2-2 Kasumigaseki, Chiyoda-ku, Tokyo 100-8959

〒100-8959 東京都千代田区霞ヶ関 3 丁目 2 番 2 号

TEL: +81-3-5253-4111 URL: <http://www.mext.go.jp>

Mr. KATO Shigeharu

Director-General for International Affairs

加藤重治

文部科学省 国際統括官

Lecture : Mr. KURIYAMA Kazuhiro

Chief, Elementary and Secondary Education Planning and Coordination Unit

Lecture : Ms. KAMOSHITA Yuko

Unit Chief, Office of the Director-General for International Affairs

講義 : 栗山 和大

初等中等教育局初等中等教育企画課企画係長

講義 : 加茂下 祐子

国際統括官付ユネスコ第二係長

Embassy of the Republic of Korea / 駐日本国大韓民国大使館

1-2-5 Minami-Azabu, Minato-ku, Tokyo 106-8577

〒106-8577 東京都港区南麻布 1 丁目 2 番 5 号

TEL: +81-3-3452-7611/9 Fax: +81-3-5476-3299

URL: <http://www.japanem.or.kr>

Mr. Kim Bo Yup

Counsellor, Embassy of the Republic of Korea to Japan

金甫燁

駐日本国大韓民国大使館 参事官

(2) 그룹 프로그램 / 그룹 프로그램

Board of Education (Group Programme)

受入れ教育委員会でご協力いただいた方々

Group A. Nara City Board of Education / 奈良市教育委員会

Superintendent: Mr. NAKAMURO Taketoshi

Programme Coordinator: Ms. NISHIGUCHI Misako, School Education Division

教育長 : 中室 雄俊

担当者 : 学校教育課 西口 美佐子

1-1-1 Nijo Ojiminami, Nara City, Nara 630-8580

〒630-8580 奈良県奈良市二条大路南 1-1-1

TEL: +81-742-34-5498

URL: <http://www.city.nara.lg.jp/www/genre/000000000000/1329868302407/index.html>

Group B. Inagi City Board of Education / 稲城市教育委員会

Superintendent: Mr. KOJIMA Fumio

Programme Coordinator: Mr. HOSOYA Shuntaro, Curriculum and Guidance Section

教育長 : 小島 文弘

担当者 : 指導主事 細谷 俊太郎

2111 Higashi Naganuma, Inagi City, Tokyo 206-8601

〒206-8601 東京都稲城市東長沼 2111

TEL: +81-42-378-2111

URL: <http://www.city.inagi.tokyo.jp/kosodate/kyoikuinkai/>

Group C. Hashimoto City Board of Education / 橋本市教育委員会

Superintendent: Mr. MATSUDA Yoshio

Programme Coordinator: Ms. MORISHITA Machiko, School Education Division
(2013 Gangwon-do Group)

Mr. TSUJIWAKI Masayoshi, School Education Division

(2012 Chungcheongnam-do Group)

教育長 : 松田 良夫

担当者 : 学校教育課 森下まちこ

辻脇 昌義

1-1-1 Tohge, Hashimoto City, Wakayama 648-8585

〒648-8585 和歌山県橋本市東家 1-1-1

TEL: +81-736-33-6115

URL: <http://www.chw.jp/shisei/kyoikuinkai/>

Group D. Komatsu City Board of Education / 小松市教育委員会

Superintendent: Mr. SAKAMOTO Kazuya

Programme Coordinator: Mr. HIGASHIGUCHI Yukio, School Education Division
(2013 Gangwon-do Group)

教育長 : 坂本 和哉

担当者 : 学校教育課 東口 幸央

91 Konmade-machi, Komatsu City, Ishikawa 923-8650

〒923-8650 石川県小松市小馬出町 91

TEL: +81-761-24-8122

URL: <http://www.city.komatsu.lg.jp/4998.htm>

School Visit Hosts (Alumni of Invitation Programme for Japanese Teachers to Korea)

学校訪問でご協力いただいた方々 (主に過去の派遣プログラム参加者)

Group A Mr. OTAKE Masashi, Keio Senior High School (2013 Gangwon-do Group)

大竹 優志 慶應義塾高等学校

Mr. MOURI Yasuhito, Nara-city Board of Education (2013 Gangwon-do Group)

毛利 康人 奈良市教育委員会

Mr. KAMEI Norio, Nara-city Board of Education (2012 Chungcheongnam-do Group)

亀井 規生 奈良市教育委員会

Ms. IMOTO Akiko, Nanmatsu Elementary School (2010 Wonju City Group)

井本 章子 奈良市立並松小学校

Ms. YAMANAKA Atsuyo, Fushimi Elementary School (2013 Chungcheongbuk-do Group)

山中 淳代 奈良市立伏見小学校

Group B Mr. TAKENOUCHI Masaru, Inagi-city Board of Education (2013 Chungcheongbuk-do Group)

竹之内 勝 稲城市教育委員会

Ms. TOMOBE Naoko, Inagi 6th Elementary School (2013 Chungcheongbuk-do Group)

友部 尚子 稲城市立稲城第六小学校

Mr. TAKAGAKI Daisuke, Inagi 2nd Elementary School (2013 Gangwon-do Group)

高垣 大介 稲城市立稲城第二小学校

Group C Ms. MORISHITA Machiko, Hashimoto-city Board of Education (2013 Gangwon-do Group)

森下 まちこ 橋本市教育委員会

Mr. TSUJIWAKI Masayoshi, Hashimoto-city Board of Education (2012 Chungcheongnam-do Group)

辻脇 昌義 橋本市教育委員会

Mr. TSUCHIDA Yoshihisa, Koyaguchi Elementary School (2012 Gyeonggi-do Group)

土田 恵久 橋本市立高野口小学校

Ms. OKA Yasuko, Koyaguchi Elementary School (2013 Gangwon-do Group)

岡 泰子 橋本市立高野口小学校

Mr. SAKAKI Hiroshi, Ayanodai Elementary School (2013 Chungcheongbuk-do Group)

榊 洋史 橋本市立あやの台小学校

Group D Ms. KAWAKAMI Maya, Nagatadai Elementary School (2012 Gyeonggi-do Group)

川上 麻耶 横浜市立永田台小学校

Mr. HIGASHIGUCHI Yukio, Komatsu-city Board of Education (2013 Gangwon-do Group)

東口 幸央 小松市教育委員会

Mr. KITANO Katsuhisa, Komatsu-city Board of Education (2012 Gyeonggi-do Group)

北野 勝久 小松市教育委員会

Mr. SAKASHITA Kazuyuki, Ataka Elementary School (2013 Chungcheongbuk-do Group)

坂下 和之 小松市立安宅小学校

Asia-Pacific Cultural Centre for UNESCO (ACCU) / 公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター
Japan Publishers Building, 6 Fukuromachi, Shinjuku-ku, Tokyo 162-8484
〒162-8484 東京都新宿区袋町 6 日本出版会館
TEL: +81-3-3269-4498 FAX: +81-3-3269-4510
Email: accu-exchange_ml@accu.or.jp URL: <http://www.accu.or.jp>

Mr. TAMURA Tetsuo
Director-General
田村 哲夫
理事長

Mr. NINOMIYA Masakazu
Deputy Director-General
Director, General Affairs Department
二ノ宮 正和
事務局長代理 総務部長

Ms. SASAKI Mariko
Director, International Exchange Department
佐々木 万里子
人物交流部 部長

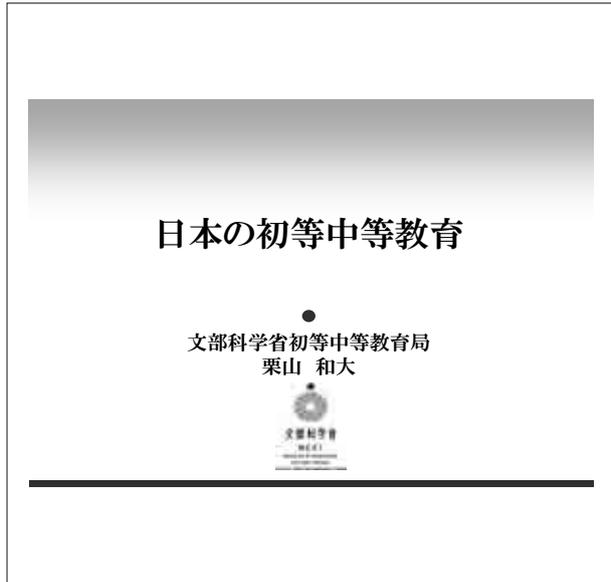
Ms. FUMOTO Hiromi (Group A)
International Exchange Department
富本 ひろみ
人物交流部 係員

Ms. TOYAMA Noriko (Group B)
International Exchange Department
外山 紀子
人物交流部 係員

Ms. YONESHIMA Yuriko (Group C)
Section Chief,
International Exchange Department
米島 百合子
人物交流部 主任

Mr. KOH Takeshi (Group D)
Director,
Model United Nations Promotion Department
康 武司
模擬国連推進部 部長

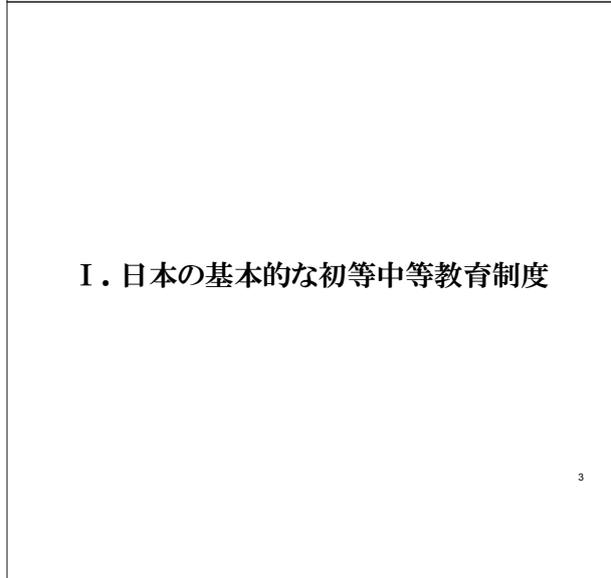
◆付録 5. 文部科学省講義資料



講演の構成

- I. 日本の基本的な初等中等教育制度
- II. 日本の現状認識と教育政策の方向性

2

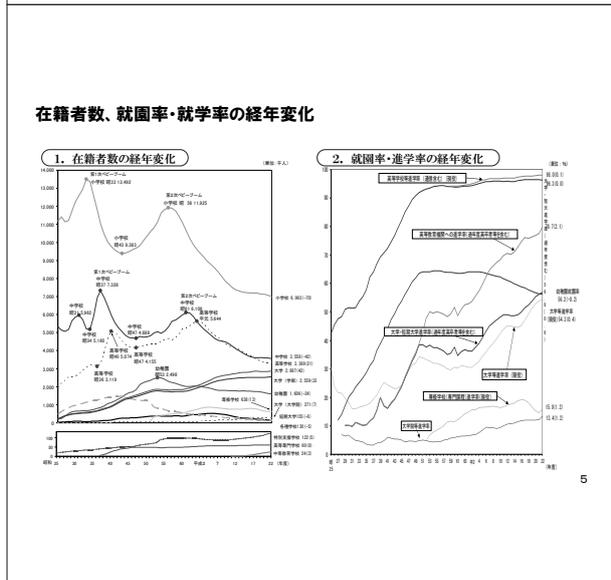


学校数、在籍者数、本務教員数

学校種	学校数 (校数)	在籍者数 (人)	本務教員数 (人)
幼稚園	13,043	1,583,610	111,111
小学校	21,131	6,676,920	417,533
中学校	10,628	3,536,182	254,235
高等学校	4,981	3,319,640	235,062
中等教育学校	50	30,226	2,369
特別支援学校	1,080	132,570	77,663
合計	50,913	15,279,148	1,097,989

(出典:文部科学省「平成25年度学校基本調査報告書」より)

4



5

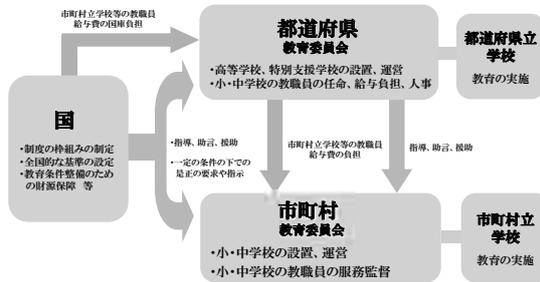
義務教育制度の概要

憲法
第26条 すべて国民は、法律の定めるところにより、その能力に応じて、ひとしく教育を受ける権利を有する。
 すべて国民は、法律の定めるところにより、その保護する子女に普通教育を受けさせる義務を負ふ。義務教育は、これを無償とする。

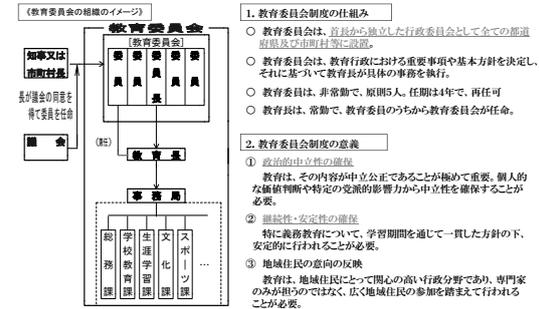
教育基本法
第5条 国民は、その保護する子に、別に法律で定めるところにより、普通教育を受けさせる義務を負う。
 2 義務教育として行われる普通教育は、各個人の有する能力を伸ばしつつ社会において自立的に生きる基礎を培い、また、国家及び社会の形成者として必要とされる基本的な資質を養うことを目的として行われるものとする。
 3 国及び地方公共団体は、義務教育の機会を保障し、その水準を確保するため、適切な役割分担及び相互の協力の下、その実施に責任を負う。
 4 国又は地方公共団体の設置する学校における義務教育については、授業料を徴収しない。

6

教育行政制度の概要(国・都道府県・市町村の役割)



教育委員会制度の概要



教育基本法(平成18年12月成立)の概要

教育の目的・理念

- (1) 教育の目的・理念を明示
 ① 教育の目的として「人格の完成」、「国家・社会の形成者として心身ともに健康な国民の育成」を規定
 ② この教育の目的を実現するために今日重要と考えられる事柄を「教育の目標」として規定

<教育の目標の例>

- ・幅広い知識と教養、豊かな情操と道徳心、健やかな身体
- ・能力の伸長、自主・自律の精神、職業との関連を重視
- ・正義と責任、自他の敬愛と協力、男女の平等、公共の精神
- ・生命や自然の尊重、環境の保全
- ・伝統と文化の尊重、我が国と郷土を愛し、他国を尊重、国際社会の平和と発展に寄与

(2) 「生涯学習の理念」「教育の機会均等」

学習指導要領①

- 教育基本法の改正等を踏まえ、平成20年に、幼稚園教育要領、小・中学校学習指導要領を、平成21年に、高等学校学習指導要領、特別支援学校学習指導要領を改訂。
- 小学校では23年度、中学校では24年度から全面实施、高校では25年度入学生から年次進行で実施。

学習指導要領の改訂のポイント

1. 学習指導要領改訂の基本的な考え方
 ① 教育基本法改正等で明確になった教育の理念を踏まえ、「生きる力」を育成
 ② 知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等の育成のバランスを重視
 ③ 道徳教育や体育などの充実により、豊かな心や健やかな体を育成

2. 授業時数の増加(小・中学校)
 ○ 国語、社会、算数・数学、理科、体育・保健体育、外国語の授業時数を約10%増加
 ○ 週当たりのコマ数を小学校低学年で週2コマ、小学校中・高学年、中学校各学年で週1コマ増加

3. 必須教科目、教育課程編成時の配慮事項(高等学校)
 ○ 学習の基礎となる国語、数学、外国語に共通必須教科目を設定するとともに、理科の科目履修の柔軟性を向上
 ○ 義務教育段階の学習内容の確実な定着を図るための学習機会を設けることを促進

学習指導要領② 一教育内容の主な改善事項

《新学習指導要領における教育内容の主な改善事項》

① 言語活動の充実
 言語活動は、知的活動(論理や思考)、コミュニケーション、感性・情緒の基盤、子どもたちの思考力・判断力・表現力等を育むため、国語をはじめ各教科等において、知識・技能を活用してレポートの作成や論議を行うなど言語力を高める学習を実施。

② 理数教育の充実
 国際的に通用するスキルを身につけるとともに、新しい科学的知見を取り入れるため、学習内容を充実。算数・数学では、大切な内容を繰り返し学習することや、学習の中で学んだことを実生活で生かすような学習、理科では、観察や実験を充実する。

③ 伝統や文化に関する教育の充実
 国際社会で活躍する人材の育成を図るため、我が国や郷土の伝統や文化について理解を深め、そのよさを継承・発展させるための教育を充実する。

④ 道徳教育の充実
 道徳の時間を要として、学校の教育活動全体を通じて子どもたちの道徳性を養う。

⑤ 体験活動の充実
 子どもたちの社会性や豊かな人間性を育むため、小学校で自然の中での集団宿泊活動、中学校で職場体験活動などを充実。

⑥ 外国語教育の充実
 小学校5、6年生における「外国語活動」の導入、中・高等学校における指導要領の充実や「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能をバランスよく育成することにより、小・中・高等学校を通して外国語教育を充実する。

⑦ 健やかな体の育成
 子どもたちが生涯にわたって健康を保持するとともに、豊かなスポーツライフを実現する基礎を培うため、健康で安全な生活を営む実践力を育成し、運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう体育・保健体育を充実する。

教員養成・免許制度の概要

【免許主義】
 教員は、教育職員免許法により授与される各担当の免許状を有する者でなければならない。

【教員養成・採用・研修等の各段階を通じた教員の資質向上】

養成
 ● 大学における養成が原則
 ● 教職課程の認定を受けた学科等において、教科に関する科目、教職に関する科目などを修得することにより、採用当初から学級や教科を担任し、教科指導、生徒指導等を実践するために必要な最小限の資質能力を養成

採用
 ● 言語表現・指定年度教育委員会等において採用選考試験を実施
 ● 多面的な人物評価の一層の推進
 ・面接試験・実技試験の重視
 ・様々な社会体験等の評価

研修
 ● 都道府県教育委員会等における研修
 ・担任者研修・新任者研修等
 ● 国(教員研修センター)における研修
 ・各地域において中心的な役割を担う教員に対する学校運営研修
 ・喫緊の重要課題研修等

適切な人事管理
 ● 指導が不適切な教員に対する人事管理システムの適切な運用
 ● 教員評価システム ● 優秀教員表彰

免許更新制
 ● 教員が定期的に最新の知識技能を身につけることで教員が自信と誇りを持って増進に立ち、社会の尊敬と信頼を得ることが目的
 ● 免許更新10年の有効期間を定める

政策1. グローバル人材育成

25

【課題】

- 教育において、到来しつつあるグローバル社会への対応が十分でない
- 小学校から大学・大学院まで視野に入れたパッケージとしての施策が講じられていない
- 日本人学生の顕著な内向き志向



【改革の方向性】

- 小・中・高等学校を通じた英語教育の抜本的強化（「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」を平成25年12月13日に公表）
- 語学力のみならず、幅広い教養、問題解決力等、国際的素養を身に付けたグローバル・リーダーを育成する高校（スーパーグローバルハイスクール）を支援
- 英語教員に対する研修や海外派遣の充実、少人数での英語指導体制の整備
- 企業や個人等との協力による留学費用の支援のための新たな仕組みを創設し、日本人学生・生徒の海外留学に対する支援を抜本的に強化

グローバル化に対応した英語教育改革実施計画

初等中等教育段階からグローバル化に対応した教育環境づくりを進めるため、小学校における英語教育の拡充強化、中・高等学校における英語教育の高度化など、小・中・高等学校を通じた英語教育全体の抜本的充実を図る。
2020年（平成32年）の東京オリンピック・パラリンピックを契機に、新たな英語教育が本格展開できるように、本計画に基づき体制整備等を含め2014年度から抜本的改革を推進する。

1. グローバル化に対応した新たな英語教育の在り方

- 小学校・中学校：活動型・週1〜2コマ程度
 - ・コミュニケーション能力の基礎を養う
 - ・英語に自信を持って話す
- 小学校・高等学校：教科書型・週2コマ程度（モジュール授業も活用）
 - ・多様な英語の活用能力を養う
 - ・英語理解力を養成し学習意欲を高める
- 中学校
 - ・身近な話題についての理解や簡単な情報交換、表現ができる能力を養う
 - ・日常生活で使う英語を重点とする
- 高等学校
 - ・幅広い話題について抽象的な内容を理解できる、英語話者となる程度にのびのびと表現できる能力を養う
 - ・授業を英語で行うことにより、コミュニケーション能力を確実にかつ日本人としてのアイデンティティに関する教育の充実（伝統文化・歴史の重視等）

2. 新たな英語教育の在り方実現のための体制整備（平成26年度から強力に推進）

- 小学校における指導体制強化
 - ・小学校英語教育推進リーダーの育成
 - ・教員研修・養成研修
 - ・専科教員の指導力向上
 - ・小学校英語担任の英語指導力向上
 - ・研修用映像教材等の開発・提供
 - ・教員養成課程・採用の改善充実
- 中・高等学校における指導体制強化
 - ・中・高等学校英語教育推進リーダーの育成
 - ・中・高等学校英語教員の指導力向上
 - ・外部認定試験を活用し、最優秀の教員の英語力の達成状況を定量的に検証
 - ※全ての英語科教員について、英検準1級、TOEFL iBT 80点程度以上の英語力を確保
- 外国人材の活用促進
 - ・外国語指導助手（ALT）の配置拡大、地域人材等の活用促進（オンラインの導入等）
 - ・ALT等向けの研修強化・充実
 - 指導用教材の開発・整備
 - ・先行実施のための教材整備
 - ・モジュール指導用ICT教材の開発・整備

小・中・高の各段階を通じて英語教育を充実し、生徒の英語力を向上させる教育で英検準1級、TOEFL iBT 75点程度以上を、外部認定試験を活用して得意な英語力を発揮するとともに、大学入試においても技能を測定可能な英検、TOEFL等の資格・検定試験等の活用を普及拡大

3. スケジュール（イメージ）

- 2014年1月頃 有識者会議設置
- 2014〜2015年度 指導体制の整備、英語教育強化地域拠点事業、教育課程特例校による先取の実施の拡大
- 中央教育審議会での検討を経て学習指導要領を改訂し、2018年度から段階的に先行実施
- 東京オリンピック・パラリンピック開催に合わせて2020年度から全面実施

29

政策2. 教育基盤の充実

スーパーグローバルハイスクールの創設

【ポイント】

- 高等学校等において、語学力とともに、幅広い教養、問題解決力等の国際的素養を身に付けたグローバル・リーダーを育成。

- 国内外の大学や企業、国際機関等と連携、
- ・外国語を使う機会の飛躍的増加、
- ・国内外にわたる課題を発見・解決したり、グローバルなビジネスで活躍したりできる人材の育成
- に取り組む高等学校

- 平成26年度に全国50校を指定予定（平成26年度予算案額8億円）

28

【課題】

- 世界トップレベルの学力・規範意識の育成



【改革の方向性】

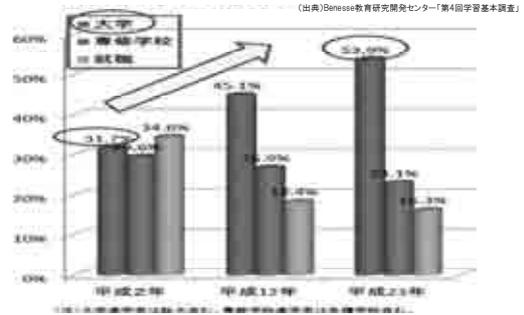
- 教職員等指導体制の整備
 - 少人数学級、チームティーチング、習熟度別指導の推進
 - ・小学校の英語・理科、道徳教育、ICTの問題、特別支援教育などの教育課題への対応
- 魅力のある教員給与
 - 指導的役割を担う校長の管理職手当改善、部活動手当の増額
- 教員の資質向上
 - 指導教諭の配置による校内の研修体制の充実を中心とした初任者研修の抜本的な改革
 - ・各教育委員会による資質向上の設置促進
 - ・社会人経験者の登用を推進
- 学校の組織運営の改善
 - 全校での正科教諭の配置を推進
- 厳格な人事管理
 - 教員職員の互選制の徹底推進の充実、指定医による診断を活用した復職審査の厳格化
 - ・指導に課題がある教員に対する早期指導、支援等の取組を促進

政策3. 高校教育改革

31

高校卒業者の進路の推移

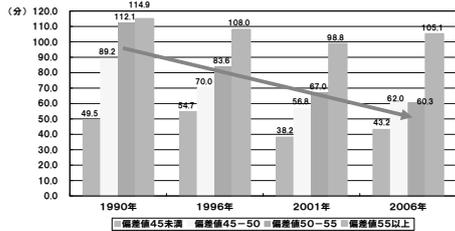
大学進学率は過去20年間で32%から54%へ上昇



32

高校生の学校外における平日の学習時間の推移

ボリュームゾーンである中間層の勉強時間が大きく減少している。



(※) 学習時間は、学習量や予備校、家庭教師との学習時間を含む

【調査概要】高校2年生(普通科)4464人を対象に、全国4地域(東京・東北・西国・九州地方の都市部と郡部)で実施。
(出典)Benesse教育研究開発センター「第4回学習基本調査」

33

【課題】

- 大学進学率は過去20年間で32%から54%へ上昇する一方、高校生の学習時間は大きく低下
- 少子化を背景として、大学入試によって高校生が勉強するというモデルが現状では崩壊

【改革の方向性】

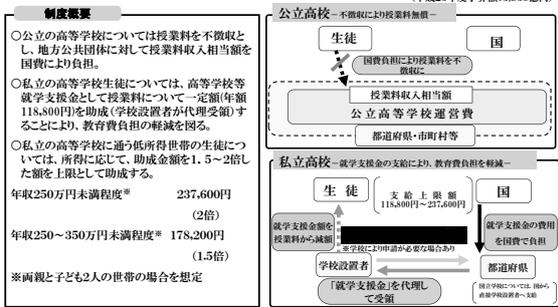
- 生徒の多様性を踏まえ、地方公共団体及び学校において、例えば、次のような特色化を進めるとともに、国が適切な支援を行うことにより、教育を充実させる。
 - ・グローバルリーダーとなるための国際的素養と総合力を育成する学校
 - ・科学技術人材としての素養の育成を目指す、先進的な理数系教育を行う学校
 - ・産業構造の変化等に対応した専門的な知識・技能を育成する学校
 - ・学び直しへの支援、考える力の育成、学習意欲の喚起を図る学校
 - ・進路への自覚を深めさせるため、多様な科目選択や職業体験等を行う学校
- 国は、基礎的・共通的な学習の達成度を客観的に把握し、各学校における指導改善や生徒の学習改善に活かすための新たな試験の仕組みを創設。
- 新たな試験は、高等学校教育の質の確保・向上を目的として、高等学校の教育課程における基礎的・共通的な教科・科目について、生徒の多様な状況に応じ、高等学校在学中に複数回受験できる仕組みとすることを検討。
- 新たな試験の試験内容は、基礎的・共通的な教科・科目の学習達成度について、知識・技能だけでなく、その活用力、思考力・判断力・表現力等を含めた幅広い学力を把握・検証できるものとする。

※高校教育改革に加え、大学入学者選抜を、能力・意欲・適性を多面的・総合的に評価・判定するものに転換するとともに、高等学校教育と大学教育の連携を強力に進める必要。

34

公立高等学校の授業料不徴収及び高等学校等就学支援金制度の概要

平成22年4月より、公立高校の授業料を無償化し、私立高等学校等に通う生徒に対する就学支援金制度を創設
(平成25年度予算額:3,950億円)

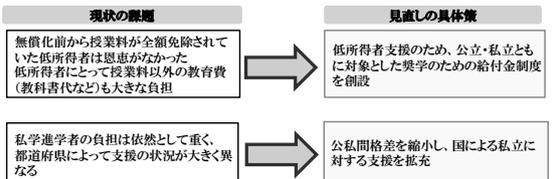


35

高校無償化制度の見直しについて

教育費負担の軽減を図り、実質的な教育の機会均等を実現するため、高校無償化制度を総合的に見直す

- 見直しの方向性**
- ①低所得者への支援
 - ②公私間格差・自治体間格差の是正
- このため、現行制度に所得制限を設けて、高等学校等に係る修学支援の充実を図る。



36

政策4. いじめ・体罰の根絶

37

【課 題】

- 「いじめ防止対策推進法(平成25年6月成立)」の理念の早期実現



【改革の方向性】

- ① **いじめの問題への対応**
 - ・いじめ防止対策推進法
 - 国や学校等における「いじめ防止基本方針」策定義務
 - ・学校におけるいじめ防止対策のための組織設置義務 など
- ② **体罰禁止の徹底**
 - ・懲戒と体罰の区別など
- ③ **運動部活動における体罰根絶**
 - ・運動部活動での指導のガイドライン
- ④ **道徳の教科化**
 - ・教材の抜本的充実、新たな枠組みによる教科化

日本におけるESDの推進について

韓国教職員へいプログラム
2014年1月20日

文部科学省国際統括官付 加茂下祐子（日本ユネスコ国内委員会事務局）



- I 持続可能な開発のための教育 (ESD)について
- II 我が国のユネスコスクール
- III ESDへの取組
- IV ESDに関するユネスコ世界会議



I 持続可能な開発のための教育 (ESD)について

Sustainable Development (持続可能な開発)とは…

「将来の世代が自らのニーズを充足する能力を損なうことなく、今日の世代のニーズを満たすこと」

※ 国連「環境と開発に関する世界委員会(ブルントラント委員会)」報告書『我ら共通の未来(Our Common Future)』(1987年)における定義

持続可能な開発のための教育(ESD)

とは…

「持続可能な社会の担い手を育む教育」

1



1. 万人のための教育(Education for All)

世界教育フォーラム(ダカール,2000年)で合意された6つの目標

- 1) 就学前保育・教育の拡大
- 2) 全ての子ども達が無償で質の高い義務教育へのアクセスを持ち、修学を完了
- 3) 全ての青年及び成人の学習ニーズが、適切な学習プログラム及び生活技能プログラムへの公平なアクセスを通じて実現
- 4) 識字率の50%改善
- 5) 教育における男女の平等を達成
- 6) 教育の全ての局面における質の改善

2



2. ミレニアム開発目標(Millennium Development Goals)

2000年9月ミレニアム宣言において設定

- 目標1: 極度の貧困と飢餓の撲滅
- 目標2: 初等教育の完全普及の達成
- 目標3: ジェンダー平等推進と女性の地位向上
- 目標4: 乳幼児死亡率の削減
- 目標5: 妊産婦の健康の改善
- 目標6: HIV/エイズ、マラリア、その他の疾病の蔓延の防止
- 目標7: 環境の持続可能性確保
- 目標8: 開発のためのグローバルなパートナーシップの推進

3



3. 「学習:秘められた宝」

(ユネスコ「21世紀教育国際委員会」,1998年)

学習の四本柱

- 1) 知ることを学ぶ
- 2) 為すことを学ぶ
- 3) 共に生きることを学ぶ
- 4) 人間として生きることを学ぶ

4



4. 国連持続可能な開発のための教育の10年 (United Nations Decade of Education for Sustainable Development)

- 2002年 ヨハネスブルクサミットで我が国が提案
- 2002年 国連決議(第57回総会)
 - ・ 2005～2014年の10年
 - ・ ユネスコを主導機関に指名
- 2005年 DESD国際実施計画をユネスコにて策定
 - 全体目標：持続可能な開発の原則、価値観、実践を、教育と学習のあらゆる側面に組み込んでいくこと
- 2009年 ESD世界会議(ボン)
 - ・ ボン宣言の採択
- 2014年 持続可能な開発のための教育(ESD)に関するユネスコ世界会議(愛知県・名古屋市/岡山市)

5



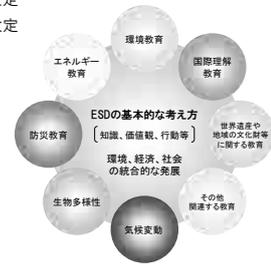
5. ESDに関する我が国の取組

- 2005年 内閣官房に関係省庁連絡会を設置
- 2006年 DESD国内実施計画を策定
- 2011年 DESD国内実施計画を改定

基本的考え方(国内実施計画)

ESDは、持続可能な社会づくりの担い手となるよう個人を育成する教育。

- 特に、
- 人格の発達や、自律心、判断力、責任感などの人間性を育むこと。
 - 個人が他人との関係性、社会との関係性、自然環境との関係性の中で生きており、「関わり」、「つながり」を尊重できる個人を育むこと。



6



6. ESDに関する文部科学省の取組

■ 教育振興基本計画(平成20年7月1日閣議決定)

第3章 今後5年間に総合的かつ計画的に取り組むべき施策

(1) 基本的考え方

① 「縦」の接続—貫した理念に基づく生涯学習社会の実現
また、ユネスコ(国際連合教育科学文化機関)においては、地球的視野で考え、様々な課題を自らの問題として捉え、身近なところから取り組み、持続可能な社会づくりの担い手となるよう一人一人を育成する教育(「持続発展教育」Education for Sustainable Development(EfSD))が提唱されており、2005年から2014年までの10年間は、「国連持続発展教育の10年」と位置付けられている。地球的規模での持続可能な社会の構築は、我が国の教育の在り方にとっても重要な理念の一つである。

(3) 基本的方向ごとの施策

④ いつでもどこでも学べる環境をつくる

【施策】

○ 持続可能な社会の構築に向けた教育に関する取組の推進
一人一人が地球上の資源・エネルギーの有限性や環境破壊、貧困問題等を自らの問題として認識し、将来にわたって安心して生活できる持続可能な社会の実現に向けて取り組むための教育(EfSD)の重要性について、広く啓発活動を行うとともに、関係省庁の連携を強化し、このような教育を都府県や教育関係機関の専攻・専員に取り組み、特に、ESDを主導するユネスコ世界的な学校ネットワークであるユネスコスクール加盟校の増加を目指し、支援する。

7



■ 第2期教育振興基本計画(平成25年6月14日閣議決定)

第1部 我が国における今後の教育の全体像

Ⅲ 四つの基本的方向性

(1) 社会を生き抜く力の養成～多様で変化の激しい社会での個人の自立と協働～
(今後の学習の在り方)

○ 持続可能な社会の構築という見地からは、「関わり」「つながり」を尊重できる個人を育成する「持続可能な開発のための教育(EfSD)」の推進が求められており、これは「キー・コンピテンシー」の養成にもつながるものである。

第2部 今後5年間に実施すべき教育上の方策

Ⅰ 四つの基本的方向性に基づく方策

1. 社会を生き抜く力の養成

(4) 生涯の各段階を通じて推進する取組

基本施策1「現代的・社会的な課題に対応した学習等の推進」

【基本的考え方】

○ 現代的、社会的な課題に対して地球的な視野で考え、自らの問題として捉え、身近なところから取り組み、持続可能な社会づくりの担い手となるよう一人一人を育成する教育(持続可能な開発のための教育-EfSD)を推進する。

【主な取組】

11-1 現代的・社会的な課題に対応した学習の推進
ユネスコスクールの質量両面における充実等を通じ地球規模での持続可能な社会の構築に向けた教育(持続可能な開発のための教育-EfSD)を推進する。

8



■ 学習指導要領

学習指導要領の改訂(2008年3月公示) 新学習指導要領(2008年3月、2009年3月)

→ 「持続可能な社会の構築」の観点を盛り込む

- ◆ 小学校学習指導要領の総則や理科、社会、
- ◆ 中学校学習指導要領の理科、公民、地理、
- ◆ 高校学習指導要領の地理歴史、公民など

9



■ 日本ユネスコ国内委員会

- 2003年 「国連持続可能な開発のための教育の10年」に関してユネスコが策定する国際実施計画への提言
- 2007年 「持続可能な開発のための教育の10年」の更なる推進に向けたユネスコへの提言
 - 同年第34回ユネスコ総会でESD推進のための決議へ
- 2008年 持続発展教育(ESD)の普及促進のためのユネスコスクール活用について(提言)
- 2012年 ユネスコスクールガイドラインについて

10



■ ESDオフィシャルサポーター

2014年に開催する「持続可能な開発のための教育(ESD)に関するユネスコ世界会議」に向けて、広く一般にESDを普及させることを目的として著名人を中心に組織。



11

Ⅱ 我が国のユネスコスクール

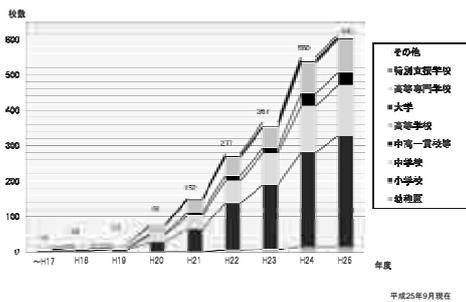
ユネスコスクール = ESD推進の拠点
ユネスコ憲章に示されたユネスコの理想を実現するため、平和や国際的な連携を实践する学校

①参加資格

- 就学前教育・小学校・中学校・高等学校・技術学校・職業学校・教員養成学校・特別支援学校等（国公立を問わず）
- ユネスコの理念に沿った取組を継続的に実施していることが必要

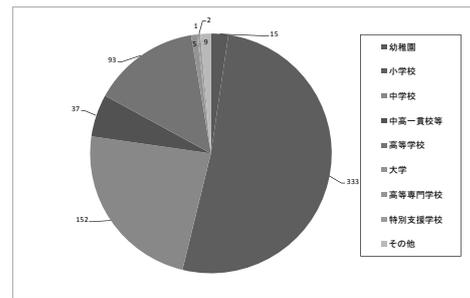
12

②ユネスコスクール加盟校数の推移



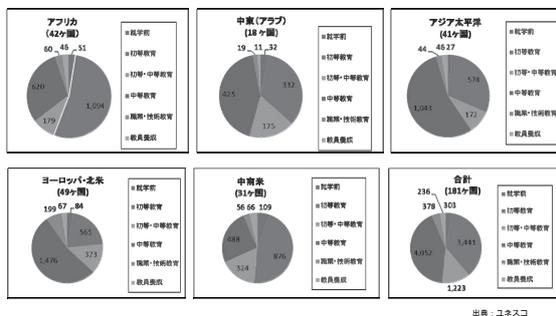
13

③ユネスコスクールの学校別内訳(平成25年9月現在)



14

④世界のユネスコスクール地域・学校段階別加盟校数(平成25年6月現在)



15

⑤ASPUnivNet(ユネスコスクール支援大学間ネットワーク)

→ 17大学 ユネスコスクールに助言・支援(日本の特色ある取組)

2008年創設



岡山大学:平成25、26年度ASPUnivNet事務局

16

⑥ユネスコスクールへの支援

ユネスコスクール ウェブサイトの設置

ユネスコスクール加盟校増加やネットワーク強化、ESDの理解増進を図ることを目的に、ウェブサイトを設置(2009年3月～)

■コンテンツ■

- ▶ ESDやユネスコスクールに関する基本情報の発信
- ▶ ユネスコスクール間の情報交換等の場の提供
- ▶ 優良事例や教材等の紹介
- ▶ ユネスコスクール全国大会などのイベント紹介(資料ダウンロード、動画配信)等



ユネスコスクールウェブサイト
http://www.unesco-school.jp/

⑦ユネスコスクールガイドライン

(平成24年8月20日 日本ユネスコ国内委員会)

ユネスコスクールとして大切なこと

- ユネスコスクールの活動には、次のようなことが大切ですので、各学校におかれては、これらの点を念頭において活動いただくことを期待しております。
- ・ 国内外のユネスコスクール相互間のネットワークを介して、互いに交流相手の良さを認め合い、学び合うこと。
 - ・ 地域の社会教育機関、NPO等との連携などを通じて、開かれたネットワークを築くよう努めること。
 - ・ 校内外における各種研修の充実・活用を図るなど、ユネスコスクールの活動を通じて広く学校外にも働きかけ、我々人類社会が持続的に発展するよう心がけること。
 - ・ 学校経営方針等にユネスコスクールの活動に取り組みすることを明確に示し、学校全体で組織的かつ継続的にユネスコスクールの活動に取り組みやすくすること。
 - ・ ユネスコスクールの活動を自らの学校評価の項目に盛り込み、活動の質の向上に努力すること。
 - ・ 必要に応じ、ASPUnivNet[1]加盟大学をはじめとする高等教育機関の支援や協力を得ながら、ユネスコスクールの活動の充実に努めること。

[1] ユネスコスクールのパートナーとして、ユネスコスクールの活動を支援する大学のネットワーク。

持続発展教育(ESD)推進拠点として大切なこと

ユネスコスクールが持続発展教育(ESD)推進拠点として発展していくには、次のようなことが大切ですので、各学校におかれては、これらの点を念頭において活動いただくことを期待しております。

- ・ 持続発展教育(ESD)を通じて育てたい資質や能力を明確にし、自分で、あるいは協働して、問題を見出し解決を図っていく学習の過程を重視した教育課程を編成するよう努めること。
- ・ 総合的な学習の時間を中心とした教科横断的な指導計画を立てるなど、指導内容を適切に定め、さらに、指導方法の工夫改善に努めること。
- ・ 持続発展教育(ESD)の推進拠点として、研究・実践に取り組み、その成果を積極的に発信することを通じて、持続発展教育(ESD)の理念の普及に努めること。

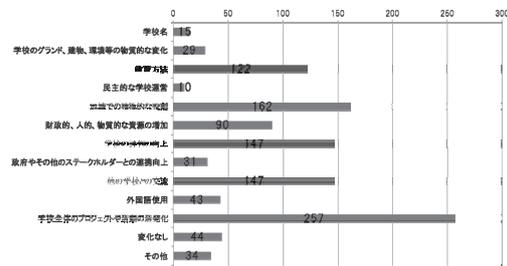
持続発展教育(ESD)とは、持続可能な社会づくりの担い手を育てる教育であり、その中には、国際理解、環境、多文化共生、人権、平和、開発、防災などテーマ・内容が含まれます。従って、持続発展教育(ESD)で取り上げるテーマ・内容は必ずしも新しいものではありません。むしろ、それらを持続発展教育(ESD)という新しい視点から捉え直すことにより、個別分野の取組に、持続可能な社会の構築という共通の目的を与え、具体的な活動の展開に明確な方向付けをするものです。また、それぞれの取組をお互いに結び付けることにより、既存の取組の一層の充実発展を図ることを可能にします。

持続発展教育(ESD)の実施においては、「人格の発達や、自律心、判断力、責任感などの人間性を育てること」や、「他人、社会、自然環境との関係性を認識し、関わり、つながりを尊重できる個人を育てること」の観点が重要です。

持続発展教育(ESD)の理念は、現行の教育振興基本計画(2008年7月策定)に盛り込まれていますし、学習指導要領(2008年、2009年公示)で示されている「生きる力」という理念にも通ずるものです。

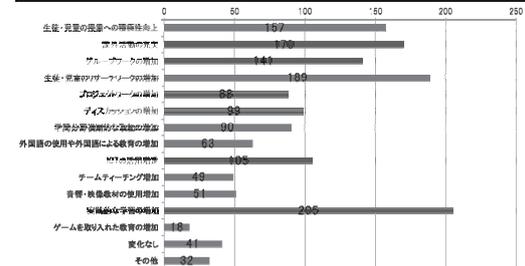
⑧ユネスコスクールアンケート

Q.ユネスコスクールに加盟した結果、学校等どのような変化が見られました?
(複数回答可)



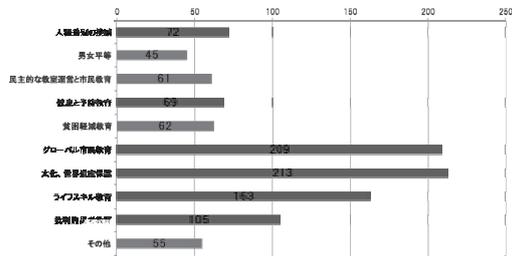
平成24年度実施 ユネスコスクールアンケートより

Q.ユネスコスクールに加盟した結果、教授方法にどのような変化が見られました?
(複数回答可)



平成24年度実施 ユネスコスクールアンケートより

Q.今後のユネスコスクールの活動について、特に重視するべきと考える分野を選択してください。(複数回答可)



平成24年度実施 ユネスコスクールアンケートより

23



⑨ユネスコスクール間の交流

■ ユネスコスクール全国大会

日程:平成25年12月1日(日)

開催地:東京都多摩市

テーマ:ESDのさらなる発展を目指して

-2014年ユネスコスクール世界大会を見据え

■ ユネスコスクール地域交流会in広島

日程:平成25年12月7日(土)

開催地:広島県広島市

24



Ⅲ ESDへの取組

1.日本/ユネスコパートナーシップ事業

日本ユネスコ国内委員会では、知的交流を通じた国際連合教育科学文化機関(以下「ユネスコ」という)に関する活動の更なる振興に取り組むこととしている。ユネスコの理念及び目的の実現に向けて、日本ユネスコ国内委員会が必要と考える事業を国内のユネスコ活動に関係のある機関及び民間団体等へ委託し、広く国民のユネスコ活動への参加の促進、更にはユネスコ活動の普及と理解の促進を図る。今年度は、持続可能な開発のための教育(ESD)の普及・促進のため2014年に行われる「持続可能な開発のための教育(ESD)に関するユネスコ会議」を見据えた活動の実施をテーマにし、審査委員会を経て委託事業者を選定した。

○2013年度主要な日本/ユネスコパートナーシップ事業

・ASPUUnivNet運営管理事業(国立大学法人岡山大学)

・ユネスコスクール地域交流交流会in広島(公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター)

・第5回ユネスコスクール全国大会(NPO法人日本持続発展教育推進フォーラム)

・ESDの10年・地球市民会議2013(「ESDの10年・世界の祭典」推進フォーラム)

・ESDに関するユネスコ世界会議「ユース・コンパレンス」に向けた国内の若者によるプレ・コンパレンス(ESD日本ユネスコ・コンパレンス)(公益財団法人五井平和財団)

25



2.日韓教職員交流

▶ 背景

2000年 日本政府による韓国初等中等教育教員の招へいを開始。

2005年 韓国政府による日本の教職員招へいを開始。

過去13年間で約2000名の教員が相互訪問。

2007年度より、ESDをテーマ

○2013年度 派遣プログラム 50名

▶ 目的

・両国の学校及び地域社会における持続可能な開発のための教育(ESD)と国際理解教育(EIU)の好事例を探る。

・教育経験を交換する機会を提供し、日韓両国の教育の質を高める。

・日韓教職員のネットワーク構築・強化に寄与する。



26



3. ESD日米教員交流

▶ 背景

日米両国政府(文部科学省と米国国務省)の共同提案により、2009年度開始ESDを共通のテーマに、日米教員間で相互交流、意見交換、共同研究参加者自身を取り組み、共同で大きなアウトプットを求められる参加型プログラム

○平成25年度 派遣プログラム 24名

招へいプログラム 24名

▶ 目的

・両国の教員交流推進により日米両国の相互理解と友好を促進する

・ESDをテーマに、地域の実例を知るとともに、意見交換、共同研究による日米の教育交流をはかる



27



4. SEAMEO(東南アジア教育大臣機構)-Japan ESD Award

▶ 2012年「SEAMEO-Japan ESD Award」を創設

▶ 東南アジア地域でESDに係るGP校を表彰、地域での交流を図る。

▶ 文部科学省とSEAMEOが共催。パートナーとしてユネスコ・バンコク事務所、SEAMEO各センターが参加

▶ 対象:SEAMEO加盟国内の小・中・高等学校

▶ 2013年 第2回受賞校(テーマ:Values Education)

第1位 サイディナ・ハサン中等学校(ブルネイ・ダルサラーム国)

事業名:環境に対する意識 3Rから6Rへ

第2位 サティア・サイ学校(タイ)

事業名:ヒューマン・バリュー教育プログラム

第3位 コタ・キナル市中等学校(マレーシア)

事業名:私たちはあなたに愛情をそそぐ

特別賞 ナンヌアンピッタヤン学校(タイ)

事業名:学校の森におけるハーブの伝統的知識の学習プロジェクトによる

思考能力の開発

28



IV 持続可能な開発のための教育(ESD) に関するユネスコ世界会議

- (1) 愛知県・名古屋市で開催される閣僚級会合
及び全体の取りまとめ会合
2014(平成26)年11月10日(月)から12日(水)
11月13日(木) 国内の関係者によるフォローアップ会合開催
- (2) 岡山市で開催される各種ステークホルダーの
主たる会合
- ①ユネスコスクール世界大会
2014(平成26)年11月6日(木)～8日(土)
- ②ユース・コンファレンス
2014(平成26)年11月7日(金)
- ③持続可能な開発のための教育に関する拠点の会議
2014(平成26)年11月4日(火)～7日(金)



29



■ ユネスコスクール世界大会の概要

「ユネスコスクール全国大会」、「Student(高校生)フォーラム」及び「教員フォーラム」の3つのフォーラムで構成される。

(主催:ユネスコ、文部科学省、日本ユネスコ国内委員会)

【Student(高校生)フォーラム】

日程 2014年11月6日(木)～7日(金)

参加者 1チーム5名(教員1名、Student(高校生:15～18歳)4名)
海外から33チーム165名(教員33名、高校生132名)、日本から9チーム 45名(教員 9名、高校生 36名)
合計 42チーム 210名(教員42名、高校生168名)

成果 * 参加者(高校生)が各国のユネスコスクールにおいて行われてきた国連持続可能な開発のための教育(ESD)の実践を発表、共有する。
* 各国の課題を踏まえ、共通の未来を創るために協働して取り組むことを確認し、宣言文をまとめる。
* その宣言は、ユネスコスクール全国大会のメッセージに添付し、愛知県名古屋市で開催される「国連持続可能な開発のための教育(ESD)に関するユネスコ世界会議」において、発表する。

【教員フォーラム】

日程 2014年11月7日(金)

参加者 上記Student(高校生)フォーラムに参加するチームの教員42名

【全国大会】

日程 2014年11月8日(土)

参加者 日本のユネスコスクールの教員、都道府県・市区町村教育委員会、ユネスコスクール協力者(企業、NGO/NPO、PTA、大学生、専門家など)、海外ユネスコスクール(教員フォーラム参加教員等)、ユネスコスクール支援大学間ネットワーク(ASP Univnet)

30



ご清聴ありがとうございます

jpnatcom@mext.go.jp

○日本ユネスコ国内委員会Webサイト <http://www.mext.go.jp/unesco/>

○ESDIに関するユネスコ世界会議Webサイト
<http://www.unesco.org/new/jpi/unesco-world-conference-on-esd-2014/>

○日本ユネスコ国内委員会Facebook <http://www.facebook.com/jpnatcom>

○ESD Facebook <https://www.facebook.com/esd.jpnatcom>



◆付録 6. 過去のプログラム実績

実施期間	開催地	訪問人数
2001年2月5日～24日	東京都、広島県、佐賀県、鹿児島県、京都府、奈良県	50名
2002年1月24日～2月5日	東京都、三重県、兵庫県、京都府、奈良県	50名
2003年1月15日～28日	東京都、山口県、鳥取県、香川県、宮崎県、大阪府、京都府、奈良県	98名
2004年1月29日～2月10日	東京都、北海道、静岡県、大分県、愛媛県、京都府、奈良県	100名
2005年1月19日～2月1日	東京都、北海道、福島県、兵庫県、鳥取県、大阪府、京都府、奈良県	99名
2006年1月11日～24日	東京都、北海道、滋賀県、鳥取県、熊本県、大阪府、京都府	98名
2007年1月23日～2月5日	東京都、北海道、兵庫県宝塚市、埼玉県さいたま市、奈良県、鹿児島県、大阪府、奈良県	159名
2008年1月22日～2月4日	東京都、群馬県、宮城県気仙沼市、兵庫県宝塚市、埼玉県さいたま市、秋田県、大阪府、京都府	158名
2009年2月3日～16日	東京都、福島県西郷村、埼玉県さいたま市、奈良県奈良市、高知県、熊本県、大阪府、京都府	148名
2010年1月12日～25日	東京都、宮城県気仙沼市、石川県金沢市、和歌山県、大阪府、大阪府豊中市、京都府	149名
2011年1月11日～24日	東京都、千葉県八千代市、京都府与謝野町、埼玉県さいたま市、千葉県、奈良県奈良市、大阪府	149名
2012年1月11日～22日	東京都、埼玉県さいたま市、京都府与謝野町、宮城県気仙沼市、岡山県岡山市、福岡県、大阪府	148名
2013年1月16日～27日	東京都、千葉県八千代市、和歌山県橋本市、石川県小松市、千葉県、福岡県、大阪府	144名
2014年1月19日～27日	東京都、奈良県奈良市、東京都稲城市、和歌山県橋本市、石川県小松市、大阪府	118名

●国際連合大学 2013-2014 年国際教育交流事業●

韓国教職員招へいプログラム

実施報告書

2014 年 3 月

編集・発行

公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター(ACCU)

〒162-8484

東京都新宿区袋町 6 番地 日本出版会館

電話 (03) 3269-4498

Email general@accu.or.jp

URL <http://www.accu.or.jp>

Printed in Japan by WACO Inc. [180]

©2014Asia-Pacific Cultural Centre for UNESCO (ACCU)